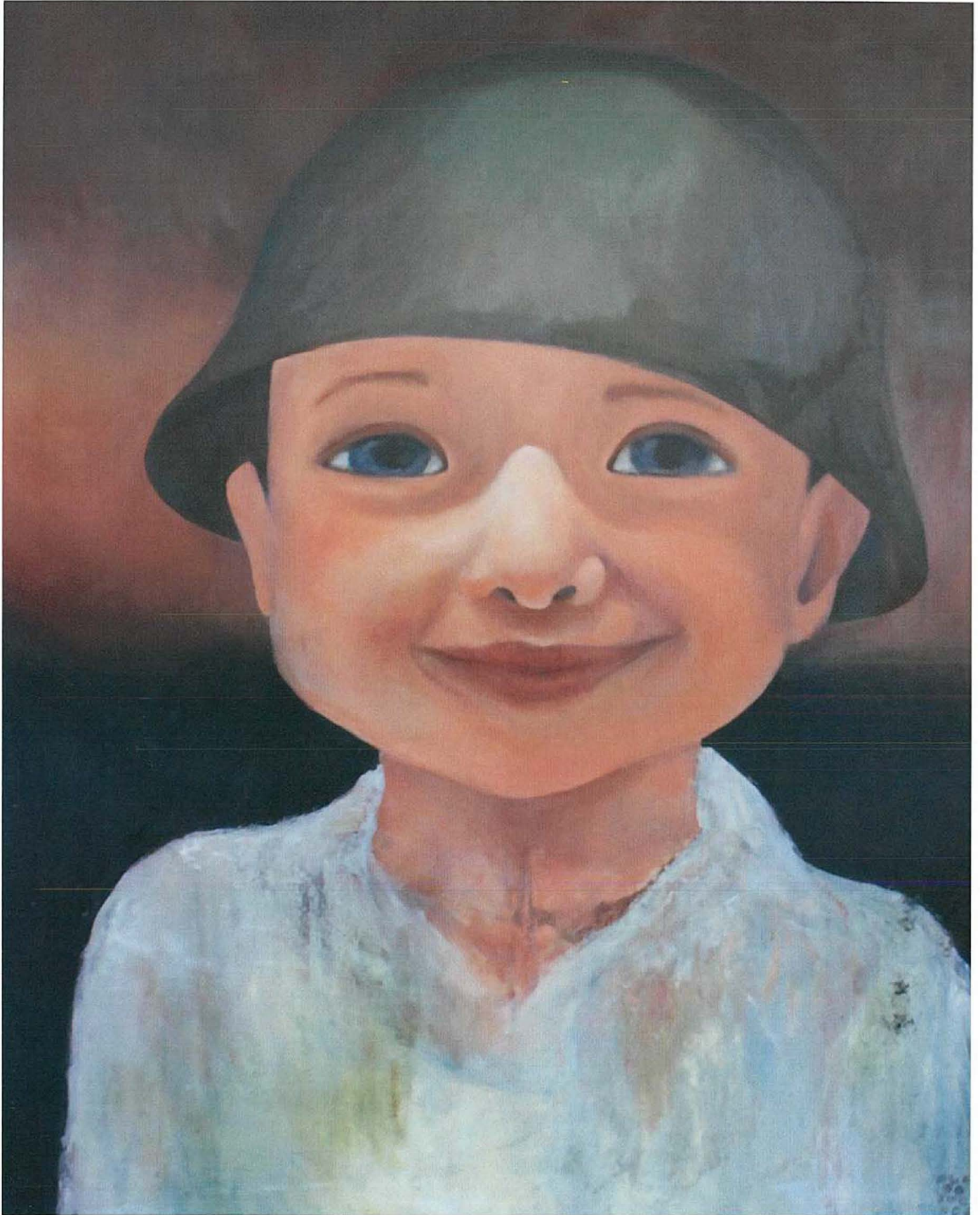


高文連

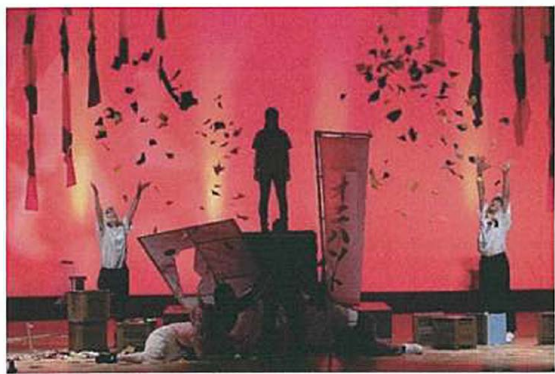


も く じ

山口県高等学校文化連盟の紹介	1
ごあいさつ	5
第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式・音楽4部門発表会の報告	6
各部門の報告	
演劇部門	8
合唱部門	13
吹奏楽部門	15
器楽・管弦楽部門	19
日本音楽・郷土芸能部門	21
吟詠剣詩舞部門	23
マーチングバンド・バトントワリング部門	24
美術・工芸部門	25
書道部門	28
写真部門	31
放送部門	34
囲碁部門	36
将棋部門	38
小倉百人一首かるた部門	42
新聞部門	46
文芸部門	47
自然科学部門	54
第48回全国高等学校総合文化祭清流の国ぎふ総文2024に参加して	57
第52回全国高等学校総合文化祭山口大会 令和6年度生徒準備委員会 活動報告	58
自主事業・補助事業の報告	60
参考資料	
令和6年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告	70
令和6年度 山口県高等学校文化連盟 会計決算書	71
令和7年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画	72
令和7年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書・調整基金会計予算書	73
山口県高等学校文化連盟規約	74
山口県高等学校文化連盟諸規程	77
山口県高等学校文化連盟表彰規程	78
山口県高等学校文化連盟旅費支給基準	79
令和6年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	80
令和7年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	81
全国高文連の歌	82

山口県高等学校文化連盟の紹介

【演劇】



【合唱】



【吹奏楽】



【器楽・管弦楽】



【日本音楽・郷土芸能】



【吟詠剣詩舞】



【マーチングバンド・バトントワリング】



【美術・工芸】



【書道】



【写真】



【放送】



【囲碁】



【将棋】



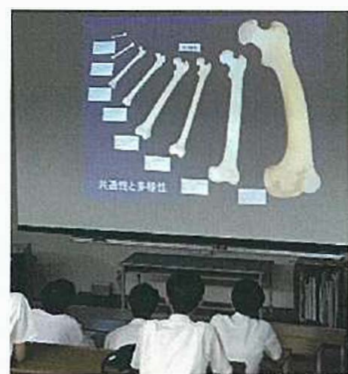
【小倉百人一首かるた】



【文芸】



【自然科学】





ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟

会 長 山 田 芳 彦

皆様の御理解と御協力のもと、ここに令和6年度の山口県高文連の歩みを記した集録が完成しましたことに深く感謝申し上げます。

本連盟は昭和62年6月に発足し、37年以上の歴史があります。その間、県内外の様々な文化・芸術活動への参加の拠点として、高校生の創造力の育成と豊かな心の醸成を支援してまいりました。高校時代の文化部活動への関わりが、人生の幅を広げ、人間関係やものの見方に大きな影響を与えることを鑑み、今後も、各学校の文化部活動をつなぐ役割を果たしながら、高校生の文化・芸術活動を支えてまいります。引き続き、御理解と御協力をお願い申し上げます。

今年度は、計画通り予定された諸事業に取り組むことができました。第46回山口県高等学校総合文化祭は「咲かせよう 創造の花 深めよう 文化の歴史」のテーマのもと、6月に防府市地域交流センターで盛大に総合開会式を行いました。式典後の慶祝演奏には演劇部門も参加し、慶祝公演として実施しました。また、慶祝展示も当初の計画通りに進めることができ、素晴らしい総合開会式となりました。開催にあたり、御尽力いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

各専門部の大会は、5月の小倉百人一首かるた部門を皮切りに、11月の美術・工芸、写真、書道部門まで、半年にわたって県内各地で開催されました。どの専門部においても、参加した生徒の皆さんは、日々の努力の成果を見事に披露してくれました。高校生の皆さんが、みずみずしい感性で自分らしい表現を追求し、創造性に満ちた「創造の花」を咲かせてくれました。

また、7月には第48回全国高等学校総合文化祭（岐阜大会）が開催され、本県からは14部門、25校、163名が参加しました。参加した生徒たちは持てる力を十分に発揮し、本県を代表するにふさわしい演奏や演技、作品展示を見せてくれました。全国のレベルを体感するとともに、他県の生徒たちとの交流が深まり、有意義な時間となりました。持ち帰った全国の風をそれぞれの活動に活かし、次年度の香川大会では、さらにより成果が発揮できるよう頑張ってもらいたいと願っています。

本連盟では、高校生が優れた文化や芸術に直接触れ合い、感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画し、希望の学校で開催しています。今後も、高校生の希望を取り入れつつ、より多くの学校に参加していただける文化・芸術活動を企画していきたいと考えていますので、ぜひ積極的に御活用ください。

令和10年度に全国高等学校総合文化祭が本県で開催されることが内定しました。この山口大会に向け、本県の文化・芸術活動が一層広がりを見せ、活性化していくことを期待しています。

結びに、日々熱心に御指導いただいております各学校の顧問の先生方をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後とも本連盟の活動に一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。発刊の御挨拶とさせていただきます。

総合開会式・音楽4部門発表会の報告

主管校 藤田 隆行
(山口県立防府西高等学校教諭)

総合開会式・音楽4部門発表会の記録

令和6年6月13日(木)～15日(土)、防府市地域交流センター(アスピラート)並びに三友サルビアホール(防府市公会堂)を会場に、「咲かせよう 創造の花 深めよう 文化の歴史」のテーマの下、第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式並びに音楽4部門発表会が開催された。

今年度は、総合開会式と音楽4部門発表会を別会場で開催することとなったが、総合開会式は山口県立防府西高等学校を主管校として、また音楽4部門発表会は山口県立防府高等学校を主管校として、山防・長北地区関係高等学校の協力により、無事に終えることができた。

6月13日(木)に防府市地域交流センター(アスピラート)を会場として開催された総合開会式では、福井唯人さん(防府西高校)の開会宣言と、防府市高等学校吹奏楽団によるファンファーレで幕を開けた。次に主催者を代表して山口県高等学校文化連盟会長及び山口県教育委員会教育長が挨拶を行い、続いて主管校である防府西高等学校生徒会長の徳山葉月さんが挨拶した。来賓として御臨席を賜った防府市の池田豊市長から歓迎のお言葉をいただき、来賓紹介を経て、優秀芸術文化賞、功績賞、テーマ最優秀賞の表彰を行った。その後、ナレーション入りのスライドにより、山口県高等学校文化連盟の演劇や器楽・管弦楽等、19部門からなる専門部紹介と、自主事業など山口県高文連の活動紹介を行った。

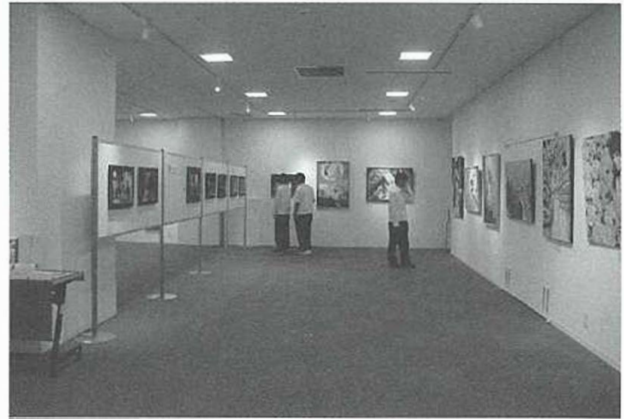


式典

慶祝公演は竹村みのりさん(防府西高校)の司会進行の下、日本音楽、演劇、マーチング、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽により行われた。日本音楽は、防府高等学校邦楽部が担当し、「氷華二題」の繊細かつ力強い響きで慶祝公演の幕を開けた。演劇は、県内3校の合同劇団が客席を効果的に使った演出で「し・あ・わ・せ・ま・す」を披露した。マーチングでは、山口県鴻城高等学校のカラーガードを伴った見事なフォーメーションに、会場からは大きな拍手が送られた。山口県高等学校合唱団による「明日のノート」「大地讃頌」は混声合唱の厚みを美しく響かせ、防府市高等学校吹奏楽団による「ボカホントス」は大迫力の熱演で、共に会場を圧倒した。山口県高等学校管弦楽団による交響詩「フィンランディア」は、県内各地から集まった高校生が奏でる壮大な音楽が会場を魅了した。最後の「翼をください」全員合唱では、バルコニー席から降り注ぐ合唱が会場を包み、大きな感動の中で総合開会式は幕を閉じた。



慶祝公演 全員合唱



慶祝展示

慶祝展示は、県内の高校生による、美術・工芸、書道、写真の作品と、演劇、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一首かるたの各専門部大会風景や活動写真のパネルが展示された。防府市地域交流センター（アスピラート）のギャラリーを会場として、3日間を通じて多くの来館者によって鑑賞された。

会場を三友サルビアホール（防府市公会堂）に替えて、6月14日（金）15日（土）の2日間にわたって開催された音楽4部門発表会では、県内の高校57団体、出演者総数1,499名が演奏・演技を披露した。いずれの団体も日頃の練習の成果を存分に発揮し、充実した時間となった。両日とも最後に、昨年より復活した「翼をください」を全員合唱し、ステージと客席が一体となる盛り上がりを見せた。

3日間を通して、平素の努力の成果を披露できる場であるとともに、高校生が生徒の芸術に触れることのできる貴重な機会であることを実感した。総合開会式、音楽4部門発表会の開催にあたり、御協力いただいた全ての方々に感謝申し上げる。

山口県高等学校文化祭 2024 協賛事業

咲かせよう 創造の花 深めよう 文化の歴史

第46回 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式 6月13日(木) 防府市地域交流センター (アスピラート) 観覧 6/13(木)～15(土)

祝賀行事 17時30分～19時30分 防府市立防府高等学校	文化祭入場券の取扱い 6月24日(水) 防府市立防府高等学校	音楽4部門 6月14日(金)～15日(土) 三友サルビアホール(防府市公会堂)	11月15日(土) 総合文化祭 6月15日(土) 三友サルビアホール
文芸部門 6月13日(木) 防府市立防府高等学校	囲碁部門 10月20日(土) 防府市立防府高等学校	演劇部門 10月24日(土)～27日(月) 防府市立防府高等学校	放送部門 11月27日(土) 防府市立防府高等学校
写真部門 17月30日(土)～10月1日(日) 防府市立防府高等学校	美術部門 11月24日(土)～10月1日(日) 防府市立防府高等学校	書道部門 11月15日(土)～17日(月) 防府市立防府高等学校	山口県高等学校文化祭 2024 防府市立防府高等学校

主催/山口県高等学校文化祭実行委員会・山口県・山口県教育委員会 協賛/山口県高等学校文化祭実行委員会

演劇部門

理事長 石田 千晶
(山口県立光高等学校教諭)

はじめに…

岐阜総文に参加した下関中等教育学校が、全国の演劇部の範となる学校に贈られる内本文英賞を受賞しました。指導者に頼らず、やりたいことをやり抜いた伸びやかな上演は、多くの演劇部員に勇気を与えてくれました。

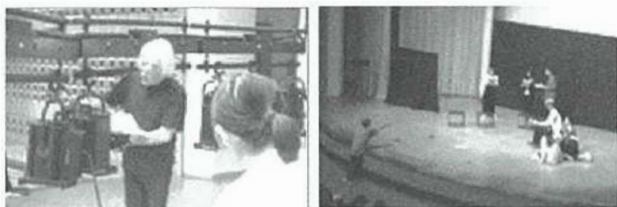
そして、下関中等教育学校の活躍に刺激を受けた山口県内の演劇部員たちは、昨年度を上回るすごい作品を創ってきました。11本中10本が創作。それも高校生が自ら気づいた問題について掘り下げた創作が多くありました。緩帳が下がったと思ったら再び上がる作品も複数、意表を突く展開、客いじり、どんでん返しや劇中劇中劇のような入れ子構造の作品もありました。審査員の先生方!「思いもよらないフレッシュな感覚で今を切り取った秀作の数々」とも、「昨年と比べても全体のレベルがとても上がった」とも言っていただきました。昨年度も「全国レベル」だと仰っていたのに、山口県のレベルアップはすごいです。審査も割れて苦勞されたようです。大会を制したのは、2006年に前身の防府商業が受賞して以来18年ぶりの防府商工と2013年以来11年ぶりの宇部中央です。

生徒講評も活発に討議しました。今年度は虚像と現実を描いた上演が多く、生徒講評委員は自分の経験と重ね合わせて、上演校が表現したかったものを台詞や演出を手懸りに深く考察しました。

HP「山口県高校演劇創作脚本集」に掲載された作品が全国各地で上演され好成績を上げています。

1 演劇講習会

2週連続で、のべ220名が参加しました。1週目は山口高校で劇団演劇街の柳沢悟先生に発声から演技・演出まで御指導いただき、オーディションでキャストが選ばれました。2週目は山口県教育会館で上演。照明の伊藤馨先生も加わって、吊り込みから当て方による照明効果の違い、上演の演出までご指導をいただきました。



2 総合開会式

6月13日(木)

<防府市地域交流センター(アスピラート)>

上演作品: 緋岡義作『し・あ・わ・せ・ま・す』 上演校: 光・防府商工・防府西 上演参加者 23名

地域ブランド「幸せます」をモチーフに台詞の最初の文字をすべて「し」「あ」「わ」「せ」「ま」「す」で始め、音楽、集団演技と合わせて、進路に迷い、自分が何者かわからず、孤独感に陥った高校生がささやかな出会いに救われる姿を描きました。上演の様子は以下のサイトで御覧いただけます。「し・あ・わ・せ・ま・す」https://youtu.be/WO42Ub_5JmGI



3 全国高等学校総合文化祭(ぎふ総文) 演劇部門

7月31日(水)～8月2日(金)

<不二羽島文化センター>

★内本文英賞・優良賞

山口県立下関中等教育学校

溝口歩美果作

『レベル1の勇者』

大人に頼らない完全な生徒創作。10代ならではの発想と破壊力で、会場を圧倒しました。「わがまは子どもの必殺技」でタイトル通り、全国大会で勇者となりました。

同世代の共感を呼ぶ作品の脚本創作を担当した溝口歩美果さんに全国大会で感じたことを寄稿してもらいました。



全国大会で感じたこと

下関中等教育学校 溝口歩美果

全国大会の3日間、数えきれないほどたくさんの方のことを学び、感じ、受け止めて来ました。

たくさん話し合い、練習を重ねた日々を信じて、不安と緊張が渦巻く中、私たちは幕を上げました。上演が始まると、あれだけ緊張していたことが嘘みたいに、楽しさでいっぱいでした。キラキラとまばゆい照明や響く音響、駆け回る役者達。そのどれもが、なんだか輝いていて、特別なような気がしました。幕を下ろした後、大きな拍手が会場を満たしたあの瞬間は、忘れられません。全国という大きな舞台に、下関中等演劇部で立つことが、こんなに幸せだとは思いませんでした。意見が食い違って衝突したり、思い悩んだりしたことは、決して無駄ではないと実感しました。

自分たちの上演を終えてから観劇をしました。「さすが全国大会」としか言いようがないほどのレベルの高さに圧倒されました。見たことも聞いたこともない演出の数々にワクワクし、個性豊かな役者の演技に引き込まれ、感動しました。この全国大会に参加できて、とても光栄でしたし、たくさん学びました。

すべての上演が終わった後、結果が発表されました。私たちは、内木文英賞を頂きました。しかし、上位4校に入ることは叶いませんでした。正直、すごく悔しかったです。東京公演を勝ち取り、もっと「下関中等演劇部はすごいんだ」「うちの部員はすごいんだ」と自慢したかったです。私たちの「レベル1の勇者」はここで終わるんだと思うと、どうしても寂しく感じました。ですが、間違いなく、楽しんで、はしゃいで、やりきった舞台でした。全国大会は、たくさん笑って、たくさん泣いて、いろんな気持ちを経験した、かけがえのない3日間でした。この3日間で一番強く感じたのは感謝と「演劇が好きだ」という気持ちです。ここまで来れたのは、私たち部員だけの力ではなく、支えてくださった顧問の先生方や、応援してくださった多くの方々のおかげだと改めて思いました。これからも感謝の気持ちと演劇愛を忘れずに、下関中等演劇部として、頑張っていこうと思います。関わってくださったすべての皆様、ほんとうにありがとうございました。

4 地区大会 ◎は最優秀 ※は創作

◇周防地区8月24日(火) ＜スターピアくだまつ展示ホール＞

審査員 柳沢悟(劇団演劇街)/中野志保(ユニット・ピコ)/大塚恵美子(梅光学院)

学校名	作品名(※は創作)	作者名
◎ 県立光高等学校	※ 我々等々ろぶそでい	練岡義/作
◎ 県立華陵高等学校	※ お化けだっているよ	華陵舞/作
◎ 県立岩国総合高等学校	教授試まであと七日	高場光春/作

生徒講師部門 伊藤梨乃亜(岩国高等学校)
紙野和心(岩国高等学校)

◇山防地区8月10日(土)＜山口南総合センター＞

審査員 柳沢悟(劇団演劇街)/REI・KO(スタジオ・レイ)/井上幸助(下関商業)

学校名	作品名(※は創作)	作者名
◎ 山口県鴻城高等学校	見えっぱり家族	高場光春/作 山口県鴻城高校演劇部/潤色
県立防府西高等学校	※ 生者の通道	防府西高校演劇部/作
県立西京高等学校	※ スタートライン	西京高校演劇部/作
◎ 県立防府商工高等学校	※ オニハット	防府商工高校演劇部/作
◎ 県立山口中央高等学校	※ セミシグレ	樹井春香/作
県立山口高等学校	※ Overcome	田中悠月/原案 山口高校演劇部/作

生徒講師部門 藤田純歌(山口高等学校) 柴田亜弥(防府西高等学校)

◇宇部地区8月10日(土)＜不二輸送機ホール＞

審査員 瀬戸口郁(文学座)/宮崎萌美(劇団シバイス代表)/大塚恵美子(梅光学院)

学校名	作品名(※は創作)	作者名
県立宇部高等学校	※ @校舎裏	林悠夏子/作 宇部高校演劇部/潤色
宇部フロンティア大学付属香川高等学校	※ ぼくらの答え	相星海紗/作
◎ 宇部鴻城高等学校	過去の顧問作品をやろうと思ったけど、今のうちのうちの部員じゃできないんじゃね？って思ってた作品は、創作か既成か問題	渚太陽/作
サビエル高等学校	※ 櫻日輪譚	サビエル高校演劇部/作 宇部高校演劇部/潤色
◎ 県立宇部中央高等学校	※ そのフィルターは 壊れない	三年梨月/原案 宇部中央高校演劇部/作

生徒講師部門 黒田梨緒(宇部高等学校)
佐藤圭奈(宇部フロンティア大学付属香川高等学校)

◇下関地区8月7日(水)・8日(木)＜下関市生涯学習プラザ＞

審査員 藤田典子(下関市民劇場)/中野志保(ユニット・ピコ)/原田多恵子(宇部)

学校名	作品名(※は創作)	作者名
県立下関西高等学校	スターゲイザー	白尾隼人/作 下関西高校演劇部/潤色
◎ 県立長府高等学校	※ マトリョーシカ feat.喜劇 ロミオとジュリエット	山下桃子/作
◎ 県立下関南高等学校	※ あぶの一まりてい!	夢咲ねが/作
梅光学院中学校・高等学校	※ 源家の大決戦 ～リターンズ～	おおつかえみこ/作 小川莉奈 大神彩乃 潤色
県立田部高等学校	※ それぞれの思い	田部高等学校演劇部/作
◎ 下関商業高等学校	※ GR～グランドファーマーリアリティー～	井上幸助/作

生徒講師部門 大神彩乃(梅光学院中学校・高等学校)
吉村悠(下関西高等学校)

5 県大会 第46回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)

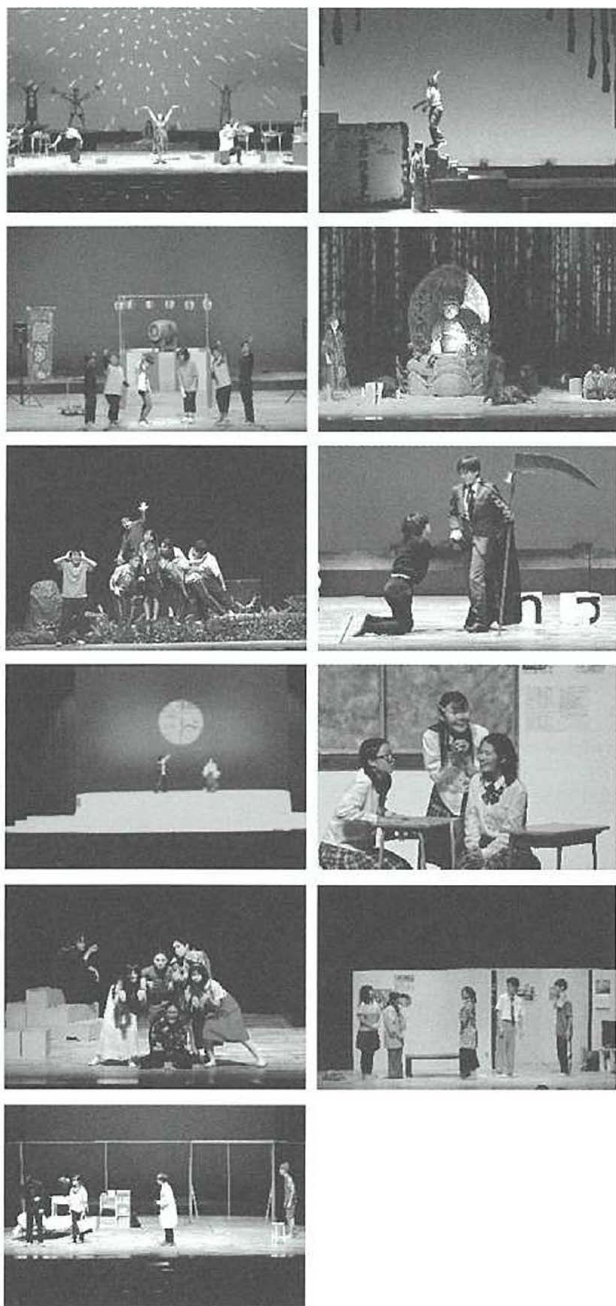
10月26日(土)・27日(日)＜下関市民会館大ホール＞

A:上演部門 ◎は最優秀賞(中国大会推薦) ○は優秀賞 第一席 ◇は創作脚本賞

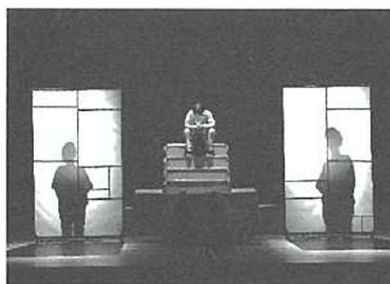
審査員:シライケイタ(演出家) 泊篤志(劇作家) 海原由樹(防府西)

学校名	作品名(※は創作)	作者名
県立下関中等教育学校	※せんせい、空に飛べました。	瀬口歩美果/作
◎ 県立防府商工高等学校	※オニハット	防府商工高校演劇部/作
宇部鴻城高等学校	過去の顧問作品をやろうと思ったけど、今のうちの部員じゃできないんじゃね？って思ってた作品は、創作か既成か問題	渚太陽/作
◇◎ 県立山口中央高等学校	※セミシグレ	樹井春香/作
県立光高等学校	※我々等々ろぶそでい	練岡義/作
県立下関南高等学校	※あぶの一まりてい!	夢咲ねが/作
県立長府高等学校	※マトリョーシカ feat.喜劇 ロミオとジュリエット	山下桃子/作
◎ 県立宇部中央高等学校	※そのフィルターは壊れない	三年梨月/原案 宇部中央高校演劇部/作
県立華陵高等学校	※お化けだっているよ	華陵舞/作
山口県鴻城高等学校	見えっぱり家族	高場光春/作 山口県鴻城高校演劇部/潤色
下関商業高等学校	※GR～グランドファーマーリアリティー～	井上幸助/作

B:生徒講師部門
最優秀賞 柴田亜弥(防府西高等学校) 佐藤圭奈(宇部フロンティア大学付属香川高等学校)



な人間を演じる2人がメインキャストに絡むことで主題を際立たせていくユニークな作品で、観客も「その正義は果たして本当に正義なのか?」と迫られました。引きこもるために隠れる桃、鬼ヶ島を彷彿させるごつごつとした陳列棚、船の形のレジカウンター、シーンによって様々なものに見立てられ、影を映し出し、裂かれる障子、吊るされた大量の布、角度を変える階段、様々な照明効果を駆使した世界の迫真の演技は観客を魅了しました。上演のあとも、語り合いたくなる深い作品でした。



★優良賞 中国高等学校演劇協議会会長賞
山口県立宇部中央高等学校
三年梨月原案 宇部中央高校演劇部作
『そのフィルターは盛れない』

6 中国大会 第62回中国地区高等学校演劇発表会

12月21日(土)・22日(日) <島根県民会館大ホール>

★優秀賞 松江市教育委員会教育長賞
山口県立防府商工高等学校
防府商工高校演劇部作
『オニハント』

防府商工高校が、『オニハント』で優秀賞を受賞しました。

ひきこもり、ゲーム漬けの日々を送る主人公のアルバイト先であるコンビニが、ある事件をきっかけに炎上。無実の罪を着せられてしまった憧れの先輩の名誉を挽回するために、原因をつくったクレマーの「氷鬼」、いい加減な後輩の「色鬼」、後輩と不倫する高圧的な店長の「高鬼」をSNSで吊るし上げることで「鬼退治」を果たします。しかし、鬼たちにも先輩にも隠された事実があり、諸悪の根源は実は憧れの先輩だったというどんでん返しにつながります。周囲の様々



宇部中央高校が、『そのフィルターは盛れない』で優良賞を受賞しました。Vtuberとして活躍しながらも、現実の世界では客姿に自信が無く、陰キャとして身を潜めて生きていた主人公が、陽キャで容姿端麗なクラスメイトに文化祭でダンスを披露しようと誘われることからドラマが展開します。ダンスの練習は充実していました。しかし、淡い恋心を抱い

ていた男子生徒が陰で自分の容姿を貶すのを聞き、主人公は自室にひきこもってしまいます。現実世界まで侵食し暴走する「Vtuber の自分」に主人公が殺されそうになったとき、容姿端麗なクラスメイトが救いにやってきます。そして彼女も容姿に悩み、死ぬよりはましだと整形した過去を持つことを明かすのです。自身の容姿にコンプレックスを抱きがちな十代の生徒たちに響く作品で、泣き出す生徒もいました。Vtuber の自分とリアルな自分が、ぴたりと声を合わせて苦しみを吐露するシーンには、激しい痛みが伝わってきて、心が抉られるようでした。

中国大会上演校の声

「今年の目標どうする？」

防府商工高校演劇部顧問 山崎寛久

着実にステップを踏みたい「県大会優秀賞第一席」派閥と、すごく響きの良い「中国大会出場」派閥の争いは、意外にも喧々諤々とはならず、わりとあっさり決着していたように思います。

毎年1～2月ごろに顧問の立場として目標を掲げようと促していました。それは抽象的なものではなく、「コンクール」における目標です。こう書くとすごく野暮に（中国大会の開会式に参加されていた方は特に）思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、すぐに言い訳をするのですが、決して「結果を出すこと」を求めていたわけではありません。知識もない、経験も浅い、そんな自分たちがただぼんやりとやっていても「自分たちが楽しむための作品」で終わってしまうだろうな、という危機感があったからです。やりたいことをやりたいようにやる。もちろんそれも一つの形だと思います。でもやっぱり…観劇してくださる方たちを精一杯感動させてほしい、どうやって心を震わせるかを追求して行ってほしい。そのためには、「コンクールという場で評価をされる」という明確な目標に向かって突き進んでいく方が良いのでは、と。「結果を求めようとする姿勢」でいることが巡り巡って、「見ている人を楽しませる作品を生み出す」ことにつながるのでは、と。

創作をすると決めた日から、そこら中で心がポキポキと折れる音が聞こえていました。ゾンビのように「意見出せえ」と言い合い、なんでもかんでも書き溜めたアイディアは気付けば Word 用紙 20 枚を超えました。そんな話し合いの中で、「簡単に悪者が生まれ、簡単に正義の味方が生まれる今の社会の雰囲気」を、部員たちは切実な問題として受け止めていました。傷付けられた誰かを守ろうとすることで、また誰かを傷付けてしまう。このままではダメなことは多分みんな何となく気付いている。じゃあ、「どうすればいい?」。そこにもっともっと向き合って、そして見ている人に問いかけていきたい。そういった方向性が部員の中で共通認識として浮かび上

がってきた結果、生まれたのが「オニハント」なのだと思います。上演後に多くの方が語り合ってくださっていたことを聞いた部員たちは本当にうれしそうでした。

「祝」と書き足した「中国大会出場」の大判用紙はなかなか刺がすことができませんでした。そろそろお別れをします。今年も変わらず四苦八苦、多くの方に喜んでいただける作品を作るために話し合いを始めていこうと思います。さて、「今年の目標どうする？」



中国大会で感じたこと

防府商工高校演劇部部长 田中結菜

今年度、目標としていた「中国大会出場」を果たし、本当に充実した時間を過ごすことができました。初めての挑戦、経験から多くのことを学びました。日々の練習から本番を迎えるまで、意見の食い違いや気持ちがすぐれ違うこともありましたが、部員で一致団結し支えあうことの大切さを実感しました。演技だけでなく、演劇そのものがチームワークに支えられていることを再認識しました。また、他校の演劇を観てレベルの高さに圧倒されました。初めてみる演出や工夫された舞台、大道具の使い方を見て「こんな風に演出をしたい!」と最後までワクワクしながら観ることができました。

すべての上演が終わった後、結果が発表され松江市教育委員会教育長賞をいただくことができました。結果を聞いたときはとても嬉しかったです。最後まで助け合い、楽しむことができ、最高の作品を作れたことは私たちにあって一生の思い出です。これからも演劇を通じて成長

し続け、次回の大会ではさらに良い成果を目指して努力していききたいと思います。

最後に、この貴重な経験を支えてくださった先生方や応援してくれた家族や友人、作品制作に携わってくださったすべての方々には本当に感謝しています。これからも素晴らしい演劇を届けられるように、一層の精進を重ねていきます。

中国大会に出場して

宇部中央高校演劇部部长 松浦彩和乃



私たち宇部中央高校演劇部は、11年ぶりの中国大会に出場することができました。昨年度は地区大会で敗退してしまい、県大会にも行くこともできず、非常に悔しい思いをしました。今年度は雪辱を果たすべく、台本の構成をいちから考え、高校生である私たちに身近で切実なテーマを設定し、観客の集中を切らさないような演出の工夫をして臨んだ結果、地区大会・県大会で最優秀賞をいただき、中国大会に進出することができて、とてもうれしかったです。

中国大会に向けて、宇部中央高校の良さである熱量や勢いのある演技を持続できるように練習を重ねました。スタッフは、県大会よりも背景をリアルなものにするために、大道具の黒板や窓を改良したり、パネルの角度を変更したりがんばりました。私個人としては、地区大会や県大会で、「声が高すぎるのが気になる」と指摘されたので、低い声が出せるように練習に励みました。県大会ではハプニングや失敗などが多々ありましたが、中国大会では今の宇部中央高校演劇部としてベストの上演ができたと思います。残念ながら、全国大会へと進むことは叶いませんでしたが、全力を出し切れたことで達成感を味わうことができました。

しかし、この中国大会で各校の素晴らしい上演を目の前で観て、そのレベルの高さに衝撃を受け、もっともっと練習をしなければならないと痛感しました。大会後、普段の練習メニューを見直しました。高いレベルで通用する地力を身につけることができるように、今は基礎を固めているところです。この体験を糧にして、来年度はもう一段レベルアップした宇部中央高校演劇部の姿をお

見せし、もう一度中国大会の舞台に立てるようにがんばります。

中国大会出場の2校から、熱い声をお届けしました。

中国大会後は、県内各地で、自主公演や合同公演が行われています。県内の演劇部員同士が、お互いの公演を訪問し合い、切磋琢磨を続けています。また、今年度の春季高等学校演劇研究大会は、隣の広島県福山市で開催されます。残念ながら、山口県からの出場は叶いませんでしたが、多くの演劇部員たちが観劇研修に行き、全国各地の演劇部員と交流したり、作劇や演出のヒントを学びとってくれるはずですよ。

市町村や山口県警察とコラボして、啓発上演を行ったり、PR動画の制作に携わったり、地元をPRするCMを創ったりして、地域に貢献する演劇部も複数ありました。

2028年に山口県で開催される全国高等学校総合文化祭に向けて、その運営を担う世代である中学生たちに、高校演劇大会や公演のフライヤーを届け、演劇の面白さを知ってもらう努力もしています。これまでの演劇部員たちが盛り上げてくれた演劇熱をつなげられるように、演劇専門部一同、さらなる精進を重ねていきます。

合唱部門

理事長 富川 沙輝
(山口県立萩高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟合唱部門では、今年度次のような事業を行いました。

1. 活動報告

(1)令和6年度 第46回山口県高等学校総合文化祭

開会式において慶祝演奏

- ・令和6年6月13日(木)
- ・曲目/「明日のノート」
“カンタータ＜土の歌＞より「大地讃頌」”
- ・山口県高等学校合唱団/9校 63名
- ・会場/防府市地域交流センター

(2)令和6年度 第46回山口県高等学校総合文化祭

音楽4部門発表会

- ・令和6年6月14日(金)、15日(土)
- ・合唱部門出演者/7校 106名
- ・会場/三友サルビアホール

(3)令和6年度山口県高等学校文化連盟

合唱部会及び研修会

- ・令和6年12月26日(木)
- ・出席者/部会長以下8名
- ・議題/県総文、全総文、高文連表彰などについて
- ・会場/山口県立萩高等学校 中会議室

(4)山口県高等学校合唱講習会

- ・令和6年5月25日(土)
- ・講師/三宅 悠太 先生(作曲家)
- ・内容/山口県総合文化祭慶祝演奏の合同練習
及び演奏技術向上のための講習会
- ・会場/山口県教育会館ホール

2. 山口県高等学校総合文化祭の記録

会場：防府市地域交流センター

令和6年度第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月13日(木)「防府市地域交流センター」にて盛大に開催されました。今年度も合唱部門単独での演奏で、3年生を中心に9校63名で合唱をしました。収容人数の関係で63名での合唱となりましたが、ステージに立つことができなかった1・2年生の想いも乗せて、会場いっぱいには伸びやかな歌声を響かせました。「明日のノート」では「明日のノートには何を描いてもよい、立派でなくてよい」というメッセージを込めて歌いました。表情豊かに表現する姿は、聴衆の方々の心にもしっかりと届いたことと思います。

慶祝演奏の最後には、オーケストラと「翼をください」を共演することができました。オーケストラとの共演は、弦楽器の美しい音色を聴きながら歌うという、とても貴重な経験になりました。また、合唱団は2階席やバルコニー席から歌ったことで、会場全体を包み込むような音色になったと思います。

翌日からの2日間で行われた音楽4部門の発表は、高校生の熱気あふれる演奏が続きました。今年度の合唱部門出演校は、7校106名であり、各校の個性あふれる演奏を披露しました。

コロナ前から合唱部門の生徒数の減少は深刻化していますが、この総合文化祭を1つのきっかけとし、合唱仲間が増えることを願っています。来年度も素晴らしい演奏を期待しています。



3. 全国高等学校総合文化祭の記録

山口高等学校 合唱部部長 笹川 愛結

第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」の合唱部門が、8月5日に可児市文化創造センターで開催されました。

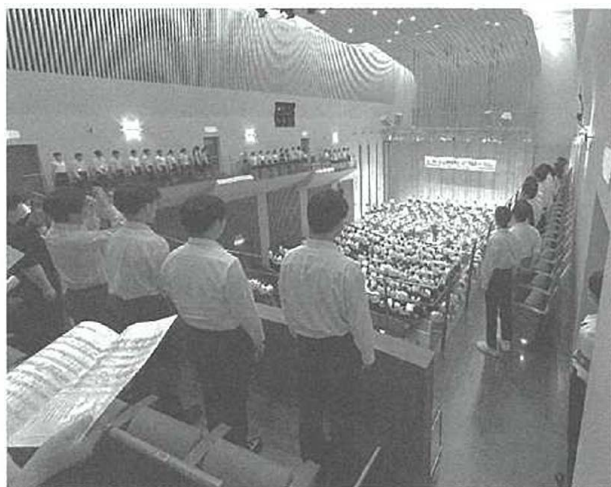
私たちは今回、征矢泰子作詞、森山至貴作曲の「治癒」という曲を演奏しました。4月からこの曲を練習し、曲の解釈を深めるために何度も考察を重ねました。その結果、岐阜のホールで私たちの思いを響かせることができ、非常に充実した演奏体験となりました。

また、本番前日の8月4日に行われた交流会では、全国の合唱部の高校生たちと親睦を深め、大人数での合唱を楽しむことができました。これにより、合唱への情熱が一層深まりました。そして、岐阜の高校生たちが他県から来た私たちのために多くの準備をしてくださったこと、明るい笑顔と挨拶で温かく迎えてくださったことに深く感謝しています。私たちがここまで楽しむことができたのは、大会のために尽力してくださった多くの方々のおかげです。

令和10年には山口県で第52回全国高等学校総合文化祭が開催されます。これまでの総文、今回の岐阜、そして香川、秋田、石川とつながっていくバトンを受け取り、山口大会も最大限に盛り上げたいと考えています。今回は本当にありがとうございました。

4. その他

今年度は、令和10年度に行われる「第52回全国高等学校総合文化祭山口大会」に向けて生徒準備委員会も発足するなど、いよいよ山口大会に向けて本格的な始動の年となりました。今後はプレ大会等も行われると思いますが、それらの活動を通して、合唱仲間・音楽仲間の輪が広がるようにと切に願っています。また、山口大会では全国から参加される高校生を、おもてなしの心でサポートできるように、合唱部会でも準備をしっかりと整えていきたいと思っています。



各部門の報告

吹奏楽部門

理事長 中 村 亮
(山口県立宇部高等学校 教諭)

1 令和6年度の吹奏楽専門部の活動報告

(1) 第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

式典におけるの慶祝演奏

- ・開催日 令和6年6月13日(木)
- ・会場 防府市地域交流センター 音楽ホール
- ・参加演奏 防府市高等学校吹奏楽団
(防府 防府西 防府商工 高川学園)

・演奏曲目・指揮者

【ファンファーレ】

「2つのプロセッション・ファンファーレ」(E. ハワース作曲)

< 指揮: 西村 正浩 (防府西高等学校) >



総合開会式 ファンファーレ 防府市高等学校吹奏楽団

【慶祝演奏】

「ボカホントス」より (A. メンケン 作曲・穴倉 晃 編曲)

< 指揮: 福田 亮 (防府高等学校) >



総合開会式 慶祝演奏 防府市高等学校吹奏楽団

(2) 第46回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

・第75回山口県高等学校連合音楽会

- ・開催日 令和6年6月14日(金)、15日(土)
- ・会場 三友サルビアホール 大ホール
- ・参加演奏 42団体 1,116名



音楽4部門 演奏 (西京高等学校、萩商工高等学校、萩高等学校)

(3) 第47回全国高等学校総合文化祭

- ・開催日 令和6年8月4日(日)、5日(月)
- ・会場 岐阜県羽島市
不二羽島文化センター スカイホール
- ・参加演奏 岩国総合高等学校(1日目 プログラム21番)
- ・演奏曲目 月に寄せる哀歌【吹奏楽版】
(松下 倫士 作曲)
フライ・ハイ (星出 尚志 作曲)
- ・指揮 小松 秀之 (岩国総合高等学校)

(4) 吹奏楽専門部総会・研修会

- ・開催日 令和6年11月26日(火)
- ・会場 山口県立宇部高等学校
会議室(総会会場)
コモンホール(研修会会場)
- ・参加人数 42名
- ・研修会題目 管楽器奏者の身体の使い方について
- ・研修会講師 中村 純子 先生(東京藝術大学 講師)
嵐田 紀子 先生(東京藝術大学 大学院生)

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

令和6年度第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月13日(木)に防府市地域交流センター 音楽ホールで開催されました。開会式典での慶祝公演では、山口県立防府高等学校 福田亮先生指揮、防府市各校吹奏楽部顧問の先生方御指導の下、防府 防府西 防府商工 高川学園、各高等学校の生徒約60名が、本専門部を代表して演奏いたしました。

本番では、17世紀初頭のアメリカを舞台とし、ディズニー映画としては珍しい実在の人物を取り上げた作品である「ボカホンタス」を披露いたしました。ボカホンタスが生きた時代と自身の心との間で起こる葛藤や、先住民と侵略者との争いなど、映画で取り扱われている楽曲の数々を情感豊かに演奏し、会場から大きな拍手を持って迎えられました。

また、6月14日(金)と15日(土)には、音楽4部門発表会を防府市公会堂 大ホールにて実施いたしました。この2日間で、42団体、1,116名が日頃の練習の成果を発揮し、立派な演奏を披露いたしました。この発表会を通して、同じ意識を持つ多くの仲間が存在に気づくとともに、新たな音楽表現を創造する意識が高まることを期待しています。

3 令和6年度 吹奏楽専門部研修会 報告

令和6年11月26日(火)、標記の研修会を宇部高等学校コモンホールで実施しました。

吹奏楽は文字どおり「吹」いて「奏」で「楽」器を軸に、音楽を作っていきます。今回の研修会は「身体の使い方が大切なのは理解しているが」、「正解が分からない」、「正しい方法で指導しているはずなのに成果が現れない」という吹奏楽部顧問が多いことをふまえて実施しました。

当日は、東京藝術大学で教鞭をとられ、理学療法士の資格をもつ中村純子先生と、同大学院生の嵐田紀子さんを講師にお迎えし、

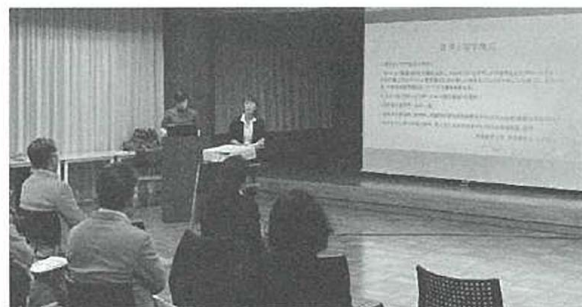
- ① 良い姿勢と悪い姿勢
- ② 姿勢が呼吸に与える影響
- ③ ①②が音に与える影響

の3点について、ご指導いただきました。

2時間半という限られた時間でしたが、先生方のトレーニングによって豊かになっていく奏者の音色や合奏のサウンドに、参加者一同、驚きと納得の連続でした。研修会終了後も、多くの参加者が先生方を囲み、学校現場の課題について熱心に相談している姿がとても印象に残りました。

また、モデルバンドとなった宇部高等学校吹奏楽部による集中力の高い演奏で、研修会をより有意義なものとすることができました。

吹奏楽専門部としては、今回の研修会がそれぞれの学校現場で活かされることで、山口県における吹奏楽活動がこれまで以上に充実したものになっていくことを願っています。



研修会の様子(モデルバンド:宇部高等学校吹奏楽部)

4 第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」 吹奏楽部門参加報告

山口県立岩国総合高等学校吹奏楽部 堀 心美

私たち岩国総合高等学校吹奏楽部は、「第48回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文2024 吹奏楽部門」に参加し、大会1日目の8月4日に吹奏楽コンクールの自由曲である「月に寄せる哀歌」と「フライ・ハイ」の2曲を演奏しました。

まず3日の移動日では、大会が開催される岐阜県羽島市の岐阜羽島駅で新幹線から降りて到着した際に、山口県高等学校文化連盟会長の山田校長先生と事務局長の上田先生が出迎えてくださって、私たちに激励のお言葉をかけてくださいました。見知らぬ土地で同じ県出身の方がいらっしやることは、安心感につながりました。

翌日4日の本番日は、午前中ホールの様子を視察することも含めて、他団体を鑑賞しました。そして午後から岐阜県立大垣養老高等学校をお借りして、練習をさせていただきました。そこでは、大会を運営する高校生の皆さんの丁寧で心温まる「おもてなし」を受け、とても感動しました。岐阜県の皆さんのあたたかいおもてなしのおかげで、ステージを成功におさめることができました。また演奏の直前に、私たち岩国市にある錦帯橋について紹介しました。このような大きな舞台は初めてでしたので、部員一同とても緊張していましたが、自分たちが今まで活動してきたことを信じて、自信を持って演奏することができました。また、今年は部員24名で全日本吹奏楽コンクール山口県大会の高等学校A部門にチャレンジして、県大会を突破することができ、中国大会に推薦していただきました。その勢いにも乗って、改めて山口県の代表として自覚を持ち、演奏をすることができたのだと思います。「月に寄せる哀歌」では、冒頭部分が静まり返った雰囲気から始まり、曲の雰囲気途中で目紛しく変わり、会場のお客様をこの曲の世界観に引き込めたような気がします。また、「フライ・ハイ」では、パートごとに振り付けを考えて楽しみながら演奏することができました。この曲の作曲者である星出尚志さんは山口県柳井市のご出身ということもあって、全国総文で山口県代表が演奏できる曲として相応しい曲なのではないかと思い選曲しました。演奏後は、出演する団体同士の交流会に参加しました。岐阜県高校生吹奏楽部門実行委員の皆さんのおかげもあり、たくさんの都道府県の方と交流を深めることができ、とても楽しい時間となりました。用意してくださったクイズに参加し、残念ながら入賞はできませんでしたが、とても楽しい時間を共有できました。

5日は、他県の高校や岐阜県高校生合同バンドの演奏を鑑賞しました。大編成の団体をたくさん聴く機会があまりなかつ

たので、全国各地から集まったさまざまな地域の演奏や演出を生で視聴することができてすごく勉強になりました。これからの私たちの活動のヒントをたくさん得ることができました。今回、全国高等学校総合文化祭という大きな舞台で演奏することになって、部員同士、選曲をはじめ演出などたくさんのことについて意見を出し合いました。その甲斐もあって、県代表として精一杯の演奏をお届けできたのではないかと思います。また、この全国総文を通して、改めて部員全員での仲を深めることが重要であると再認識しましたし、日頃小編成という少ない人数で活動しているので、大編成の演奏を鑑賞してたくさんの刺激を受けました。これから練習していく際に、基礎的なところからもっと磨いて、また今回のような素敵なステージで演奏できたら嬉しいです。この経験を無駄にせず、これからも聞いてくださる方の心を動かすような演奏を目指し、精進して参りたいと思います。

終わりにになりましたが、顧問の小松先生をはじめ、保護者の方、応援いただいている卒業生の皆様、山口県高等学校文化連盟の皆様、岐阜県の高校生実行委員や運営委員の先生など、私たちが全国総文へ出演するためにさまざまな御支援や御協力をいただいた全ての方に対し、部員一同心から厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。





岩国総合高等学校吹奏楽部

器楽・管弦楽部門

理事長 宮本 敬司
(山口県立柳井高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽専門部では今年度、次のような事業を行いました。

1 第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
慶祝演奏

期 日：令和6年6月13日(木)

会 場：防府市地域交流センター(アスピラート)

参 加 校：柳井高校、防府高校、山口中央高校、
山口高校、下関南高校

演奏曲目：J. シベリウス作曲

交響詩「フィンランディア」

指 揮 者：藤田 隆行(山口県立防府西高等学校)



山口県高等学校合同管弦楽団(高校2～3年生)



2 第46回山口県高等学校総合文化祭

音楽4部門発表会

期 日：令和6年6月14日(金)～15日(土)

会 場：三友サルビアホール(防府市公会堂)

演奏種目：管弦楽・弦楽合奏・ギター・マンドリン合奏

参加人数：284名(8校)

柳井高等学校弦楽部



3 第48回全国高等学校総合文化祭(2024 ぎふ総文)

期 日：令和6年8月4日(日)～8月5日(月)

会 場：長良川国際会議場

参 加 校：山口県立山口中央高等学校

演奏曲目：L.V. ベートーヴェン作曲

「交響曲第1番ハ長調作品21」より 第1楽章
Adagio molto -Allegro con brio

4 令和6年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

期 日：令和6年11月28日(木)

会 場：柳井高等学校 会議室

議 題：第43回器楽・管弦楽スプリングコンサート
(山口大会)について、県総文、全国総文参
加団体推薦、高文連表彰、令和10年度全
国総文(山口大会)に向けて など

5 第43回山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽
スプリングコンサート

期 日：令和7年3月27日(木)

会 場：山口市民会館

主 管 校：山口県立山口中央高等学校

演奏内容：部門所属7校による弦楽合奏・管弦楽・
ギター・マンドリン合奏の演奏
山口県高等学校合同管弦楽団

今年度の県総合文化祭の慶祝演奏については、2・3年生の合同管弦楽団を編成し、交響詩「フィンランディア」を演奏しました。器楽・管弦楽スプリングコンサートでの事前の指揮者練習もあり、その練習の成果を発揮した堂々とした素晴らしい演奏でした。続いて最後の全体合唱では「翼をください」を伴奏し、合唱団が2階席から歌うという演出となり、会場全体が一体となった新鮮な感動を味わうことができました。

本年度の「全国総文祭（岐阜大会）」は、本県代表の山口県立山口中央高等学校オーケストラ部が参加され、室内楽的な繊細な響きが会場全体を優しく包み込みました。来年度の「全国総文祭（香川大会）」については、山口県立山口高等学校管弦楽部が本県代表として参加する予定です。本県の器楽・管弦楽部門のレベルは高く、素晴らしい演奏をされることを大いに期待しています。また10月に福島県で開催されました「第13回日本学校合奏コンクール2024 全国大会グランドコンテスト」には、山口高等学校管弦楽部が昨年度に引き続き12年連続出場され最優秀賞を受賞し、全国2位に相当する特別賞「福島県教育長賞」を受賞しました。

3月には、山口市でスプリングコンサートを開催し、次年度県総文に向けた新2・3年生の合同オーケストラを編成し初練習も行いました。

第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」に参加して

山口県立山口中央高等学校オーケストラ部
永下 千遥

私たち山口県立山口中央高等学校オーケストラ部は「第48回全国高等学校総合文化祭清流の国ぎふ総文2024 器楽・管弦楽部門」に山口県代表として参加させていただきました。

朝早く新山口駅に集合し、ドキドキわくわくの中私たちの全国総文はスタートしました。新幹線と貸切バスを乗り継ぎ、練習会場である岐阜市民会館で上田先生と久しぶりに顔を合わせ、先生の指揮の下合奏練習を行いました。その練習に先立って、何のためにわざわざ岐阜まで演奏しに来たのかという問い掛けがありました。私たちは大会テーマである「集え青き春 漕ぎ出せ知の筏 水面煌めく清流の国へ」の「煌めく」に視点を置き、明日の本番の舞台で一人ひとりが輝くためにここまで来たのだという自覚を強く持ちながらその日の練習を終えました。

翌日、いよいよ本番の日がやってきました。会場である長良川国際会議場へ移動し、まずは他校の演奏を鑑賞しました。大人数の迫力ある演奏に圧倒されましたが、私たちは私たちにしかできない音楽を演奏しようという良い雰囲気の中、最終調整の音出しが始まりました。3年生にとってはこれが最後の大きなステージとなりま

す。ベートーベンの交響曲第1番は何度も演奏してきた曲ですが、これまでで最高の演奏ができるよう頑張って練習してきました。迎えた本番では一音一音大切に心を込めて演奏し、納得のいく演奏ができたと思います。演奏後は自分たちでも涙が出るくらい感動しました。これまで決して楽しいことばかりではなく、うまくいかないこと、つらいこともたくさんありましたがこの感動とともにすべての経験を一生の財産にしたいと思います。

今回このような全国の大舞台で演奏できたこと、また日々の活動ができるのも指導してくださる先生方や家族をはじめ、たくさんの方々のお陰だということを忘れないようにしたいと思います。そしてオーケストラは一人では絶対にできません。この高校生活の中で仲間とともに音楽できたことに心から感謝し、今後の人生の糧としていきます。全国総文の旅を最高の仲間と最高の演奏で、そして最高の笑顔で終えることができて幸せいっぱいです。



日本音楽・郷土芸能部門

理事長 森川 理恵
(柳井学園高等学校教諭)

1 活動報告

今年度は、「咲かせよう 創造の花 深めよう 文化の歴史」というテーマのもと山口県総合文化祭が開催されました。

演奏者にとって観客の前で演奏する緊張感や充実感は何物にも代えがたい経験となりました。県の発表会については、主管の山口県立岩国高等学校の皆様は学校を挙げてご協力いただき、各校発表の機会を得ることとなりました。

次のような事業を行いましたので、ここに報告いたします。

- (1)第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式式典
における慶祝演奏 於：アスピラート防府
参加校 山口県立防府高等学校 邦楽部
曲 目 「彩水」(吉崎 克彦作曲)



慶祝演奏リハーサル(山口県立防府高等学校)

- (2)第46回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・郷土
芸能専門部発表会

開催日 令和6年6月15日(土)

会 場 シンフォニア岩国

主管校 山口県立岩国高等学校

参加校 日本音楽9校 郷土芸能1校

講 評 安東 玄人 先生



開会宣言

(山口県立岩国高等学校生徒会長フェネロン 侑花)



日本音楽箏曲「六段の調」合奏

(下関短期大学付属・聖光・下関南・田布施農工・岩国)

- (3)日本音楽・郷土芸能専門部会

12月2日(月) 於：柳井学園高等学校

議題：県総文、全国総文

2 「山口県総文の主管校として」

山口県立岩国高等学校 箏部部長 松田 しおり

私たち岩国高校箏部は、六月十五日に行われた県総文に出場しました。部員のほとんどが初心者で、この大会が初舞台であり、大変心に残るものになりました。

大会で演奏したのは、大月宗明先生作曲の「光る風」という曲です。第一箏、第二箏はどちらも同じ調子ですが、それぞれリズムに特徴があるパートが長くお互いに入るタイミングが難しい曲です。合奏練習では、入るタイミングを合わせることを繰り返し行いました。自宅で自主練習してできるようになっても合奏するとうまくいかず悔しい思いを何度もしました。ある程度弾けるようになると、外部講師の先生から、「楽譜に書いてあることは守らなければならないけれど、他の所は演奏者に任せられているから、あなたたちで考えて曲作りをしていきなさい」というアドバイスをいただき、自分達で試行錯誤することになりました。大会当時の部長が、このような曲にしたいという思いや、抑揚を付けたい箇所を具体的に部員に伝えてくれました。部員も意見が一致し、目指す方向が決まりました。それからは不思議と息が合いやすくなり、心を込めて演奏することを心掛けるようになりました。大会当日の演奏前は緊張しましたが、いざ舞台上に立つと楽しさの方が勝りました。練習の成果を十分に発揮できたと思います。

他校の演奏を聴くことも良い経験になりました。略譜をしたり、大人数でも息のあった演奏を聴いて私も理想とする演奏に向けて技術を磨こうと思いました。

また、本校が大会の主管校であったことから、裏方の仕事にも携わりました。裏方の仕事は多岐にわたっていて、休日にも関わらず朝早くから岩国高校の先生方や有志の生徒が手伝ってくださいました。多くの方から支えられていることに改めて感謝しました。

本大会を通して、多くのことを学びました。これからも支えてくださる方々に感謝し、部員と共に地道に練習に励んでいきたいと思っています。



箏部顧問 徳本 裕紀枝

令和6年度県総文の主管を務めることになったものの、前年から箏部の顧問に就いたばかりで箏について何も知らない素人のため、大きな不安を抱えながら準備をすすめましたが、多くの方からの御助言・御助力により無事に県総文を開催することができました。支えてくださった皆様に大変感謝しております。

日本音楽・郷土芸能部門では、主管校に全国総文への出場権が与えられますが、本校琴部は、出場可能な部員数が2名であったためやむなく出場を辞退しました。その分、県総文では主管校としてより良い演奏をしたいという思いで、生徒や外部講師の長嶺先生と準備をしました。まずは、部員数の増加を目指し、4月の部活動勧誘を意欲的に行いました。勧誘のビラを配布したり、部活動紹介のビデオを工夫したり、見学者に琴の魅力を伝えたりしました。その結果、琴を演奏することに意欲的な生徒達が集まり、日頃の練習にも活気が出ました。1年生も県総文で演奏できるようになるために、ほぼ毎日練習をしました。長嶺先生から週1回御指導いただき、その他の日は、生徒同士で教え合いながら技術の上達を目指しましたが、完璧に演奏できるに至らず県総文当日を迎えた生徒もいました。1名しかいない3年生が、後輩を励ましながらいよいよ良い演奏を目指してリーダーシップを発揮してくれたため、お互いに支え合い高め合う雰囲気になり、部員全員で舞台上に立つことができました。舞台上で堂々と演奏し、練習の成果を十分に発揮した姿に、生徒たちこれまでの努力を思い感激しました。

この度、県総文の主管を務めていく中で、各学校で部員数の減少、それに伴う休部や廃部という状況が起きていることを知りました。多くの高校生が日本音楽や郷土芸能に携わることで、それらの魅力を発信し伝統を受け継ぐ機会が増えていくことを願っています。



岩国高校 箏部

吟詠剣詩舞部門

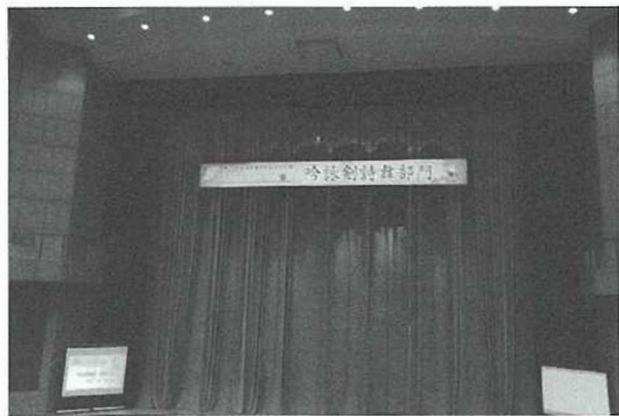
理事長 山口 知子
(山口県立下関中等教育学校教諭)

今年度から吟詠剣詩舞部門は令和10年度の山口県全国高等学校総合文化祭に向け活動を再開いたしました。令和6年度吟詠剣詩舞部門の活動について報告いたします。

1 吟詠剣詩舞とは

本部門の吟詠剣詩舞とは、山口県ではあまり馴染みのない部活動です。音だけを聞いて正確に漢字を思い浮かべることができる高校生も少ないのではないのでしょうか。実は吟詠剣詩舞は全国高等学校総合文化祭においては第一回の開催当時から連綿と続いている、歴史ある日本の伝統芸能を引き継ぐ部門の一つです。漢詩や和歌に描かれた情景や心情を、独特の節をつけて吟じる(歌う)「吟詠」や、吟詠に合わせて扇子を用いて優雅に舞う「詩舞」、日本刀を用いて力強く踊る「剣舞」。主にこの3つの総称を吟詠剣詩舞といいます。吟詠に合わせて書道を行う「書道吟」や花を生ける「華道吟」などの分野もあり、伝統文化に親しむ生徒たちによって今なお盛んに活動が行われています。

2 清流の国ぎふ総文 2024 視察



8月2日にココロかさなるCCNセンター(瑞穂市)にて開催された《第48回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文 2024》の視察を行いました。開催地である岐阜県や出演した生徒自らの出身県にまつわる演目が多く演じられており、山口県ともなじみ深い幕末の志士たちに関するものもありました。着付けなども自分たちで行うなど、生徒たちの日本文化への関わりや受け継ぐ誇りが息づいているようでした。パワーポイント資料などで分かりやすく地域や演目の説明を行うなど観客の方々への配慮が散りばめられた演目も多く、最小団体県は2名、最大団体県は24名と演者数に隔たりはありましたが、どの演目も工夫を凝らして吟じ演舞しており、観客席にもその熱意が伝わってきました。中でも、大分県高等学校文化連盟吟詠剣詩舞専門部さんは書道や

華道と吟詠を組み合わせたパフォーマンスを行い、生徒たちの日頃の取り組みの成果が感じられました。

3 令和7年度に向けて

令和7年度は下関地区と柳井地区の生徒たちが中心となり、いよいよ部門としての活動が再開されます。山口県総合文化祭を日本音楽・郷土芸能部門と協同開催し、かがわ総文祭 2025 にも参加予定です。どのような大会になるのか、期待が高まります。

写真は来年度出場を予定している生徒たち(柳井地区)が、今年度全国中学校総合文化祭山口大会に出場した様子です。



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 内田 良一
(山口県鴻城高等学校教諭)

令和6年度活動報告

1. 第46回山口県高等学校総合文化祭

総合開会式慶祝演奏

令和6年6月13日(木)防府市地域交流センター(アスピラート)で開催された総合開会式での式典慶祝演奏に、部門を代表して山口県鴻城高等学校吹奏楽部がマーチングで出演いたしました。

曲目は【MONTERO】、【VIVA LA VIDA】の2曲をマーチングで演奏演技いたしました。ステージで動く奏者とカラーガードを華やかに演技披露いたしました。



2. 第46回山口県高等学校総合文化祭

音楽4部門発表会

第73回山口県高等学校連合音楽会

令和6年6月14日(金)～6月15日(土)に三友サルビアホール(防府市公会堂)で開催された音楽4部門発表会に慶進高等学校がバトントワリングで出演し、【We Are Never Ever Getting Back Together】、【Hero】、【Barbie Dreams】の曲に乗せ、バトントワリングの演技を披露いたしました。



3. マーチングバンド・バトントワリング 部門研修会

令和6年8月と9月に山口県鴻城高等学校にてマーチング講習を行いました。講師にカラーガード 小川寛子先生、打楽器 大窪研二先生をお迎えし講習していただきました。



マーチングやバトントワリングの活動が更に発展していく為に、定期的な研修会を実施していきたいと思っています。また、マーチングやバトントワリングの活動を始めたい方は是非お問い合わせをお願いいたします。

美術・工芸部門

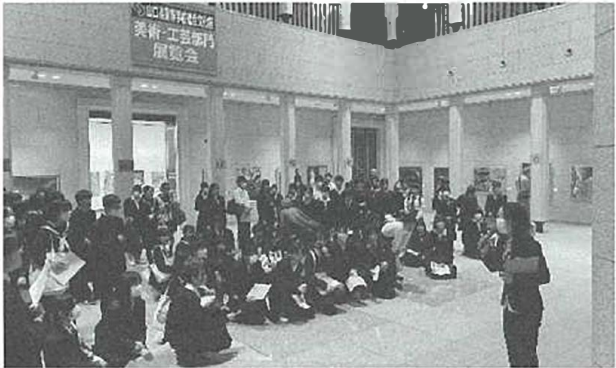
理事長 友廣 洋
(サビエル高等学校教頭)

令和6年度美術・工芸部門の活動について報告いたします。

1 第46回山口県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

11月15日（金）から17日（日）の3日間、下関市立美術館で開催しました。本年度の美術・工芸部門には県内32校から126点（平面124点、立体1点、映像1点）の出品がありました。本年度も質の高い作品が多く出品され、50号やB1といった出品規定最大サイズの作品が多かったです。審査で26点が優秀賞に選ばれ、さらにその中から6点が来年度の全国高等学校総合文化祭（2025かがわ総文）の出品候補作品として最優秀賞に選ばれました。また、奨励賞が10点選ばれました。

一昨年から、展覧会の最終日に鑑賞会を実施しています。6名程度のグループに分かれ、各自が会場の中から選んだ作品についてグループ内で感想を述べ合います。グループでの鑑賞会の後に、最優秀賞を中心に審査員による講評会を行いました。



最優秀賞（全国高校総文祭出品候補作品）

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	坂本 帆渚	2	マキシマリストの To Do リスト	F50 縦	絵画
岩国高等学校	玉渡 真大	2	龍城図	F50 横	絵画
防府西高等学校	伊勢田 汐音	2	視線	B 1 縦	絵画
防府西高等学校	尾上 麗翔	2	HIRAETH	B 1 横	絵画
長府高等学校	下野 真碧	2	羽 化	F50 縦	絵画
下関商業高等学校	原 悠太	2	今が運ぶ種	F50 横	絵画

優秀賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	新井 健太	3	秘密基地	F50 縦	絵画
岩国高等学校	三原 桃花	3	私と「好きの宝箱」	F50 横	絵画
岩国高等学校	貞光 咲智	2	風光明媚	F50 横	絵画
岩国総合高等学校	國嶋 ののか	3	彷徨	B 2 横	絵画
岩国総合高等学校	林山 七海	3	未来に思いをのせて	F50 縦	絵画
柳井高等学校	志熊 佳歩	2	努力の回転	F50 縦	絵画
光高等学校	岩本 美奈	2	虚妄の正義	F50 縦	絵画
下松高等学校	花岡 あかり	2	沈む	B 1 横	絵画
徳山高等学校	清田 すみれ	2	酔生夢死	F50 横	絵画
山口高等学校	村田 優子	3	空腹の幻想	F30 縦	絵画
山口高等学校	梅迫 千奈	3	災	B 1 横	デザイン
山口中央高等学校	前田 陽菜子	2	日常	B 1 横	絵画

宇部高等学校	近森 真奈	2	あの街の海月	B 2 縦	デザイン
下関南高等学校	横見 真央	2	今だけは	F50 縦	絵画
下関南高等学校	加藤 つばみ	2	ここは僕のテリトリー	F50 縦	絵画
下関商業高等学校	浦野 恭子	2	侵喰	B 1 縦	デザイン
下関商業高等学校	樋口 葉南佳	2	天翔	F50 横	絵画
下関商業高等学校	福嶋 華紗音	2	塗りつけられた言葉	F50 横	絵画
下関商業高等学校	鷺頭 響	2	覗君	F50 横	絵画
慶進高等学校	安田 恵望	2	日常と空想	F50 縦	絵画

奨励賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
光高等学校	松崎 百音	2	私の大切な国語の時間	B 1 縦	絵画
防府商工高等学校	福岡 花音	3	Dolly	P40 縦	絵画
山口高等学校	藤本 小春	2	My Favorite	F40 縦	絵画
宇部西高等学校	漆谷 真希	2	蛸足烈戦	F50 横	絵画
田部高等学校	武内 英里佳	2	未来へ進むクジラ	B 1 縦	絵画
長府高等学校	藤本 一徹	3	来なきゃよかった	B 2 縦	デザイン
下関南高等学校	吉村 美音	2	初めての交流	F50 縦	絵画
下関南高等学校	佐伯 和香	1	新しい家族	F50 縦	絵画
下関双葉高等学校	年光 獅紋	3	残骸	F50 縦	絵画
野田学園高等学校	デリーバ・ソフィー	2	Me	B 1 横	絵画

2 第48回全国高等学校総合文化祭(ぎふ総文祭)美術・工芸部門

本年度開催された全国総文は全国47都道府県の2巡目最初の開催地であり、7月31日(水)から8月4日(日)の5日間、全国の都道府県で選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像等402点の優秀作品が、岐阜県美術館と岐阜県図書館の2会場に展示されました。本県から出品した7点の作品は、作者の思いがしっかりと伝わり、技術的にも高いレベルのものばかりで、全国の作品の中でも充分に見応えのあるものとなっていました。

本県からの参加生徒は、大会2日目に全国の参加者との交流会に参加しました。5名程度のグループに分かれ、自分たちの作品についての鑑賞会と、岐阜にゆかりのある産業・工芸品を利用した「絵絹うちわ」、「美濃焼モザイクタイルペントレー」の制作等を体験しました。鑑賞会では、各県からの出品者と、作品についての意見交換などを行うことで、とても有意義な経験ができたようです。また、制作体験では、参加した皆が、それぞれ思いを込めて作品を制作していました。たくさんの刺激を受け、多様な価値観を目の当たりにし、今後の表現力を高めるきっかけになったことと思います。

以下、本県から参加した生徒の皆さんからの感想を紹介します。

山口県立岩国高等学校 3年 三原 桃花

題名「私」を創るもの」

私は、岐阜県で開催された第48回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門に山口県代表として参加しました。全国の高校生の作品をたくさん見



られる貴重な機会ですごくよかったです。県を越え全国の人たちと交流することができ、作品についていろいろ話をしたりして楽しかったです。これから絵を描くときにはこの経験を活かしたいと思います。

山口県立岩国総合高等学校 3年 中川 六花

題名「希望への旅路」

今年度、初めて全国総文祭へ参加させてもらうことが出来たのですが本当に素敵な思い出になりました!! 交流会は初めましての人ばかりで、ドキ



ドキだと思うのですが大丈夫です。会話を進めてくれる人がいます。上手にお喋り出来なくてもなんとかなります!! 新たな発見と、楽しい経験を沢山楽しんでほしいです!!

山口県立柳井高等学校 3年 佐野 舞華

題名「泡沫の中の私」

展覧会では全国の作品から奨励賞が何点か選ばれており講評会ではそれらの作品についての講師の先生の解説をきいて、私もさらに見方や考えを深めることができました。また、参加者の作品の実物を観ると本当に驚きの連続で表現のテクニックを沢山得ることができました。人生最初で最後の全国高等学校総合文化祭、参加出来て本当に良い体験となりました。



山口県立熊毛南高等学校 3年 林 友樹菜

題名「The Future」

作品制作交流で、同じ班になった生徒に自分が出品した作品について紹介する時間がありました。そこで私の絵を初めてみた人に、「今の向きと逆さまの向きの絵だと思った。」と言われました。その向きで見てみると、本来の向きより躍動感が感じられ、新たな発見をすることができました。色々な感性を持った人と出会い、貴重な体験ができる良い機会になったと思います。



山口県立徳山高等学校 3年 原田 菜歩

題名「素色」

全国総合文化祭では、同じ県の人はもちろん、他の地域の人ともたくさんの交流がありました。共通点は美術に関心があるというだけで、育った環境も方言も趣味も全く違う人たちとの交流は新鮮さに溢れていてとても楽しかったです。作品の裏話が聞けたのも総文ならではの思い出です。この先も絵を描き続けたいと思えた、とても素敵な経験でした！



山口県立長府高等学校 3年 岩本 将

題名「句句廻馳ノ剣」

私が今回特に印象に残っていることは交流会だ。初対面の人達と上手く話せるか不安だったが、皆美術に精通した高校生だったため親近感が湧き話し易かった。特に、自分と同じ立体作品を作った生徒とは木材加工の悩みや楽しさで通ずるところがあったため、シンパシーを感じた。全国だからこそ味わえるとても貴重な体験だった。



サビエル高等学校 3年 大原 まなか

題名「美しい星」

交流会では、全国の人たちと沢山、絵の話ができました。また、作品を制作することもできてとても充実した時間を過ごすことができました。これらは、私にとって、とても貴重な体験となりました。岐阜は、すごくいいところで、次の作品制作へのモチベーションが上がりました。



3 美術・工芸専門部連絡協議会および研修会

本年度の美術・工芸専門部連絡協議会および研修会は、サビエル高校で行いました。令和10年度の全国総文山口県開催に向けて、準備段階に入ったことを確認し、先催県である岐阜県からの情報を共有しました。また、生徒実技講習会や県総文の講評会、表彰の規定や県総文の出品点数、全国大会出場の点数などについて確認、協議を行いました。その他、生徒対象の実技講習会については、夏季休業中に山口大学教育学部美術教育選修の協力のもと昨年度に引き続き同大学で開催しました。来年度以降の開催についても、講習の時期や要領、実技講座の内容、他大学や作家等との連携の模索等、講習会の内容を充実させていくことが大切だと考えます。

今後、全国総文山口県開催を受けて様々なことを想定し、組織の構築、情報の収集と分析、協議を進め、多岐にわたる大会運営の策定、計画の立案、試行錯誤を積み上げて、本県での全国大会が素晴らしいものとなるよう努めていければと思います。

書道部門

理事長 鏡 証子
(山口県立美祢青嶺高等学校教諭)

1 県内活動の報告

- (1) 第46回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
慶祝展示 防府高校、山口高校、美祢青嶺高校、萩
商工高校、中村女子高校、萩光塩学院高
校 計15点

- (2) 第23回高文連書道部門生徒研修会
開催日 9月14日(土)、15日(日)
会 場 山口県セミナーパーク
内 容 共同作品制作
県総文出品作品錬成
参加数 6校66名

今回は共同作品として、ジュースラベルを制作しました。
県内各市の特徴からキャッチフレーズを考え、そこに特産品
をPRするラベルを考えました。県総文の錬成では、他校の
教員から指導を仰いだり鑑賞しあったりと古典にじっくり向
き合う時間となりました。



- (3) 第46回山口県高等学校総合文化祭
開催日 11月9日(土)～10日(日)

【展示の部】

会 場 おのだサンパーク
2階大催事場

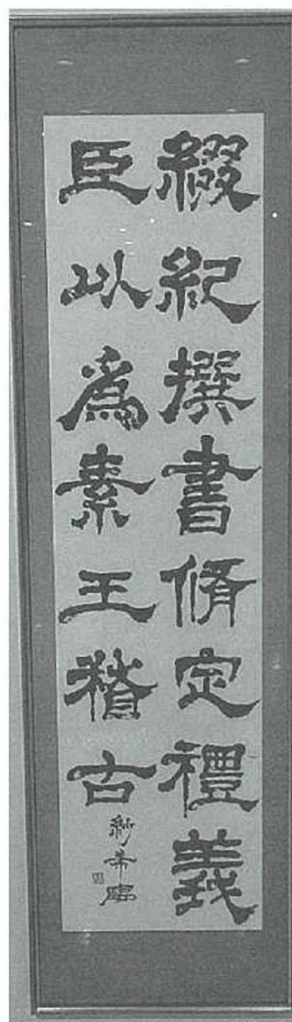
出品数 19校 77点

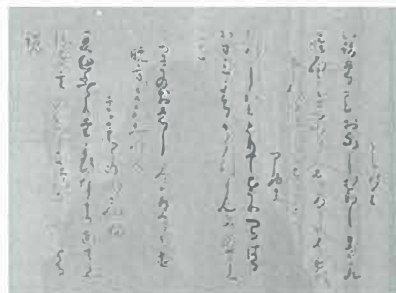
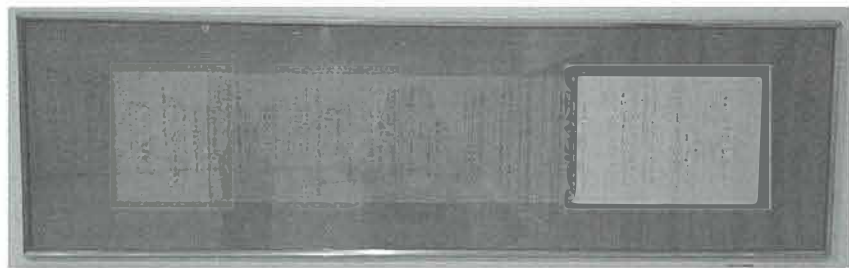
来場者 367名

【パフォーマンスの部】

会 場 おのだサンパーク
1階サンフェスタ広場

参加校 防府高校
下関西高校
萩光塩学院高校





《最優秀賞》

防府高校	2年	河村 紗希
山口高校	2年	年藤 優花
下関南高校	1年	末光 瑠羽香

《優秀賞》

防府高校	2年	柳 仁愛
山口高校	2年	今谷 洗斗
山口中央高校	2年	大野 佑奈
長府高校	2年	村枝 愛海
下関西高校	2年	伊藤 千沙都
下関西高校	2年	河野 夢叶
下関南高校	1年	河村 采
萩光塩学院高校	2年	西野 向日葵
早鞆高校	2年	徳永 紗希

《奨励賞》

岩国高校	2年	山本 実央
岩国総合高校	1年	角戸 奈南
徳山高校	1年	野間 彩音
美祢青嶺高校	3年	池永 凜
宇部西高校	2年	柴田 達輝
萩商工高校	3年	小田 果歩
下関商業高校	3年	玉江 香瑞樹
下関双葉高校	2年	石橋 杏実
下関中等教育学校	2年	金崎 茉央
中村女子高校	3年	浅川 由衣
野田学園高校	2年	田野岡 椿

2 第48回全国高校総合文化祭(岐阜大会)

下呂市にて書道部門の全国総文祭が開催されました。下呂交流会館には、各都道府県から出品された300点の作品と、岐阜県内の書道部員による作品が展示され、高校生の豊かな発想力には毎年圧倒されます。交流会では、他県の生徒と班になり、岐阜県産「東濃ひのき筆筒」・「美濃友禅和紙しおり」への揮毫をしました。開催県の特産品を使用した制作交流が定番となっており、引率教員間では、「令和10年の山口大会では何ができるだろうか…」といった会話もありました。

参加生徒感想

岐阜総文に参加して

山口高校 3年 久保真凜

まずは、全国高等学校総合文化祭(以下総文)に山口県代表として作品を出品させていただいたことを大変光栄に思います。総文のための作品制作では、一枚仕上げるのに時間がかかる細字の作品を完璧に仕上げるのができ、感謝の念に堪えません。

実際総文で全国から集まった猛者たちに作品を見て、レベルの高さに言葉を失いました。それぞれの書道への向き合い方が違い様々な視点で作品を鑑賞することができ、自分の書道の見方も変わりました。他県の代表者たちとの交流会では、ほかの人がどういうことに着目してその書に挑んだか、その作品の真の見どころはどこなのか、その人が何にこだわっているのか、みんな違うことを考えており、視野が広がりました。また、自分の作品をほかの人に説明することで、より自分の作品への理解が深まり、有意義な時間を過ごすことができました。他県の猛者に自分の作品、いわば努力の結晶を賞賛してもらって、やっと自分の書は全国に通用するのだと実感でき、書に対する意欲も向上しました。正直はじめは、「なんで交流会しなきゃいけないんだ、他県の人と話すとか気まずいだけじゃん…」とあまり乗り気ではなかった私ですが、書道に対して同じ熱量があるものどうし、話してみると打ち解けるのはすぐでした。普段あまりできない、隷書あるあるや細字あるあるなどの話ができて、控えめに言って最高でした。また機会があればこのような交流会にぜひとも参加したいです。総文に参加して、もちろん「全国すげえ…」と圧巻でしたが、それに加えて同じ趣味を持



つ者どうして語り合い、趣味の視野を広げて、豊かな感覚を育てることができたと思います。

高校の部活動は終わってしまいましたが、書道は続けるつもりなので、交流会でいただいた言葉を糧にさらに上の書道を目指そうと思います。さらに向こうへ、プルスウルトラ

「ぎふ総文に参加して」

宇部西高校2年 守永 瀬里菜

私が全国総文に参加して良かったと思ったことは二つあります。

一つ目は、書道に打ち込んでいる人がこんなにもたくさんいるのだということです。私は小学校の時に友達に誘われて習字を始めたのですが、多くの友達は高校入学前に辞めてしまい、私が通う書道教室に、高校生は私だけになっていました。また、さまざまな書道展なども見ていても、高校生の出品数は少ないように感じていました。ですから、漠然と、他の人たちもやはり高校生までは続けられないのかなと思っていました。しかし、大会に出場して、これほど多くの高校生が、全国大会出場という数少ない切符を手に入れるために努力を重ね、書道に真剣に取り組んでいることがわかり、とても嬉しく思いました。

二つ目は、私と同じ高校生の人たちが書いた300点もの素晴らしい作品が見られたことです。私が今まで書いたことのない系統の作品もたくさんあり、今後チャレンジしてみたいと思いました。

全国総文への参加は、私が今後も書道に向き合うための良い刺激になりました。



長府高校 3年 村上 遥夏

私は、岐阜総文に参加して、書道に対する思いや作品制作における取り組み方などさまざまなことを学びました。会場に入り、全国から選ばれた生徒の作品が目飛び込んできたときはワクワクが止まりませんでした。あのような広い会場で書道の作品を見るのは初めてで、約300点の作品をすべて見ましたが、同じ高校生が書いているとは思えないようなレベルの高さでした。なぜその古典を書いたのか一人一人それぞれに違う思いがあって、取り組み方など学べたので今後の作品制作において参考になりました。

当日の制作交流では、緊張していましたが、班のみんなが気さくに話しかけてくださってすぐに打ち解けることができ制作も楽しくできました。自分の作品に対する思いや製作意図も詳しく聞くことができ有意義な時間を過ごすことができ良かったです。これからも書道が続けていくにおいて良い刺激を受けた2日間でした。



写真部門

理事長 尾崎 勝利
(山口県立南陽工業高等学校教諭)

令和6年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1. 令和6年度第48回全国高等学校総合文化祭（清流の国さふ絵文2024）写真部門

全国高校総文写真部門は全国展・企画展が7月31日～8月4日の期間に、アテナ工業アリーナで行われました。各都道府県の代表作品が展示される全国展には、全国高校生の撮影した優れた作品が数多くあり、写真の取り組みに対する意識の高さが感じられ、見応えがあります。本県からも5点の作品が出品されました。なかでも南陽工業高等学校の斉藤ころろさんの作品「夫婦二人三脚」が、全国上位30点にあたる奨励賞を受賞しました。

2. 第46回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月8日（金）～11月10日（日）防府市地域交流センターにおいて県総文写真部門の作品審査・作品展示が行われました。今年度は10校85点の作品の応募がありました。ここ11年で参加学校数・生徒数ともに最も少ない参加でした。部員数や出品数は他県と比較してかなり少ない状況であり、今後の部員数の増加や活動の活性化に課題を残しています。今後は写真部・美術部の垣根を超えた写真の啓発により、写真部会の活性化ができればと考えています。また例年、審査員としてプロカメラマンである（社）日本写真家協会会員のタカオカ邦彦氏を迎え、プロによる評価・講評を続けています。今年度は審査の結果9点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文香川大会への出品候補作品となりました。11月10日の講評会ではタカオカ氏からののていねいな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

準備・運営に携わってくださった役員の先生方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。

3. 11月10日（日）に防府市地域交流センターに於いて、タカオカ邦彦氏による写真研修会があり、約50名の参加がありました。午前中は防府天満宮界隈の撮影会を行い、午後からは県総文祭作品の入賞作品講評会の後、参加生徒が撮影会で撮影した作品を講評する研修会を行いました。作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、生徒たちが講師からの講評・アドバイスを受けるという対話重視の研修を体験しました。

4. その他の活動

第31回全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園2024）の本戦出場校を決める中国ブロック審査会に出場できる5校に、本県からは南陽工業高校が選出されました。審査会の結果、南陽工業高校が選抜枠での写真甲子園本戦出場を決めました。北海道東川町での本戦大会では敢闘賞に終わりましたが600校を超える応募校中の18校に選出されたということは本県の高校生の写真のレベルが決して低くないということだと思います。

昨年度まで行われていた取り組みで、なくなったものが2つあります。1つが公益財団法人山口きらめき財団主催（県高文連共催）の「高校生のための写真講習会」、もう一つが、「周南市高校生写真大会」です。どちらの取り組みも主に予算の関係での取りやめですが、取り組みが始まった当初は、各開催者の意向は「当面続けていく」というもので、理事長も企画段階から話し合いに参加していました。高校生がプロカメラマンからの指導を受けることができる機会は金銭的な問題もあり、とても貴重であるため、突然の打ち切りの連絡があったり（周南市）、消極的であり具体的な話が進まない状況（山口きらめき財団）であることは大変残念です。予算の関係上、研修計画を年度途中で練り直すことは難しいです。部活動はあくまで教育活動の一環です。高校生の体験や学びを提供してくださることはありがたいのですが、もう少し長期的な視野に立った上での取り組み決定が望まれます。

5. 全国高等学校総合文化祭参加生徒の感想

[山口県立下松高等学校 3年 橋 歩乃佳]

第48回全国高等学校総合文化祭の写真部門に参加したことは、私にとってとても貴重な経験になりました。まず、参加者同士の交流会では、他校の高校生たちと意見を交わし合い、それぞれの作品に対する思いや技術を学ぶことができました。様々な視点やユーモアのある写真を見て、大きな刺激を受けました。

また、飛騨高山での撮影会では、美しい自然や歴史的な街並みを背景に、写真を撮影しました。特に、伝統的な祭りや地元の人々の暮らしを切り取ることで、その土地の魅力を感じることができました。カメラを通して見

える世界は、自分の思い描くものとは違っていて、新たな発見に満ちていました。さらに、被写体になってくださった方々とのコミュニケーションの大切さを、改めて実感しました。お話をすることで、相手の思いを知り、それが写真に反映されるのだと感じました。

これらの活動を通じて、写真が持つ力を改めて実感しました。人の心を動かす作品を創り出すためには、技術だけでなく、感情や物語を伝える力が必要だと学びました。私自身も、より深い視点を持ち、何を伝えたいのかを常に考えながら撮影に取り組みたいと思いました。これからも、自分の表現力を高めるために努力を続けていきたいです。

[山口県立下松高等学校 3年 松永 莉央]

第48回全国高等学校総合文化祭に参加して、様々な人との交流を通じて貴重な体験をすることができました。

交流会では、写真交換や岐阜県クイズ、アルバムづくりなどで他県の人たちと交流することができました。最初は緊張してあまり話せませんでしたが、同じ班の人たちが気さくに話しかけてくれて、すぐに打ち解けることができました。皆の住む県の話がとても新鮮で、とても楽しかったです。

2日目の自由行動では、飛騨高山の歴史ある街並みや朝市を回りながら撮影をしました。朝市では、訪れていた人たちに沢山話しかけ、いろんな話を聞くことができました。地元の名産品の話や、観光名所などを沢山教えていただいて、とても有意義な時間になりました。また、高山陣屋を訪れて岐阜の歴史に触れ、きれいな庭も見ることができました。そこでフランス人家族に声をかけ、英語で話をしました。焦ってしまいましたが、自分の英語が相手に通じると、やはりうれしかったです。そして、お昼ご飯に初めて食べた飛騨牛握りは、とても美味しかったです。

沢山の人と写真を通じて仲良くなったり、いろんなことを話したり、山口ではできない体験もたくさんしたりなど、有意義な三日間になりました。今回の体験を、今後の写真活動に活かしていきたいと思います。

[山口県立熊毛北高等学校 2年 杉村 心寧]

第48回全国高等学校総合文化祭に参加して、貴重な体験をすることができました。1日目の交流会では、写真交換や岐阜県クイズなどで他県の人たちと楽しく交流することができました。はじめは緊張していましたが、交流していくうちに一緒に笑いあえるくらい仲良くなることができました。

2日目の自由行動では、飛騨高山コースを選択し、観光地を回って朝市で働かれている地元の方々や、風景の写真を撮ることができました。声をかけると、皆さん快

く写真を撮らせてくださり、岐阜の方々の温かさに触れました。また、特産品を食べたり、お土産を買ったりと観光することもできて、とても楽しかったです。

他県の高校生と仲良くなり、これからはSNSでつながることができたり、同じ高校生が撮影した写真に多く触れることができたりしたことで、これからにつながるたくさんものを得られたと感じています。今回の経験を生かし、これからの写真撮影を頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

[山口県立熊毛北高等学校 2年 三家本 恭子]

第48回全国高等学校総合文化祭に参加して、貴重な体験をすることができました。1日目の撮影会では、他県の高校生と交流しながら、岐阜の写真を楽しみ撮影することができました。2日目の自由行動では、飛騨高山コースを選択しました。おいしいものを食べながら、伝統的な建物や、朝市の様子を撮影し、普段では経験できないことをたくさん経験できました。仲良くなった他県の子とも、たくさん話ができてよかったです。優しく声をかけてくださった地域の方もいらっしゃって、とてもうれしく思いました。

今回の経験を生かして、自分らしい写真が撮れるようになりたいと思います。ありがとうございました。

6. 令和7年度全国高等学校総合文化祭写真部門

出品候補作品



『Dryad』

山口県立下松高等学校 2年 下村 歩実



『本番はこれから』

山口県立熊毛北高等学校 1年 三浦 菜々子



『気配 (けはい)』

山口県立南陽工業高等学校 1年 斉藤 おとめ



『テスト終了☆』

山口県立防府高等学校 2年 山本 帆乃香



『ばあっ!』

山口県立下松高等学校 2年 渡邊 姫彩

放送部門

理事長 藤山 正和

(山口県立山口農業高等学校教諭)

1 第48回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文2024）

放送部門は、8月2日（金）、3日（土）の2日間の日程で、多治見市 パロー文化ホールを会場に開催されました。昨年11月の山口県大会で選出された生徒と作品が出場しました。どの出場者、出場作品ともに健闘しました。



《出場者・作品》（各部門エントリー番号順）

【アナウンス部門】

岡村 歩佳 （下関西高校3年）
山本 華子 （下松高校 2年）
竹本 さくら （下関西高校3年）

【朗読部門】

山崎 佳奈 （徳山高校3年）
横本 優莉 （徳山高校2年）
多田 妃葵 （光高校 3年）

【オーディオメッセージ部門】

ツムグ （高水高校）

【ビデオメッセージ部門】

ゴハンジャー （山口高校）
山口湯田温泉発！サステナブルな花づくり
（山口農業高校）

《出場生徒の声》

【アナウンス部門】

山本 華子さん （下松高校）

私はこのたび、ぎふ総文のアナウンス部門に参加しました。初めての全国大会を通して、貴重な経験をすることが出来ました。総文に向けて準備を始めたのは7月頃でした。私にとって、放送部に入部してから最初の大会だったので、新鮮な気持ちで制作に取りかかりました。県内外の高校生に下松市の何を伝えようかと考えたとき、思いついたのが「笠戸ひらめ」でした。魚が苦手な人でも食べやすく、ブランド化されている笠戸ひらめですが、出荷量のほ

とんどが下松市内で消費されているため、県外ではあまり知られていませんでした。取材をしたり、実食したりする中で、生産者の熱意やこだわりを実感し、より一層このひらめの魅力を伝えたいと思うようになりました。原稿を書き上げてからは、基礎の発声練習を徹底し、素直で印象的な読みになるよう練習を重ねました。全国大会への出場が決まってからは、より分かりやすく、より心に残るアナウンスになるよう工夫しました。大会本番はあまりに緊張して、頭が真っ白になりましたが、今まで自分が練習してきたことを信じて、堂々と発表することが出来ました。そして結果は、ブロック内で2位でした。私がこの順位をいただけたのは、顧問の先生をはじめ、周りの方々のサポートのおかげです。また、他校の生徒の発表を聞いて、新たな刺激を得ることが出来ました。洗練された原稿、伝わりやすい読み方など、聞き手の心をつかむ要素がたくさんあり、とても勉強になりました。この経験を糧に、さらに良いアナウンスができるよう、精進します。

2 第46回山口県高等学校総合文化祭第31回山口県高等学校放送部大会は、11月1日（土）に実施しました。参加数は、アナウンス部門18人、朗読部門26人、オーディオメッセージ部門4作品、ビデオメッセージ部門5作品でした。前日からの大雨で開催が危ぶまれましたが、予定通り実施することができました。

この大会の上位入賞者は、中国大会である令和7年2月1日（土）～2日（日）に開催される第10回中国地区高校放送コンテスト鳥取大会、並びに全国大会である令和7年7月30日（水）～31日（木）に開催される第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭2025）に参加します。



《結果》(各部門エントリー番号順)

【アナウンス部門】

最優秀賞	濱中 千寛	(高水高校2年)
優秀賞	入江 美優	(下関西高2年)
優秀賞	山本 華子	(下松高校2年)

以上3名 全国大会出場

入賞	山本 桜里杏	(徳山高校2年)
入賞	古市 凌華	(徳山高校2年)
入賞	中田 銀時	(下関西高校2年)
入賞	徳万 天音	(山口農業高校1年)
入賞	関本 茉莉	(高水高校2年)
入賞	上田 莉愛	(徳山高校1年)
入賞	前原 心春	(下松高校1年)

以上計10名 中国大会出場

【朗読部門】

最優秀賞	三輪 千裕	(山口高校2年)
優秀賞	吉行 凛華	(山口高校2年)
優秀賞	中村 有希	(柳井高校2年)

以上3名 全国大会出場

入賞	荒巻 嵩士	(下関西高校2年)
入賞	船原 菜寿	(柳井高校2年)
入賞	横本 優莉	(徳山高校2年)
入賞	小野 遥	(徳山高校1年)
入賞	井上 菜紀	(山口高校1年)
入賞	宝迫 柚希	(下松高校1年)
入賞	藤高 仁	(高水高校2年)

以上計10名 中国大会出場

【オーディオメッセージ部門】

最優秀賞	「琴線に触れる」	(高水高校)
------	----------	--------

以上1作品 全国大会出場

入賞	「箴」	(光高校)
入賞	「A bridge to the future」	(岩国高校)

以上計3作品 中国大会出場

【ビデオメッセージ部門】

最優秀賞	「命の授業～学校とニワトリと私～」	(山口農業高校)
------	-------------------	----------

優秀賞	「人生の先生」	(光高校)
-----	---------	-------

以上2作品 全国大会出場

入賞	「美川町のムー大陸」	(岩国高校)
入賞	「Sound Delivery」	(豊浦高校)
入賞	「消防署発! ホースのリサイクル術」	(下松高校)

以上計5作品 中国大会出場

3 おわりに

今年度から全ての大会においてコロナ禍後の大会ということで運営を行いました。何もかもコロナ禍前に戻すことは難しいですが、県内の放送部員同士が繋がりを持つ時間は、以前にも増して多く設定しました。

コロナ禍で活用したオンラインを併用しながら、今年度は5回の研修会を実施しました。今後もこのような機会を設定していきたいと思います。

全国大会も3年後に迫っています。学校再編や生徒数の減少で、部員数も減少していますが、一人でも多くの生徒に放送の魅力が伝わるような活動を行っていくことが、全国大会の準備にも繋がると考えています。

ここ数年で放送に関する技術や制作に関するルールも大きく変化しています。変わらないことは、相手に伝えるということです。毎年大会で審査をお願いしている先生から「放送部を選んでよかったと思ってください」という話を講評の際にいただきました。それは、誰かに自分の思いを伝えることは、高校生活の間だけではなく一生行っていくものだからです。今後も一人でも多くの人に、放送部の魅力が伝わるような活動をしていきたいと思っています。

囲碁部門

理事長 齊藤 禎
(山口県立徳山高等学校教諭)

<令和6年度の主な活動報告>

1 囲碁研修大会

期日：7月7日(日)

場所：徳山高等学校

指導：日本棋院プロ棋士 山本賢太郎



(研修大会・指導碁)

2 第48回全国高等学校総合文化祭囲碁部門

期日：8月4日(日)・5日(月)

場所：岐阜県高山市、飛騨・世界生活文化センター

参加者は6局を打ち、盤上の熱戦を繰り広げました。

大会は、団体戦(男女混成3名の各県代表チーム)と男女個人戦(各1名の各県代表)で行われました。山口県チームは、前年10月の県総文祭の上位入賞者が代表となって出場しました。大会での順位付けは、団体戦・個人戦ともに、勝者同士・敗者同士を対局させて、2日間で6局の各対局相手の勝敗も加味して順位を決めるスイス方式で行われました。参加した代表生徒はそれぞれに力を出し切りました。また、コロナ禍もひと段落付き、全国の高校生との交流も楽しんでいました。



(全国総文)

<出場者と成績>

〈団体戦〉(男女混成3名) 2勝4敗34位

加藤 仙照(山口)

西本 琉晟(山口)

森野 愛彩(防府)

〈個人戦〉(男女各1名)

男子 岩本 壮平(山口) 2勝4敗43位

女子 中村 芽(下関西) 3勝3敗30位

3 第46回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門

第36回大会

期日：10月20日（日）

場所：徳山高等学校

参加校は6校で、30名の生徒が参加しました。この大会は、来年度香川県で開催される第49回全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会の県代表と今年度鳥取県で開催される第28回中国高等学校囲碁選手権大会の県代表を決定するものです。参加生徒は全部で4局を打ち、スイス方式によって順位を決め、その結果で、男子個人戦上位3名と女子個人戦上位2名が全国大会に出場することになります。

〈大会結果〉

男子団体 優勝 山口県立山口高等学校
 男子個人 優勝 有吉 遼（宇部）
 準優勝 國富 耕作（徳山）
 第3位 加藤 仙照（山口）
 女子団体 優勝 山口県立宇部高等学校
 女子個人 優勝 中村 冴（下関西）
 準優勝 岡崎 愛依（山口）



（県高総文）

4 第28回中国高等学校囲碁選手権大会

期日：12月21日（土）・22日（日）

場所：鳥取県倉吉市・倉吉文化体育会館

中国各県から80名近い選手が参加し、盤上の激戦を展開しました。山口県からは、男子団体戦に山口高校、女子団体戦に宇部高校、男子個人戦に県予選の上位6名、女子個人戦に上位4名、合計で16名の選手が出場しました。

〈入賞者と成績〉

〈団体戦〉

男子 山口高等学校 1勝3敗4位

女子 宇部高等学校 0勝4敗4位

〈個人戦〉

女子 中村 冴（下関西） 優勝

岡崎 愛依（山口） 準優勝

男子 國富 耕作（徳山） 4位

※中村さん、岡崎さんは、3月22日（土）・23日（日）

に大阪商業大学で行われる第19回全国高等学校囲碁選抜大会に出場が決定しています。



（中国大会）

将棋部門

理事長 山下 和希
(山口県立防府高等学校教諭)

第46回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会
第60回全国高等学校将棋選手権大会山口県予選
令和6年5月25日(土)～26日(日)
防府市文化福祉会館

男子団体20チーム66名、女子団体2チーム6名、男子個人85名、女子個人7名、計12校のべ93人が参加し、全国高等学校総合文化祭への出場権をかけて、熱戦を繰り広げました。

【大会1日目 団体戦】

男子団体

優勝 防府高校B (益田・生田・中野)
準優勝 徳山高校A (金谷・穂山・橋本)
3位 防府高校A (小林・中谷・岩本)
3位 下関工科高校 (米田・三元・松谷)

女子団体

優勝 下関西高校 (中村・納富・山本)



【大会2日目 個人戦】

男子個人

優勝 小林 真人 (防府 2年)
準優勝 竹澤 陽希 (誠英 3年)
3位 松谷 駿也 (下関工科 3年)
3位 竹重 和輝 (下松 3年)

女子個人

優勝 田村 莉子 (防府商工 3年)
準優勝 森野 愛彩 (防府 3年)
3位 町田有里恵 (防府 3年)



第48回全国高等学校総合文化祭将棋部門

(ぎふ総文)

第60回全国高等学校将棋選手権大会

令和6年8月1日(木)～2日(金)

飛騨・世界生活文化センター

山口県総合文化祭で優秀な成績を収めた選手が全国総合文化祭に出場しました。対局後はプロ棋士に指導対局を受けるなどして、充実した時間を過ごしました。山口県の選手が自由対局会場で始めた「7秒将棋」が他県の選手の目に留まり、「僕とも7秒将棋で対局してくれませんか?」と声を掛けていただく一幕があり、都道府県の枠を超えて選手どうしが将棋を通じてつながっていきました。

【出場選手】

団体戦：男子…防府高校(益田・生田・中野)

女子…下関西高校(山本・中村・納富)

個人戦：男子…小林(防府2年)

竹澤(誠英3年)

女子…田村(防商3年)

森野(防府3年)



【団体の部 結果】

男子団体…防府高校 1勝3敗 予選敗退

女子団体…下関西高校 2勝2敗 予選敗退

【個人の部 結果】

男子個人…小林 3勝1敗 予選通過

決勝トーナメント1回戦敗退(ベスト32)

竹澤 0勝4敗 予選敗退

女子個人…田村 2勝2敗 予選敗退

森野 0勝4敗 予選敗退



**第29回山口県高等学校将棋新人大会 兼
山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会**
令和6年11月3日（日）
KDDI 維新ホール

男子個人戦では7校から51名、女子個人戦では3校から5名が参加しました。本大会では、初の試みとして、決勝戦の対局をICTを活用して、別会場に中継することで、審判員による大盤解説会を実施しました。観戦者が最善手を考察し、学校の枠を超えて選手どうしが議論を交わす場にすることができました。

男子個人 入賞者

優勝 小林 真人（防 府 2年）
準優勝 藤澤 寛慶（慶 進 1年）
3 位 中谷 祐紀（防 府 2年）
3 位 吉村恭一郎（下関西 1年）
5 位 河野 遥生（防 府 1年）
5 位 橋本 唯温（徳 山 2年）
5 位 桑嶋 慶輝（徳 山 1年）
5 位 山中 優（慶 進 1年）

女子個人 入賞者

優勝 中村 芽（下関西 2年）
準優勝 山本亜利紗（下関西 1年）
3 位 西村 清良（防 府 2年）
（上記選手は中国大会に出場）



【出場者にインタビュー】

防府高校 2年
中谷 祐紀

新人大会に向けて、部員どうしでとにかく実践（対局）をするように意識しました。「勝ちたい」という思いをもって対局会場に入りましたが、対局直前は緊張しました。対局が始まると、楽しく対局することができましたが、準決勝では実力を出し切れずに負けてしまったことが悔しかったです。来年の総合文化祭ではもっと良い順位で入賞できるように、棋書を読み、詰将棋を解くなどして棋力を向上させていきたいです。



第23回中国地区高等学校将棋選手権大会

令和6年12月14日（土）～15日（日）

山口県立徳山高等学校

本年度は、山口県での開催となりました。中国地区各県の代表選手との対局を通じて、選手の棋力向上と連携強化を図りました。対局後の感想戦では、男女分け隔てなく、最善手を考察する場面が見られました。

女子個人 入賞者

第6位 西村 清良（防府 2年）

【出場者にインタビュー】

防府高校 2年

西村 清良

中国大会に向けて、先生や部員に教えてもらったことを何度も繰り返して復習しました。会場に到着すると強そうな選手がたくさん居て、緊張しました。実際に対局してみると、実際に強い選手ばかりで、対策を知らなかった中飛車を指されたときには、どうしたらいいのかわからなくなってしまいました。だけど、第6位に入賞できるとわかったときは嬉しくて、頑張って練習して良かったと思えました。来年はさらに練習してよりよい順位に入賞できるように頑張りたいです。



第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

令和7年2月1日（金）～2日（日）

長崎県立総合体育館

第29回山口県高等学校将棋新人大会 兼 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会で優秀な成績を収めた選手が出場しました。棋力の高い選手が多く、決勝トーナメント進出はなりませんでした。感想戦を通じて棋力を高め、選手どうしがコミュニケーションをとり、親睦を深めることができました。

【出場選手】

男子個人…小林 真人（防 府 2年）

藤澤 寛慶（慶 進 1年）

女子個人…中村 冴（下関西 2年）

山本亜利紗（下関西 1年）

【個人の部 結果】

男子個人…小林 1勝3敗 予選敗退

藤澤 0勝4敗 予選敗退

女子個人…中村 2勝2敗 予選敗退

山本 0勝4敗 予選敗退

【出場者にインタビュー】

防府高校 2年

小林 真人

決勝トーナメント進出を目標にして、13～17手詰の本を読むなど練習をしていました。居飛車の選手と対局することが多く、矢倉や右四間飛車に苦戦を強いられました。決勝トーナメント進出できなくて悔しかったですが、精神的な強さを今後身に付けて、次回の大会では良い成績を収められるように頑張ります。

小倉百人一首かるた部門

理事長 松崎 砂織
(山口県立長府高等学校教諭)

1 部門の活動報告

小倉百人一首かるた部門が発足して12年が経ちました。様々な方々から御指導をいただき、少しずつ組織として前進しています。

今年度は感染症予防対策をした上で各種大会が開催され、生徒はそれぞれの目標に向かって日々練習に励んでいます。

かるた競技は、「畳の上の格闘技」といわれています。静寂と美しい日本語の調べのなかで自己と向き合う高度な集中力と記憶力、相手に勝る瞬発力、そして常に冷静な判断力、長時間の対戦に耐え得る精神力や体力が求められる厳しい競技です。また、美しい振る舞いや相手を敬う人間性も必要です。山口県では、かるた会と協力しながら選手育成をおこなっています。かるたに向き合って集中し、日々厳しい稽古に取り組んでいる生徒の顔は、とても熱く輝いています。山口県から、未来の名人・クイーンが育つことを期待しています。

2 第46回山口県高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

5月26日(日)に県総合文化祭を開催しました。感染症予防対策に努めながら、本年度は6校総勢56名の選手が参加し実施しました。全国大会の出場を目指し、選手たちは気合を入れて臨みました。

団体戦 第1位 山口県立小野田高等学校
第2位 慶進高等学校
第3位 山口県立長府高等学校

個人戦

上級の部

第1位 田中満百合 (山口県立長府高等学校)
第2位 上田桐士朗 (山口県立小野田高等学校)
第3位 藤永 伊織 (慶進高等学校)

上級(2段)の部

第1位 大友 水葵 (山口県立小野田高等学校)
第2位 濱本阿梨耶 (山口県立下関西高等学校)
第3位 岩本 一輝 (慶進高等学校)

中級の部

第1位 福田 清夏 (山口県立小野田高等学校)
第2位 松村日向多 (山口県立小野田高等学校)
第3位 森岡 遥 (山口県立小野田高等学校)

初級の部

第1位 加藤 美月 (慶進高等学校)
第2位 岩城 桃子 (山口県桜ヶ丘高等学校)
第3位 安藤 好優 (慶進高等学校)



3 第46回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される、「かるたの甲子園」と呼ばれる伝統と名誉ある大会です。今年は7月19日(金)～21日(日)に開催されました。

団体戦 山口県立小野田高等学校 出場

個人戦 C級優勝

今吉 桃子 (山口県立小野田高等学校)

C級第3位

永井由利子 (山口県立小野田高等学校)

C級第4位

長尾 柚葉 (山口県立小野田高等学校)

D級第4位

青柳 華奈 (山口県立小野田高等学校)

西内 結夏 (山口県立小野田高等学校)

西内 結菜 (山口県立小野田高等学校)

明光院奈波 (山口県立小野田高等学校)



山口県立長府高等学校3年 田中 満百合

「高校生活最後の総文」

私は、岐阜総文に主将として出場しました。また、試合の中で特に青森県のチームとの対戦が印象に残りました。

この試合で私は、B級の方と試合しました。対戦相手はA級並みに強く、終盤まで接戦でした。終盤に近づくにつれ徐々に体力が削られ、失速してしまいました。1-4で負けていた時、緊張と焦りによって諦めかけていました。その時、まだ試合が終わっていない仲間の素振りをする姿を見て、『最後まで頑張りたい!』と思い、残りの4枚は全て守る気持ちで挑みました。その結果、逆転勝ちすることができました。

今回の経験を通して、最後まで諦めない大切さやかるたの楽しさを改めて実感しました。また、仲間の頑張る姿やかけてもらった言葉に何度も励まされました。3年間、総文メンバーとして出場し、貴重な体験をさせてもらったこと、そして、これまで支えてくださったすべての方々に感謝しています。

4 第48回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

今年度は岐阜県で7月31日(水)～8月2日(金)に開催されました。運命戦で勝利を挙げる選手の活躍もあり、大変見応えのある試合でした。全員の選手が、持てる力を全て発揮して戦いぬくことができました。

団体戦 山口県チーム 予選リーグ第2位

主将 田中満百合 (山口県立長府高等学校)

副将 上田桐士朗 (山口県立小野田高等学校)

三将 藤永 伊織 (慶進高等学校)

四将 大友 水葵 (山口県立小野田高等学校)

五将 濱本阿梨耶 (山口県立下関西高等学校)

六将 岩本 一輝 (慶進高等学校)

七将 今吉 桃子 (山口県立小野田高等学校)

八将 永井由利子 (山口県立小野田高等学校)



山口県立小野田高等学校3年 上田 桐士朗

「全国総文を終えて」

私は7月31日から8月2日岐阜県で行われた全国総文に副将として出場しました。1回戦の相手は富山県で、私は負けてしまったのですが、他のメンバーが勝ってくれたので、チームとしては勝つことができました。2回戦の相手は沖縄で、最後まで粘り強く戦いましたが、惜しくも敗れてしまいました。

3回戦の相手は青森で、私の相手はA級の選手でした。私が得意な守りのかるたで最後まで粘ろうとしましたが、大差で敗れてしまいました。チームも2対3で惜しくも敗れてしまいました。私は大会直前にコロナに罹り、その後遺症で思うように動けず満足のいく試合をすることはできませんでしたが、その状態でも出せる最大限を出し切れて悔いを残さず終われたので良かったかなと思います。これで部活を引退してかるたからは一旦離れますが、かるたで得られたピンチでも諦めず粘り続ける気持ちを活かし受験を乗り越え、大学でもかるたを続けていきたいと思っています。

慶進高等学校1年 藤永 伊織

「全国総文に参加して」

人生で初めての総合文化祭への参加は、とても思い出深いものとなりました。代表チームの中で唯一の一年生だということもあり、チームにうまく馴染めるか心配していましたが、先輩方が暖かく迎えてくださって、試合でも結果を残すことが出来ました。

他にも全国のレベルの高い選手の試合を間近で見ることが出来、自分にとって非常に良い刺激になりました。

来年は総文祭を唯一経験している者として山口県チームを引っ張っていく立場になるので、現状に満足せず、技術的にも精神的にも成長した状態で来年を迎えられるように、一年間しっかりと練習に励みたいと思います。

自分が今かるたを出来ている環境を当たり前だと思わず、仲間や、顧問の先生や、その他関係者の方に敬愛感謝の心を忘れないようにしたいです。

山口県立小野田高等学校3年 大友 水葵

「総文を終えて」

私は、昨年続いて総文の大会に出場させていただくことができてとても嬉しく思います。今年の大会では三試合出場させていただきました。この大会で私の高校でのかるたの試合が最後になるため、悔いの残らないように全力で勝負しました。

結果は三試合とも負けてしまい、チームに貢献できなかったことがとても悔しかったです。しかし、この大会では普段一緒にかるたを取ることができないメンバーで団体戦をすることは新鮮で、とても楽しく感じました。また、全国のトップクラスの選手の取りを間近で見ることができて自分にとって良い経験になりました。同じ会場でかるたを取ることができてとても光栄に思います。

私は今後かるたを続けるかどうかは未定ですが、またかるたを取る機会があればこの大会で得た経験を生かしてかるたに励みたいです。来年こそは決勝トーナメントに進めることを願っています。

山口県立下関西高等学校3年 濱本 阿梨耶

「全国高等学校総合文化祭百人一首かるた部門を終えて」

このたびの全国高校総合文化祭（百人一首かるた部門）出場は私にとって2回目でした。1回目に出場した鹿児島総文では、初めて山口県代表になれた喜ばしさより緊張が勝ってしまい、焦りから、普段できているはずの自分の「かるた競技」ができませんでした。試合の踏ん張りどころである中盤に、手への力の入れ方を間違ったまま相手陣を攻めたため、相手の押さえ手に突っ込み指を骨折してしまいました。山口県チームの一員として一勝挙げることができないだけでなく、チームの仲間や引率の先生に病院に連れて行ってもらうなど、山口県チームには迷惑をかけました。このとき、申し訳ない気持ち

いっぱいになるとともに「来年こそは…！」と決意の気持ちを持ちました。今年の岐阜総文出場が決まったときはほっと一安心しました。そして、岐阜総文出場が決まった日から大会に向けて出発する日まで、家や練習会で稽古に励みました。

1試合目は富山県戦でした。今大会より、コロナウィルスの影響でしばらく禁止だったかるたならではの掛け声ができるようになりましたが、私も両側の人と励ましました。声掛けによりどの「取り」も一枚ごとにリセットして、「悪い流れを早めに切る」、「良い流れは続ける」といった試合が展開することができました。良い流れのまま、私は「束勝ち」で1勝を挙げることができ、山口県チームも良いムードで戦え、リーグ戦初戦を3勝2敗で勝つことができました。

2試合目の沖縄県戦は、終盤まで互いに互角の戦いが続き、なかなか差が付きませんでした。私の試合より先に終わった2試合では、山口県チームが負けていましたが、私が負けると山口県チームの負けが決まってしまうという状況の中で、凄いプレッシャーを感じていましたが、相手陣を抜いた時、横にいたチームメイトが「ナイス、一緒にあがろう」と声を掛けてくれた。そのおかげで、焦りを粘りに切り替えることができ、結果、私は「5枚」で勝つことができました。チームメイトの存在のおかげで、いつも以上に自分の集中力、瞬発力、音の聞き分けを上げることができたと思います。残念ながら、山口県チームとしては2勝3敗でこの試合を落としてしまいました。

4校の予選リーグ戦を終え、山口県のチーム成績は1勝2敗でした。決勝トーナメントに進出することはできませんでしたが、山口県チームは異なる高校で構成したとは思えないほど仲が良く、団結できたチームだったと思います。来年も高校生であるなら「皆でもう一度リベンジできたら…」が私の正直な今の気持ちです。思い残すことはありますが、今後の人生にとって良い経験になったと思います。

慶進高等学校3年 岩本 一輝

「全国総文に出場して」

総文に3年連続で出場することができ、とても光栄です。私自身は3年間とも良い成績を出せなかったのですが、その点では悔いが残りますが、高校3年間の部活の成果を十分に発揮できたのではないかと思います。この経験は必ず一生の思い出になると思います。また、今後もかるたを続けたいと思うようになりました。

私は、この1年間「考える」ということを自分で強く意識し、また、部活の後輩にも指導してきました。才能での伸びにはやはり限界があると考えからです。「考え」で練習に励んだ結果、実力はこの1年間ある程度上がったと思います。後輩にこのことをもっと深く実践し

てもらい、私の高校の部活ならびに山口県もさらに強くなってほしいと思います。

これまで支えてくださった、引率の先生方や、部活の顧問の先生方、部活と一緒に練習をしたメンバーたち、他の練習会で一緒に練習した方、そして両親に感謝します。ありがとうございました。

山口県立小野田高等学校3年 今吉 桃子

「岐阜総文を終えて」

入部したところからの目標の一つであった総文へ出場することができ、かるたを通してまた新たな経験を得ることができた三日間であったと思います。

私は沖縄県との試合に出場しました。私は前半で自分の力が出なくても後半で粘り逆転勝ちをすることが多く、今回の試合も相手と十枚以上差のつく中、四枚差まで粘りましたが勝ち切ることができず、チームも予選リーグ敗退という結果になってしまいました。団体戦は個人戦よりも大きなプレッシャーがかかるのに加え、一度も味方として戦ったことのない他校の選手との合同チームだったこともあり普段よりも緊張し思い通りの取りが出来ないシーンも多かったです。ですが、それも総文に出場できたからこそ感じることでこの経験を自分のものにして、後輩にも自分の経験談として語ることで次の世代につなげたいと思います。

山口県立小野田高等学校3年 永井 由利子

「頑張ったこと」

今回の大会で驚いたことが二つある。

一つは、全国の高校生のかるた競技人口が私の想定よりも多かったことだ。山口県は高校生のかるた競技人口が少なかったため、同じ年くらいの全国の高校生と試合をできることはとてもうれしく、楽しかった。私と同じようにかるたに打ち込んでいる子がこんなにもいると思うと、私も頑張ろうと思えた。

二つ目は、やはり全国の壁は厚いなということだった。今回の大会で、青森県や沖縄県など、今まで試合をしたことのない県と試合をしたが、どこの県の子も強く、とても驚いた。私ももっと頑張ろうと思う。

今回の大会で、今までのかるたに対する見方が変わり、練習をもっと頑張ろうと思った。また、同じ年くらいの子とかるたをするのは楽しく、もっとたくさんの人にかるたの楽しさを広めたいと思った。もっと山口県の競技人口を多くし、かるたを広げていくことが私にできることだ。

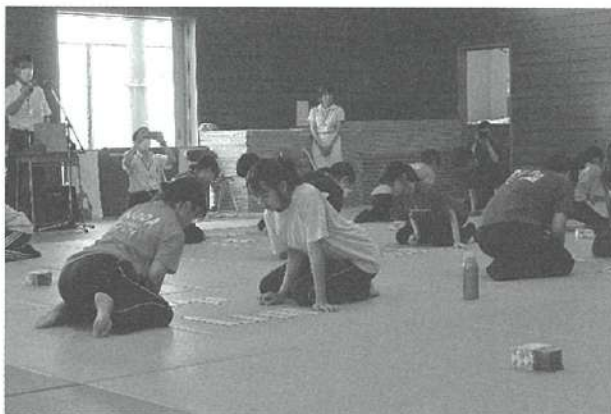
5 第27回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選会

9月8日(日)に開催し、岡山県で行われる中国大会への切符をかけ、熱戦が繰り広げられました。

団体戦 第1位 山口県立小野田高等学校 A

第2位 慶進高等学校 A

第3位 山口県立小野田高等学校 B



6 第27回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会

12月14日(土)、15日(日)に児島武道館柔道場で開催されました。

団体戦出場

山口県立小野田高等学校 A

新聞部門

理事長 大野 綾香
(山口県立宇部高等学校教諭)

新聞専門部は令和10年度全国高等学校総合文化祭に向けて令和6年度に発足した。

1 令和6年度の新聞専門部の活動報告

(1)全国高等学校総合文化祭2024 ぎふ視察

- ・ 日 程 令和6年8月1日(木)～8月3日(土)
- ・ 会 場 東美濃ふれあいセンター
(岐阜県中津川市)
- ・ 内 容 新聞展示、交流新聞制作

(2)新聞専門部総会

- ・ 開 催 日 令和6年11月21日(木)
- ・ 会 場 山口県立宇部高等学校 会議室
- ・ 参加人数 18名
- ・ 内 容
 - ①規約の制定
 - ②令和10年度全国高等学校総合文化祭に向けた情報共有・協議

2 全国高等学校総合文化祭2024 ぎふ視察の記録

全国高等学校総合文化祭における新聞部門の主な活動内容は、「交流新聞制作」と「新聞展示」の2つである。1日目は生徒交流会、2日目は開会式及び取材・交流新聞制作、3日目は午前中に新聞制作のつづき、午後に長崎日本大学高校と崇徳高校の活動発表や、制作した交流新聞への講評、閉会式が行われた。閉会式終了後には、希望した学校のみが参加する研修取材も用意されていた。全国の高校134校・約300名の新聞部員が参加した。

交流新聞制作とは、班に分かれて取材活動を行い、取材内容をもとに1枚の新聞を作るというものだ。あらかじめ12の取材コースが設定されており、生徒は割り当てられたコースで何取材するか班で話し合った上で取材に向かう。新聞はすべて手書きだ。そのため、同じコースを回った班でも着眼点やテーマ、掲載する写真やレイアウトは全く異なるものであった。

展示されている新聞は、各参加校が学校新聞や普段の活動内容をまとめた、大判用紙1枚の大きな新聞である。

芸能人に取材に行ったり地域行事に参加したりするなど、校外での取材活動を積極的に行っている学校が全国にはたくさんあることが分かった。大会期間中は常に会場が活気に溢れており、全国の新聞部の熱量に圧倒させられた大会であった。

3 新聞専門部総会の報告

新聞専門部が発足して初めての総会。本会の一番の目的は、規約の制定と情報共有だ。

各校の活動内容は、年2～3回の学校新聞の発行が中心である。ただ、部員数が少ない学校が多く、新聞部単独では活動していなかったり(「文芸新聞部」など)、来年度からの廃部が検討されていたりする状況にあることが分かった。

全国高等学校総合文化祭2024 ぎふ新聞部門の報告及び、令和10年度全国高等学校総合文化祭山口大会に向けて今後取り組むべき事柄の共有を行い、来年度以降の見通しをもつことができたように思う。また、令和7年度に香川県で開催される全国高等学校総合文化祭に〈防府商工高等学校〉と〈下関工科高等学校〉の2校が参加することが決定した。まずは大会への参加や講習会等の実施を通して、多くの新聞部関係者が経験を積むことが重要となる。来年度実施予定の講習会では、新聞制作に関するノウハウの習得や部員の意欲喚起をめざす。

文芸部門

理事長 萬 右文
(山口県立下松高等学校教諭)

1 令和6年の文芸専門部の活動報告

(1)第46回山口県高等学校総合文化祭開会式

慶祝展示 防府市地域交流センター（アスピラート）

県内の高校の文芸部誌の展示

(2)第22回山口県高等学校文芸コンクール

作品募集 令和6年7月11日（木）～8月1日（木）

選考決定 令和6年10月11日（金）

今年度の県コンクールは13校86名97作品の応募がありました。

なお、優秀な成績を取めた生徒は、令和6年11月9日（土）開催の第26回高校生文芸道場中国ブロック大会（広島大会）、令和7年7月26日（土）から香川県宇多津町で開催される第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭2025）文芸部門に参加します。



慶祝展示の様子

部門	選考結果	学校名	作品名（題名）	学年	氏名
散文	最優秀	防府高等学校	『いただきます』は家族の印	1年	楠木 正紘
	優 秀	防府高等学校	世界一のシェフは知らない	2年	越智 悠月
	優 秀	萩高等学校	一直線	2年	野村 琴音
	優 良	徳山高等学校	ジュピター	1年	堀澤明香里
	優 良	萩高等学校	J K戦記	3年	山根真友加
	優 良	岩国総合高等学校	逢魔時	3年	平田 楓
	入 選	防府高等学校	昔の話	2年	中村菜々美
	入 選	防府西高等学校	テセウスの君	3年	柴田 亞弥
	入 選	徳山高等学校	小春川さんは僕としか話さない	3年	細川 明里
	入 選	光高等学校	一度死んだ小説家	2年	元久竜太郎
	入 選	光高等学校	名前を呼んで	3年	丸山真奈未
詩	最優秀	下松工業高等学校	教室の中に一つ、列から乱れた机がある	1年	福田 伊織
	優 秀	萩高等学校	私の四分位範囲	3年	松原 彰吾
	優 良	田布施農工高等学校	待ち惚け	1年	荻田紗亜耶
	優 良	田布施農工高等学校	しゃぼん玉	1年	高村 麗音
	入 選	下関北高等学校	あつたかなみだ	3年	久保田 花
	入 選	徳山高等学校	わたしの中庭	3年	澁谷 夏輝
	入 選	萩高等学校	戻ってこないわたし	2年	松屋 凜
	入 選	下関西高等学校	空き地	2年	枡田 明莉
	入 選	萩高等学校	みんな等しくなつて	2年	阿川 拓夢
短歌	最優秀	徳山高等学校	大人になれば	3年	山本 直輝
	優 秀	徳山高等学校	血圧が	3年	原田 結菜
	優 良	防府西高等学校	夕暮れが	3年	田中慎太郎
	入 選	萩高等学校	うつせみや	2年	阿川 拓夢

俳句	最優秀	徳山高等学校	趣味の欄	3年	原田 爽花
	優 秀	徳山高等学校	長閑さや	2年	小村 芽生
	優 秀	徳山高等学校	一発屋	3年	堀澤奈津実
	優 良	下松工業高等学校	水底の	2年	谷田 一樹
	優 良	徳山高等学校	卒業生	3年	澁谷 夏輝
	入 選	徳山高等学校	ラムネ玉	1年	山崎 遥花
	入 選	下松工業高等学校	タオル地の	1年	福田 伊織
最優秀学校賞		徳山高等学校			

2 第27回俳句甲子園全国高等学校俳句選手権大会

結果報告

〔地方大会〕 令和6年6月16日（日）

山口県防府市 防府アスピラート

全国大会出場校：山口県立下松工業高等学校

全国大会 令和6年8月23日（金）～25日（月）

愛媛県松山市 予選ブロック敗退

3 第48回全国高等学校総合文化祭「2024 ぎふ総文」

文芸部門参加報告

令和6年7月31日（水）～8月4日（日）

岐阜県飛騨市文化交流センター 古川町公民館

散文部門

山口県立下松高等学校 2年 志熊 桃花

私は散文部門の山口県代表としてぎふ総文に出席し、8月2日・3日・4日の三日間研修をしました。

研修初日は「結コース」「さるぼぼコース」「起こし太鼓コース」の3つのコースに分かれ、飛騨や古川の街を見て回りました。私はさるぼぼコースで、まず飛騨の里に行きました。そこには合掌造りなどの伝統的な民家が並んでおり、入り口付近には竹で作られた水鉄砲や、こまや射的などの昔ながらの遊びを体験できる場所が設置されていました。里内では各々が自由に散策する時間が与えられ、事前に配布されたスタンプラリーの紙を手に飛騨の里を歩き回りました。

1時間20分の散策を終えた後は飛騨高山高校で昼食を食べました。食堂が解放され、皆で注文していたお弁当を食べたり、持参したパンなどを食べたりしました。昼食が終わり校舎を出ようとしたところ、靴箱横の壁に雪かき用のスコップが大量に立てかけており、山口県では見ないであろう光景に驚きました。

次の目的地である飛騨古川まつり会館では、実際に古川祭りに使われる屋台や見送りが展示されており、会館の人に説明をして頂きました。飛騨古川まつり会館を出た後は古川町を散策しました。映画「君の名は。」のモデルとなった古川駅で映画と同じシーンの写真を撮ったり、図書館内の一室でお団子とお茶を頂いたりして、その日は解散しました。

二日目は各部門に分かれて評論会をしました。散文部

門では小説家の中村航先生と映画監督・脚本家の作道雄監督が参加者一人一人に対して今回書いた小説のご講評をして下さいました。実際にストーリーを書いている方々から自分の小説に意見を頂ける機会は中々ないので、すごく貴重な体験になりました。

三日目は中村先生と作道監督の演説会でした。お二人の学生時代の話や最近あったこと、ストーリーを書く上で気を付けることなど、幅広い話題を尽きることなく時間いっぱいお話ししてくださったので、お二人の仲の良さが伝わってきました。最後に代表者の方々が大きな花束を渡して、三日間の研修会は幕を閉じました。

総文の間、たくさんの人と関わり交流を深めることができ、すごく充実した三日間にすることができました。総文の開催に関係した岐阜県の文芸部員の皆様、本当にありがとうございました。



散文部門 分科会の様子

詩部門

山口県立萩高等学校 3年 松原 彰吾

私は詩部門の山口県代表として参加した。私が今回の経験を簡単に表すとするなら、一種の自分の「再構築」であった。

まずは新山口駅から始まった約6時間の旅から。私がおの間感じていたのは、一種の悔やみだった。片手で数えられる程度しか作品を書いてこなかった自分、部活の時間をただの自堕落に費やしていた自分。とても山口の代表を背負うには自分が小さすぎたのだ。こうして新天地と自分への複雑な思いを抱えながら、私は岐阜に足を踏み入れた。

まずは新山口駅から始まった約6時間の旅から。私が

その間感じていたのは、一種の悔やみだった。片手で数えられる程度しか作品を書いてこなかった自分、部活の時間をただの自堕落に費やしていた自分。とても山口の代表を背負うには自分が小さすぎたのだ。こうして新天地と自分への複雑な思いを抱えながら、私は岐阜に足を踏み入れた。

一日目は文芸散歩。飛騨の里へ訪れた時にはタイムスリップしたかのような感覚だった。かく言う私の故郷、萩市もなかなか歴史が感じられる街並みをしているが、飛騨の里はまさに自然と共存しているようであった。現代にそぐわず、決して便利とは言えない街並みに不思議と魅力を感じてしまうのはなぜだろうと、思いを馳せながらその景観を堪能した。飛騨市の散策でも、古風な家々、利用者を配慮した図書館、そして伝統的な起こし太鼓など、その歴史的景観からはこの地域を守ろうとする飛騨の人々の優しさを感じ取れた。

そして二日目の部門別交流会。経験や覚悟の不十分な私がついていけるのか、場違いではないかと心底不安だった。だが、他県の学生たちとかかわる中で私を感じたのは、一言では表せないような、強いて言うならば「おもしろい」という気持ちだった。一人ひとりの感じ方も、考え方も顔つきも声も。同じ人間で同じ時間生きてきたはずなのに、ものの見事に全員が何もかも違うのだ。なんという奇跡なのだろうか。私はこの時人の面白さを知るとともに、自分という存在の在り方について考えた。

こうして最終日を迎え、私のぎふ総文は終了した。私は一度この旅を思い返してみた。自然の中に身を投じ、一つの伝統・歴史を体験し、他の人たちと交流し自らを認識する。そう、ヒトという生物の簡易的な歴史の流れを体感することで、私という人間は一時的に「再構築」されたのだ。新しく作られた自分を感じて、今後の私の在り方を確立することができた。

もしかすると、このような経験も思いもいつかは忘れてしまうのかもしれない。自分を見失って、私という存在に不信感を抱いてしまうのかもしれない。そんなことがないように、この「文芸に生きる自分」を忘れないように、それこそ最終日の講演で作道先生・中村先生がおっしゃったように、詩でも俳句でも雑なメモ書きでもどこかに書き記しておこうと思った。



文学研修（文学散歩）の様子

短歌部門

山口県立萩高等学校 2年 阿川 拓夢

今回私は山口県の短歌部門代表として、ぎふ総文に参加した。

1日目の文学散歩は、兼部している他部活のコンクールとの兼ね合いで参加できなかった。

2日目の部門別研修では、まず短歌の作り方や批評の方法についての講演を聞いた（講師：小塩卓哉先生）。短歌の作り方について私が一番心に残ったのは、「区切れの位置が大切だ」ということだ。今まで区切れの位置など気にすることがなかったが、「二句切れは古典的な切れ方」「三句切れは一般的な切れ方」ということを聞いて、句切れというツールは短歌の雰囲気や言葉選び、時代観によって変えることで読み手を自分の世界へ一気に引き込むことができるものであり、絶対にないがしろにしてはいけないものだと考えることができた。また、今まで使ったことのない「結句の擬物法」という技法について、自分の気持ちや思いを物に託すことで歌を魅力的にする効果のある技法だということが分かった。

午後からは班の中で歌会を行った。最初は全員恥ずかしがってなかなか一言目が出なかったが、自己紹介が始まるとそこからはスムーズに言葉が出てきた。色紙に書いた自分の短歌に、班のメンバーが自分なりの解釈や良いところを話していくといった形だったが、自分の短歌を客観的に見てもらうことでそのままでもいい所や逆に直した方がよい所がよく分かった。その後、班の中で「推し短歌」を決めた。幸い、僅差で「推し短歌」に選ばれた。それぞれの班の「推し短歌」からベスト3を決めるときは残念ながら1票も入らなかったが、それでも貴重な経験となった。

3日目の記念講演では、「小説を書くこと・読むこと」という題で、講師である中村航先生・作道雄先生の話聞いた。書く技術の身に付け方として様々な方法が挙げられたが、私がやってみたいと思ったのは、「好きな歌詞や台詞、タイトルを書き写す」という方法である。私は、詩や短歌を読んだり曲を聴いたりすることが好きなので、苦痛を伴わずに楽しめるというところに惹かれた。また、何を書くのかという題材の決め方について、問題意識や好奇心、欲求などをよく見つめてみるのが大事だと分かった。

これまで私は、ただ漠然とその時に思いついた短歌を考えずに書き起こしていた。しかし、今回の総文で、しっかりと細部まで考えることが大切だと分かった。これからは、言葉の効果や雰囲気に注意しながら作っていくと思う。

俳句部門

山口県立徳山高等学校 3年 澁谷 夏輝

徳山駅からまず名古屋駅へ。特急ひだに乗り換えて高山駅に向かう。車内から夏らしい森を眺めながら、総文の舞台となる岐阜県飛騨地方に到着した。

一日目は部門別の文学研修であった。俳句部門は起こし太鼓コースで、古川市内の散策を行った。まず初めに訪れたのは飛騨古川図書館である。中は木材を基調とした空間で天井も高く開放感があった。次に訪れたのは飛騨古川まつり会館である。地域住民は古川祭りを楽しみに一年間を過ごすらしい。ここはその博物館のような場所で、VTRを見せてもらった。厳粛な神事の要素と激しい起こし太鼓の要素を併せ持つ祭りで、笛を吹きながら神輿を担いで行脚したり、男たちが屋台を運び駆け回ったりする映像を見せてもらった。続いて、白壁通りを歩いて、円光寺へと向かった。白壁通りを流れる川にはたくさんの鯉が泳いでいて、千匹以上の鯉が一部の川に棲んでいるらしい。古川の散策はこれで終了。その後高山の飛騨の里に移動した。合掌造りの茅葺屋根を残す地域で、現在人は住んでおらず、展示施設になっている。民家では囲炉裏や、飛騨の縁起物「馬頭絵馬」を発見した。

一日目の文学散歩は以上であった。古川を中心に飛騨の文化についてたくさんの学びを得られた。

二日目の部門別交流会では事前に提出した夏の句を用いて、句会が行われた。句会では私の句が二席に入り、驚いたが嬉しかった。自句を紹介する。

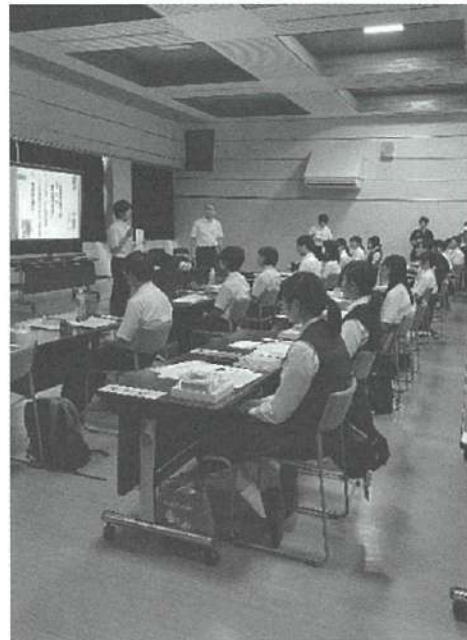
急行の過ぎてすべてが夏の風

お昼休憩を挟み、午後の部に移った。午後の部は先生が芭蕉のコスプレをして登場した。寸劇を交えながら芭蕉の句を題材に俳句のおもしろさ、人生に与える意味をご講演いただいた。その後、休憩時間中に吟じた句で句会を行った。午後の句会では独創的な句や飛騨の発見を踏まえた句が多く、大変楽しい発見があった。自句を紹介する。

森に木の高ければとほし蟬の声

以上、二日目の活動であった。俳句を通して、一日目以上に他校の生徒と交流し、成長できたと思う。

三日目。名残惜しくも迎えた閉会式。小説家の中村航先生と映画監督・脚本家の作道雄先生による記念講演会が行われた。「小説を書くこと、読むこと」という演題でお二方のこれまでの体験をベースに創作の世界で生きていくことについてお話いただいた。創作で生きていくことに対する希望を大いに貰える講演であった。非常に学びの多く充実した三日間であった。総文の全ての関係者に感謝を述べたい。



俳句部門 分科会の様子

文芸部誌部門

山口県立徳山高等学校 2年 小村 芽生

約二時間半ずつの新幹線と特急での移動、乗り継ぎも合わせると約六時間。わくわくしていたからかあという間に目的地に辿り着いた。木の匂いに包まれる高山駅を出ると、第一声に「涼しい」と言わざるを得ないほどの涼しい風が吹いていた。

文芸部門の一日目は、文学散歩を行った。私の参加した文芸部誌部門は「結コース」と称され、白川郷合掌造り民家園などが見学できた。白川郷の人々は屋根の葺き替えや雪下ろしなどを互いに助け合っており、この助け合いのことを「結」とよぶのだという。コース名にもなっている「結」に込められた素敵な想いに触れることができ、同時に、合掌造りで暮らす人々の大変さや「売らない、貸さない、壊さない」の三原則のもと合掌造りを保全する人々の想いを感じることができた。城山天守閣展望台では短い間だったが合掌造りの集落を一望することができ、最後に散策した白壁土蔵街では道の脇の鯉が流れに逆らうように泳ぐ姿や大きくそびえたつ酒蔵が見られた。また、この日は活動後に「君の名は。」の聖地巡りをした。中でも気多若宮神社の厳かで、でもどこか優しく包まれているような雰囲気に圧倒された。

二日目の部門別交流会・分科会では編集の仕事をしていて講師の方から読みたくなる編集や取材についての講義をいただいた。編集についての講義の後、グループで編集の視点での部誌の読み直し・感想交換会を行った。各校の部誌の良さや面白さを伝え合うことで自分たちの部誌についても考えを巡らす良い機会となった。講義では、編集についてはどういう目的で誰に伝えたいか、どうすれば魅力的に伝えられるかを考えることなどが大切だと教わった。取材については、相手が答えてくれたこ

とを基に話を展開していくことが大切だと教わり、実演もしていただいた。取材の実践活動では初めて会う相手のことを話を広げながら知ることができ、とても楽しく、新たな発見の多い活動となった。その後、取材相手を紹介する他已紹介を行い、話をまとめて発表する力がついたと思う。一日を締めくくる手紙を書く活動では感謝の気持ちを込めて手紙を書いた。無事に届くかどうかとても楽しみである。

全国の文芸部員に囲まれ、たくさんの学びや発見を得て、とても充実した四日間。総文祭に関わり、支えてくださった全ての方への感謝を忘れず、この経験をこれからの文芸活動に活かしていきたい。



4 第26回高校生文芸道場中国ブロック大会(広島大会)

文芸コンクール結果及び分科会参加報告

今年度は、11月9日(土)に、広島市東区民文化センターで開催され、記念講演、散文・詩・短歌・俳句の各ワークショップ、表彰式が行われました。部誌の展示や生徒同士の交流の機会もあり、充実した時間が過ごせました。



(1)文芸コンクール

作品募集 令和6年7月26日(金)～9月4日(水)

散文部門

入選 山口県立徳山高等学校 3年 澁谷 夏輝
入選 山口県立徳山高等学校 1年 小野 遙

詩部門

優秀 山口県立徳山高等学校 3年 澁谷 夏輝

短歌部門

優秀 山口県立徳山高等学校 3年 山本 直輝
入選 山口県立防府西高等学校 3年 田中 慎太郎

俳句部門

最優秀 山口県立徳山高等学校 3年 澁谷 夏輝
優秀 山口県立徳山高等学校 3年 堀澤 奈津実
入選 山口県立徳山高等学校 3年 細川 明里
入選 山口県立光高等学校 2年 元久 竜太郎

文芸部誌部門

最優秀 山口県立徳山高等学校

(2)第26回高校生文芸道場

中国ブロック大会(広島)に参加して

散文部門

山口県立防府高等学校 2年 越智 悠月

散文部門のワークショップでは現役の小説家である緑川聖司先生を講師とし、みんな「あれ、本に何か挟まってる」という同じ書き出しで小説の冒頭を書いてくるという事前課題の批評や小説の書き方についてのお話を聞きました。

最初に課題の小説を散文部門の皆でいくつか班を作り批評し合ったのですが、班ごと班ごとに一番よいと挙げられた小説を書く方には共通点があり、皆一度一つの小説の見通しを立てていたところでした。また、「何か挟まっている」と聞くと手紙やメモなど、実在する物質が挟まっている様子が連想されやすいのですが、挟まっていた本の文字が挟まっているという「文字」という概念を物質化する独特なものもありました。そのようなアイデアがその小説を「続きを読みたい」とさせ、今後に取り入れたい力だな、と思いました。

批評の後はそれぞれの小説を書くにあたっての悩みや質問を緑川先生に行い、それにお答えいただきました。先刻の批評で高評価を得ていた小説を書かれた方ほど鋭く、しっかりとした質問をなさっていました。私はプロットなどを作らず書いてきたので「あ、そうすればよかったんだ」などと新しい発見を多く得られた日でした。

文芸道場で学んだことをこれから部誌を作成するうえで活かしていきたいと思います。



散文分科会の様子

詩部門

山口県立田布施農工高等学校 1年 荻田 紗垂耶

私は山口県代表として詩部門の高校生文芸道場中国ブロック大会に出場した。指先が悴むような肌寒い空気とともに下松駅から岩国駅まで、岩国駅から広島駅までを暖かい電車の中で過ごした。車内の窓から少し厚手の服に身を包む人々を眺めては、ああ、私たちは生きているのだと実感する。秋はとうに、私の背をなぞっていたのに。

さて、それから私は広島県で他県との生徒や作品との交流を深めた。記念講習では部門の関係なしに互いに他県の文芸誌についての講評を行った。作品は北海道から地元である山口県まで様々な都道府県のものがあり、非常に好奇心を操られた。また、各自が選んだ好きな文芸誌については主催者の方々のご厚意により、各自持ち帰りが可とされた。値段のないものにこれほど価値がついた瞬間があったのだろうか。私はこの一冊の冊子を、私の所属する文芸部の皆への土産にしようと思う。

そして午後からは散文、詩、短歌、俳句の四つの部門に別れてのワークショップが行われた。私は詩の部門での参加であったので、心臓のはたらきを活発にさせつつ会場へ向かった。一人、そしてまた一人、全員分の生徒間での講評を行い、最後に講師の先生より講評をいただくというものであった。性別や年齢の壁を取り除き、皆等しくヒトの感受性により評価される機会を得られたことを光栄に思う。事前課題として提出していた私の詩は、講師の八木真央先生から詩を二つに分けるべきだという講評をいただいた。詩はプレートランチのように一枚の皿に一食分の詩を盛り合わせてはならないということだ。私の詩の情報が右往左往していたこともあり、テーマ毎に一つの詩として分割するべきだということをご教授いただいた。とても勉強になった。

私は今回の文芸道場中国ブロック大会を通して、世界が広がった気がした。しかし、自然による成り行きの細かいところまで気を配るようになったという点では、かえって世界が小さく見えてしまうのかもしれない。常識じゃはかれない魅力が文芸にはあるのだと、再認識された一日だった。

そしてここまで文章を記してやはりこう思う。

ああ、私、言葉って大好きだ！



詩分科会の様子

短歌部門

山口県立田布施農工高等学校 1年 牧野 美祐

今回、私にとって文化部初めての大会でした。

不安と緊張、ワクワク、ドキドキ、いろんな気持ちが混じり、今までに感じたことのないくらいの心臓の鼓動の速さと音でした。電車の中で音楽を聴いて心を落ち着かせていました。ですが、なかなかおさまらないまま、岩国駅で電車を乗り換え、広島に向かいました。

会場では、まず記念講演で文芸部誌について学びました。私が一番心に残っていることは、「文芸部誌があなたにとって宝物になることを願っています。」と講師の藤田豊先生が仰ったことです。文芸部でしか出来ない文芸部誌の作成を適当にするのではなく、みんなで楽しく作り良い思い出・宝物にすることが大切だと思いました。他校の文芸部誌を見ましたが、すごく読みやすく、楽しさが伝わってくるものばかりでした。私もこんな風な文芸部誌を作りたいと思いました。

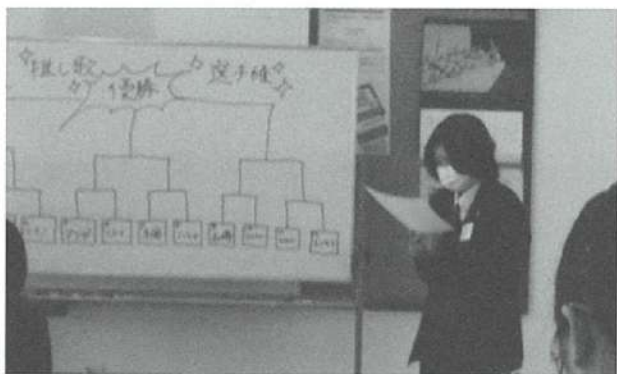
次に、ワークショップをしました。

私は短歌部門の推し歌選手権と歌会（自由詠）に参加しました。推し歌選手権は、資料にある「300 歌人の新作作品集」20 首、「おやすみ短歌」20 首の 40 首から好きな短歌を選び批評してトーナメントを勝ち抜くという内容でした。私は千種創一さんの「横顔が一度は遠ざかっていた、けどこの夜は蓮が灯った」という短歌について批評しました。しかし、即興でみんなの前で発表するのは、言葉がまとめ切れなくて、上手く話すことができませんでした。

歌会（自由詠）は、参加者の方々の作品を名前を伏せ、その中から3つ好きな作品を選んで批評していくという

内容を行いました。自分の短歌は参加者の1人が選んでくださり、批評は自分が考えていたイメージとは全く違っていました。ですが、こういう捉え方もあるんだなと思いました。

この2つの企画を通して、「確かに」「私だったら…」ということが沢山ありました。今回、聞いた沢山の意見をもとに、これからも宝物になる作品を作っていきたいと思います。



短歌分科会の様子

俳句部門

山口県立下松工業高等学校 2年 谷田 一樹

今回私が第26回高校生文芸道場中国ブロック大会（広島）に参加して良かったことを2つ紹介します

まず1つ目は自分と同年代の生徒たちが集まって、自分が作った俳句と他の生徒たちが作った俳句を読み、自分が思ったことを発表する句会です。

16人分の俳句を読み、自分が良かったと思う俳句を選んだとき、16人中4人が自分の俳句「栗ご飯ほふほふと食ふ祖父の家」を選んでくださり、そのことがとても嬉しかったです。また、選んでくれた生徒の評価は「栗ご飯、ほふほふ、祖父の家が温かい感じがする」「ほふ、ほふ、食ふ、祖父で“ふ”の音が続いていて良かった」「全体的に温かい句」などの好評をいただきました。また、講師の若林哲哉さんの評価でも「はふはふ、ほくほくの音はあるがほふほふは珍しく、オリジナル感がでていて良かった」と言ってくれました。そのように句会では、全員の一句一句の思いや表現を読み取り、鑑賞しあう喜びや楽しさを味わえました。

次に2つ目は会の終わりに現役俳人の若林哲哉さんと交流が出来たことです。閉会後に句会での質問に応じてもらっていました。私達は高校生でまだまだ稚拙な俳句が多いと思います。そこで、現役俳人の人と交流して自分の俳句は○○○○を少しアレンジしてみたらもっと良くなるなどのアドバイスをいただいたことは大きな力になりました。先生に『俳句は「詠む」と「読む」の両輪がたいせつである。言葉になっていない部分を想像すると俳句の良さが分かるかもしれない。お互いの敬意をもって、ドグマをぶつけ合う。』などのお話を聞いてさら

に俳句の良さを知ることができました。今後もこのような研修会があるなら参加したいと思いました。



俳句分科会の様子

5 第39回全国高等学校文芸コンクール

作品募集

令和6年8月19日（月）～9月17日（火）

表彰式

令和6年12月21日（土）

東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

俳句部門

優良 山口県立徳山高等学校 3年 澁谷 夏輝

優良 山口県立下松工業高等学校 2年 谷田 一樹

優良 山口県立下松工業高等学校 3年 長瀬 星龍

文芸部誌部門

奨励賞 山口県立徳山高等学校



6 令和6年度山口県高等学校文化連盟文芸研修会

開催日 令和6年11月16日（土）

10:30～16:10

開催地 周南市 スターピアくだまつ

内容 散文、詩、短歌、俳句のワークショップ

山口県高等学校文芸コンクール表彰式

各校文芸部交流

自然科学部門

理事長 入江 壽郎
(山口県立山口高等学校教諭)

1. はじめに

今年度、自然科学部門では、「ぎふ総文 2024」にて3分野の研究発表とポスター発表を行いました。参加校は、下関西高校（研究発表[化学]）、山口高校（研究発表[生物]）、宇部高校（研究発表[物理]）、徳山高校（ポスター発表[化学]）でした。発表を行った参加校の生徒は、いずれも主体的に研究に取り組み、その結果を自分たちなりに工夫してまとめ、発表しました。

山口県では、自然科学部門立ち上げから14年目になりますが、2年前から全国総文に向けての県内審査会を立ち上げております。申請書類の作成等、参加希望校の皆様には負担をおかけしますが、これにより、県内の自然科学研究のレベルがより一層上がり、全国総文での上位入賞につながることを期待しています。今後ともよろしくお願いいたします。

2. 「ぎふ総文 2024」に参加した生徒からの参加報告と感想

以下に、「ぎふ総文 2024」に参加した生徒の声を掲載します。

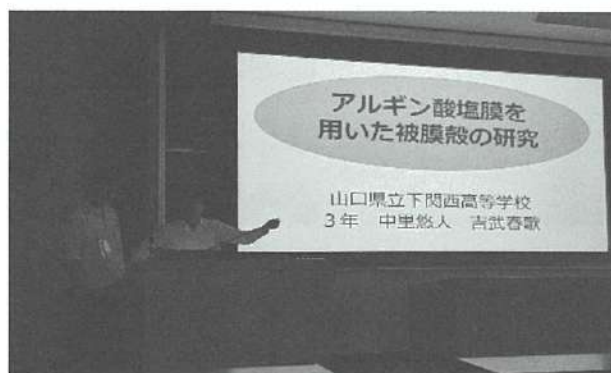
[1] 研究発表(化学)「アルギン酸塩膜を用いた被膜殺の研究」

下関西高校 中里悠人・吉武春歌・篠田寛吉
僕は、ぎふ総文を通じて研究のノウハウを学んだ。

ぎふ総文では、ペットボトルフリップなどの日常的な研究から研究者さながらの物質の合成までありとあらゆる研究がそろっていたが、課題の発見→仮説→実験→考察というサイクルに沿ってどの班も研究していた。どんなに複雑で難しい研究においても基本となることは同じであり、むしろ、結果からの考察→新たな課題の発見等の基本に基づいたフィードバックをしっかりと行っていた班ほどよい研究ができていたように感じた。研究が順調な時であっても初心に帰ることを忘れないようにしようと思った。また、研究において1番大切なことは根気強く研究することだと学んだ。班によってはデータを何百もとっている班があり、諦めてしまいそうなことでも止まらず何かをし続けることが研究なのだなと思った。

先輩たちの姿を見ていて、僕は改めて研究発表の大変さを目の当たりにした。研究では最終的に論文を出したり、発表したりするが、発表本番は1度しかなく、会場の雰囲気も分からないまま発表するのは過酷だと思う。発表では質疑応答に対してのアドリブ力も問われるし、質問に答えるためには、矛盾なく研究していかなければ

ならないので、発表後の質疑応答も大変だ。先輩たちはあれだけ練習してきたのに、かなり緊張していたし、少しトラブルがあったのでやっぱり本番というものは恐ろしいなと感じた。ただ、先輩たちはトラブルに対しても冷静に対処していたし、トップバッターなのにしっかり発表できていてカッコいいなと思った。



ぎふ総文では、たくさんの発表を聞くことができた。ここまで大きな研究発表会に行ったのは初めてだったので、よい経験になった。ただ、メモを取ることに必死で、質問を考えるとところまで頭が回らなかったのも、次に研究発表を見に行くときは質問ができるように頑張りたい。他の班の発表を聞くことでモチベーションにもつながったし、インスピレーションもえられたのでよかった。ぎふ総文の二日目には、巡検研修でアクアトトという日本最大の淡水魚水族館を訪れた。僕は海響館以外の水族館を訪れたことがなかったのであまりの迫力に圧倒された。たくさんの魚を見ることができたが、中でも、長良川周辺にしか生息していないというハリヨという魚には興味を持った。岐阜と滋賀にしか存在せず、絶滅危惧種にもなっているのに、僕は岐阜に行くまでハリヨのことを知らなかったのも、日本に住んでいても知らないことはまだまだたくさんあるなと思った。ハリヨの知名度がもっとあがればハリヨの保全・保護がもっと進むと思うので知名度があがってほしいなと思った。広島県より東に行くのは人生で2回目で、知らない土地に行くのは怖かったけれど大垣市はとても良い街だった。忙しかったが充実した3日間だったと思う。総文で得たことを大学や社会でも活かしていきたい。



[2] 研究発表（生物）「昆虫培養細胞を用いた農薬の選択毒性評価」

山口高校 井内賢・土島輝

私はぎふ総文に自然科学部門の一員として参加しました。自然科学とは「自然現象を対象とする学問の総称」を指します。実際の総文での発表も全国各地から県で選ばれた生徒たちが集まり、各々が積み重ねてきた自分の研究を化学、生物、物理の三分野で発表します。私は生物分野で出場しました。私の研究内容をひとことでまとめると、「細胞」です。文系の私にとってこのようなものを取り扱うのは至難の技でした。しかし、挑戦することに意義があると思い、細胞についての理解を深めるために努力しました。初めは、細胞の構造や機能についての基本的な知識さえも十分ではなく、何度も参考書や資料を読み返し、専門的な用語や概念を学びました。

途中で思うような結果が得られないこともありましたが、それもまた研究の一部であり、失敗を通じて学べるが多かったです。

総文での発表では、他の県から参加した生徒たちと情報交換をすることができ、さまざまな視点を得ることができました。また、発表を通じて自分の研究を他者に伝える力を養うことができました。この経験は、科学的な思考や探究心を深めるだけでなく、難しい課題に対する取り組み方や忍耐力を学ぶ貴重な機会でした。



今後は、さらに深く学び、細胞の研究を続けていきたいと思っています。文系の私が挑戦した自然科学の分野ですが、この経験を通じて、理系と文系を超えた学問の面白さを実感することができました。



[3] 研究発表（物理）「遠くに飛ぶ紙飛行機を作る」

宇部高校 高橋慧介・武居律希・寺坂渉

ぎふ総文に参加して、人生ではじめての全国の舞台だったのでとても緊張しましたが、自分の研究の成果を精一杯発表しました。僕たちは遠くに飛ぶ紙飛行機の作成について発表しました。



内容は、あらかじめ3種類の紙飛行機を作成し、それぞれの紙飛行機の飛行距離の平均や、空気から受ける影響を調べ、結果をもとに遠くに飛ぶ紙飛行機を作成するというものです。それなりに時間を費やし、休みの日も顧問の先生に協力してもらい研究に取り組んだ私たちの努力の結晶です。しかし各校の発表が始まった時、私たちは衝撃を受けました。自分たちの研究とはレベルが違う。もはや何を言っているのかもわからない。もう啞然としました。それらの発表の中でも特に印象に残っているのは、私たちの前に発表し、最優秀賞を受賞した「分光光度計の透過スペクトルから光学膜厚を測定する方法を確立する」という発表です。内容から発表の仕方までがもう「すごい」。この発表のためにしてきた彼女の努力が感じられるものでした。

また、私たちの発表した後には、今後の研究方針についてアドバイスをしてくれる生徒や私たちの作成した紙飛行機の折り方について教えてほしいと声をかけてくれた生徒がおり、彼らのおかげで今後の研究で修正したいことや研究のやりがいを強く感じる事ができ、モチ

バージョンになりました。

巡検では「アクア・トト」という世界最大級の淡水魚園水族館を訪れました。



館内には数多くの展示があり、岐阜県と長野県にまたがる長良川の源流から河口までの生態を再現したエリアには二ホンウナギや大垣市の魚であるハリヨなどが展示されえていました。ほかにもメコン川やコンゴ川、タンガニーカ湖エリアなど世界中の淡水魚を見ることができました。その中でもアマゾン川エリアには世界最大の淡水魚の一つであるピラルクーや鋭い歯をもち、集団で獲物を襲うピラニア・ナッテリーなどがいました。

全体的に見たことのない淡水魚が多く、とても興味深く思い出に残るものとなりました。いつか家族とも行ってみたいです。



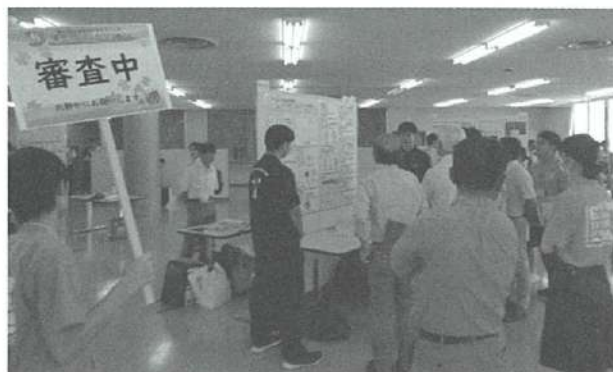
今回のぎふ総文で私たちは研究することの楽しさや、継続の大切さなど様々なことを学びました。この学びを無駄にしないように後輩や別の研究班の同級生に伝えていきたいです。

[4] ポスター発表（化学）「カーボン系固体酸触媒を用いたセルロースの加水分解」

徳山高校 川口博大・郷木拓実

自分たちの研究について

研究では結果がなかなか出ず、非常に苦労しました。計測する対象が沈殿であるといった点も実験の難易度を上げる要因になったと思います。また触媒を使用する過程でそれが本当に作用しているのか実験の最後まで分からないため、難しかったです。



1日で生成可能な触媒の量が非常に少なく、1度の実験で使用する量を作るのが非常に大変でした。また、生成した触媒の量が少ないので、少ない実験回数で結論を出すのに苦労しました。セルロースが分解されて生じたグルコースの量を測定可能な装置が使用できず、方法を模索するのに苦労しました。グルコース量を測定するために検量線を引きましたが、実験手順の不備や実験誤差によりデータのばらつきが多く出ました。そのため、信頼性の高い検量線を引くのに多くの時間を費やしました。



他校の研究内容について

どれも多くの試行回数と深い考察によって新たな方法を模索しており、非常に興味を持ちました。特に白金箔における水素と酸素の反応についての研究では、従来の解釈に疑問を持ち、白金の穴のサイズを変え、分子の凹凸構造に着目した反応について示しておりとても興味深かったです。他にも幼児の吸水ボールの誤飲事故に対する手術回避の方法についての研究では、カルシウムのサプリメントの摂取量を変更することでほとんどの場合で収縮に貢献することが示されていました。上記以外の研究発表でも多くが新たな視点によるもので、十分に科学に対する知見を広げることができたと考えます。

清流の国ぎふ総文 2024 に参加して

山口県立長府高等学校
並 知宏

私は、岐阜県岐阜市で開催された全国高等学校総合文化祭の総合開会式に、山口県代表として参加しました。先生から総合開会式への参加のお話をいただいた時、私は全国高等学校総合文化祭というものがあることは知っていたものの、総合開会式については何も知らず、それに参加することのイメージもあまり湧きませんでした。その日、家に帰って、昨年の「かごしま総文」の総合開会式をインターネットで視聴しました。そこに映っていたのは、キラキラと輝き躍動する、自分と同世代の高校生たちでした。高校生が主体となって作り上げられる舞台に一部でも立てること、そして、全国の高校生と交流できることに魅力を感じたため、参加を決意しました。

総合開会式への参加が決まると、私にある宿題が出されました。それは、総合文化祭への意気込みを、都道府県の「推し」を交えて発話する文を考えるというものでした。角島大橋、錦帯橋、フグ、カルスト台地、瓦そば、夏みかんなど、紹介したいものはたくさんありました。しかし、できるだけ簡潔にまとめなければならず、悩んだ末、瓦そばを選びました。そして、熱々の瓦そばの麺がからまっている様子から、発話の文章を「瓦そばのような熱い絆を結びます」としました。難しい宿題でしたが、改めて山口県のたくさんの魅力に目を向けるきっかけになりました。

本番前日、私は引率の先生と岐阜市に向かいました。到着した岐阜駅には、「清流の国ぎふ総文 2024」と書かれた旗や横断幕があちこちにあり、ついに全国総文の開催地に來たのだと、わくわくする気持ちが湧いてきました。

本番当日、会場である長良川国際会議場に着くと、ぎふ総文のTシャツを着た方や、私と同じ都道府県代表の生徒など、たくさんの高校生が集まっていました。受付や誘導など、ほぼすべての仕事を同世代の高校生たちがテキパキとこなしている姿は、とても印象的でした。会場に入ると、リハーサルが始まりました。入場や発話の仕方などを確認し、都道府県代表生徒入場を2回通して練習しました。入場の際は、岐阜県立岐阜商業高等学校吹奏楽部の方々に誘導していただき、迷うことなくスムーズに入場から発話まで行うことができました。私自身も吹奏楽部に所属しており、誘導して下さった県立岐阜商業の方と共通の話題を話すなかで、少しずつ緊張が解けていきました。そのおかげで本番でも堂々と発話することができました。

また、翌日には美術・工芸部門の展示会場に足を運び

ました。普段慣れ親しんでいる音楽だけでなく、同じ高校生の感性あふれる作品、美術・工芸の魅力や奥深さに触れることで、世界が広がりました。

今回の「ぎふ総文」に参加したことは、私にとって積極的にコミュニケーションをとる姿勢を身につけるきっかけになるとともに、全国の高校生の輝く姿から刺激を受け、最高の思い出になりました。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



第 52 回全国高等学校総合文化祭山口大会 (令和 10 年開催) 令和 6 年度生徒準備委員会 活動報告

山口県教育庁高校教育課指導主事 高橋 由佳里

令和 6 年度は、大会の目的、特色等を明文化した大会基本方針の原案を作成しました。ファシリテーターに西京高校の青木幸子先生を迎えて、活発にグループ討論を行い、完成させました。今後この「大会基本方針」をもとに、大会テーマやポスター原画等を公募します。

(1) 生徒準備委員会の活動経過

回	日 付	会 場	主な内容
1	令和 6 年 9 月 14 日 (土)	KDDI 維新ホール	・ 生徒準備委員委嘱状の交付 ・ 全国高総文祭及び大会基本方針の概要説明
2	令和 6 年 10 月 12 日 (土)	県立山口松風館高等学校	・ 大会基本方針のキーワード集め 等
3	令和 6 年 12 月 7 日 (土)	県立山口松風館高等学校	・ 大会基本方針原案の検討
4	令和 7 年 1 月 18 日 (土)	県立山口松風館高等学校	・ 大会基本方針原案の完成



集合写真



大会基本方針のキーワード集め



大会基本方針キーワードの検討



大会基本方針原案の検討

(2) 大会基本方針原案の提案

第 1 回開催準備委員会 (3 月 24 日県庁) においてプレゼンテーション

〈発表者〉 県立長府高等学校 1 年 高嶋 芙月
県立下関中等教育学校 4 回生 橋本 和虎
下関短期大学付属高等学校 1 年 山口 月灯

第 52 回全国高等学校総合文化祭山口大会（令和 10 年） 大会基本方針

「これが私の故郷だ」 中也を、山頭火を、そしてみすゞを生んだ、ここ山口。

3 億年の記憶を語る「秋吉台」。表情豊かな二つの海。清流に架かる五連のアーチ「錦帯橋」。SL の車窓にきらめく田園、そして、青い山。この風景が見つめてきたのは、源平最後の「壇ノ浦の合戦」、「西の京」に花開く大内文化、そして、幕末維新の志士たち。

歴史ドラマはじまりの地、山口で、全国の仲間の声が響きあい、そこに生まれる新たな物語。そんな総文祭を目指し、文化維新、発進です。

〈ときめき〉

好きという想いが響きあい、新たな好きが見つかる。

そんなときめきに満ちた大会を目指します。

〈かけはし〉

人と人をつなぎ、新たな出会いのかけはしとなる。

そんな大会を目指します。

〈はじまり〉

幕末維新はじまりの地で、新しい文化の風を起こす。

そんな夢への一歩となる大会を目指します。

令和 6 年度生徒準備委員会

	専門部名	学校名	学年	氏名
1	演 劇	山 口 中 央 高 校	2 年	榊井 春香
2	合 唱	山 口 高 校	1 年	松原 彩世
3	吹 奏 楽	宇 部 高 校	2 年	星野 心愛
4	器 楽・管 弦 楽	山 口 高 校	2 年	先本 真央
5	日 本 音 楽	下 関 短 期 大 学 付 属 高 校	1 年	井町 杏奈
6	吟 詠 剣 詩 舞	下 関 中 等 教 育 学 校	4 回生	橋本 和虎
7	郷 土 芸 能	宇 部 鴻 城 高 校	2 年	小林 蒼空
8	マーチングバンド・パントワリング	山 口 県 鴻 城 高 校	3 年	岡村 玲菜
9	美 術・工 芸	慶 進 高 校	2 年	安田 恵望
10	書 道	山 口 高 校	2 年	年藤 優花
11	写 真	南 陽 工 業 高 校	1 年	斉藤おとめ
12	放 送	山 口 中 央 高 校	2 年	渡邊 早織
13	囲 碁	防 府 高 校	2 年	横田 百晴
14	将 棋	防 府 高 校	2 年	岩本 慶太
15	弁 論	徳 山 高 校	2 年	山本 万容
16	小倉百人一首かるた	長 府 高 校	1 年	高嶋 英月
17	新 聞	光 高 校	2 年	杉尾 歩莉
18	文 芸	下 松 高 校	2 年	志熊 桃花
19	自 然 科 学	山 口 高 校	2 年	井内 賢

自主事業・補助事業の報告

《自主事業》【劇団「海峡座」演劇公演】

山口県立下関工科高等学校

【2年 生徒感想】

自分は劇を見るのが初めてでした。劇を見る中で、ヘレン・ケラーがどのように成長していくのか、また、サリバン先生がどのようにヘレンと接していくのか考えながら見ました。

自分が特に印象に残った場面は、ヘレンが初めてちゃんとして言葉を話したことです。最初は言葉も話せない、耳も聞こえない、目も不自由で、食事のマナーも分らなかったのに、サリバン先生の愛情のある指導で「奇跡」が生まれました。この劇を通して、自分はあきらめずに努力する事の大切さをあらためて知りました。自分も今、勉強や資格試験など、よい結果を残すことができていないけど、ヘレンやサリバン先生のように、あきらめず努力し続ければいつか結果として残ると思いました。

この貴重な時間で学んだことを忘れず、今後に生かすためにこれから頑張っていきたいです。



【3年 生徒感想】

演劇にふれる機会が今までなく、知識も見るときのマナーも分かりませんでした。見ていてとてもおもしろかったです。内容もメッセージ性があり、ヘレン側もサリバン先生側もどちらの努力も感じられ、最後には障害を克服し、二人の努力がむくわれ、とても感動しました。演技も感情が込められており、聞き取りやすく、物語に入り込むことができました。今まで演劇など、そういった分野に手を出してみようか迷っていましたが、この公演を機にとっても興味をもちました。手始めにいろいろなジャンルを見てみようかなと思います。

今回の演劇は工科の先生や生徒が参加しており、みんなで舞台をつくって見ている側も顔見知りが出て、飽きずに演劇を見ることができました。



《自主事業》【「宇部芸術座」演劇公演】

下関国際高等学校

【1年 生徒感想】

事前情報で、演技をするだけでなく小道具や背景まで自分たちで作っていると聞き驚いた。劇団についてあまり知識がなかったので、演者として舞台に立つだけが劇団だと思っていた。また、昭和初期からある劇団だと聞き、令和の今まで続いていることに感動した。幅広い年齢層の方が仕事終わりに練習するという熱量がすごいと思った。いざ演劇が始まると、演者の方の演技力に一気に引き込まれた。まるで自分も山の中にいるような気がした。演者の方だけでなく、照明の方や効果音を流す方も一体になってステージ上の雰囲気を作っていた。照明は光の色で時間帯が分かりやすかった。効果音が演者の方の動きにぴったり合っていて感動した。



【2年 生徒感想】

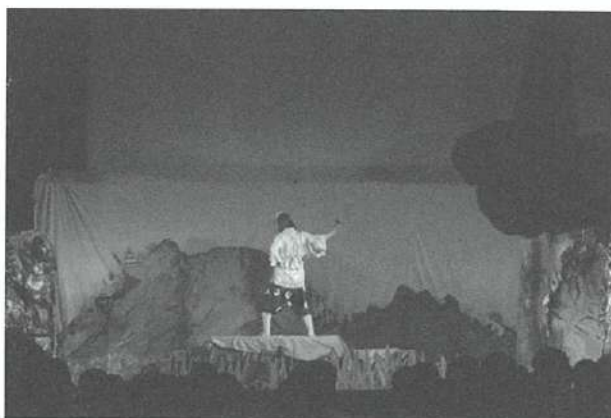
小道具が手作りだと聞いて驚いた。自分がメインではなく、他の役の人がセリフを言っているときに、表情が

変わらなかったのが印象的だった。波の音、鳥の鳴き声などがあって、聞いていて、自分も劇の中に入ることができた。一回一回のセリフを言うときの表情や動作がしっかりしていて、すごく興味心を抱いて見る事ができた。一場面ずつ区切られていて、構成がとてもつかみやすかった。かっぱ釣りの場面がとてもおもしろかったです。笑っているとき、怒っているときなど言動だけでなく、行動や表情もあってすごく見ていて楽しかった。この演劇で、自分も劇に興味をもつことができたようになった。機会があれば自分も挑戦してみたい。

【3年 生徒感想】

本日の芸術座を鑑賞して、まず彦一のズルがしこさがかなり面白かったです。うそつきの名人と自身で言うだ

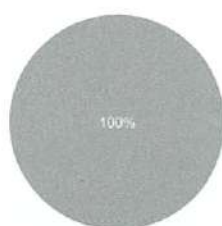
けあって彦一と天狗の息子、彦一と殿様とのかけ引きが良かったです。ズルがしこい彦一は、うまく問題をごまかしながら生きていますが、だんだん自分の首が締まっていく様が見物でした。現実でも十分あり得る流れなので、見ていて飽きないものでした。次に、演出が素晴らしいものでした。音、光、小道具を上手に使いこなされ、その世界に入り込むことができました。釣り糸が水に落ちる音、彦一と天狗が川に落ちた時の水しぶきなど見る側が想像しやすい演出となっており、文化祭でも活かしたいと思うほどでした。ステージ上で感想を言った者ですが、もっと濃い内容をお伝えしたかったです。しっかり鑑賞させていただきました。本日はありがとうございました。



《自主事業》【劇団「のんた」演劇公演】 山口県立防府高等学校佐波分校

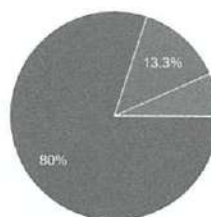
令和6年度山口県高等学校文化連盟自主事業アンケート

Q1 学年を選択してください。
15件の回答



● 1
● 2
● 3

Q2 今回の公演を鑑賞してどう感じましたか。
15件の回答



● とても良かった
● まあまあ良かった
● あまり良くなかった
● 良くなかった

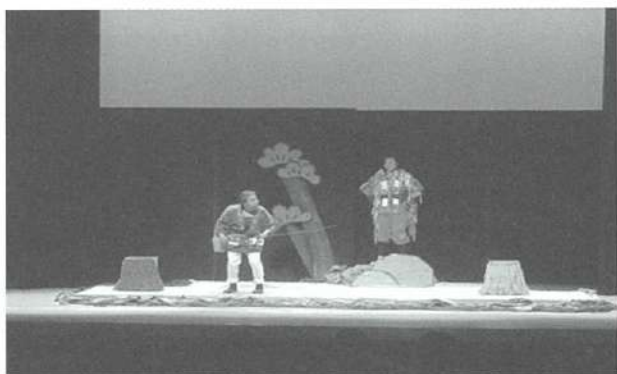
【生徒感想】

彦一ばなしが個人的に好きで、劇が見られてよかったなと思いました。花さき山は、知らない話だったけどとても面白い話で、暗いところを使った紙芝居はとてもよかったです。

・特によかったのが紙芝居で、普通の紙芝居と違って光に照らされていて綺麗で、とても良い話だった。
・同じ話を見ても劇団によってほんとに演出とか台詞が同じでも読み方とかで全然違うものになるんだなと思いました。紙芝居も見ただことないはなしですごく興味

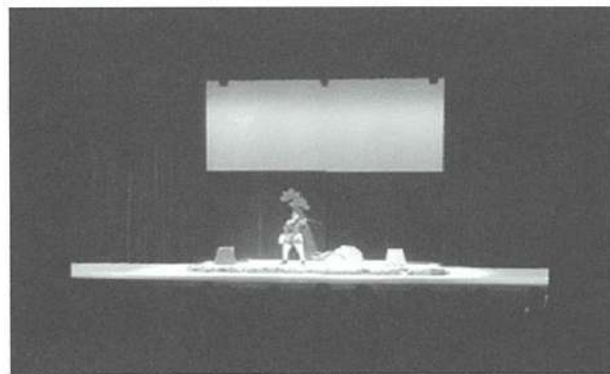
深くて考えさせられた話でした。またなにかの機会があれば劇とか見てみたいと思います。

- ・とても面白かったです。私が一番印象に残ったのは、最後の紙芝居です。優しいことをすれば心に花が咲くのがとても良かったです。私も優しいことをして、心に花を咲かせていきたいと思います。
- ・花咲山の紙芝居は紙じゃなくて光を利用して作られていてとてもよかったなとおもいました。優しいことをしたら花が咲くというところがとてもいいなと思いました。
- ・1つの嘘を隠すために次の嘘をどんどんついて取り返しのつかないことになっていて自分も嘘をつかないのは無理だけど嘘をつく時は気をつけて嘘をつこうと思いました。



・劇と紙芝居がとてもおもしろかったし、興味深かったです。劇では天狗や海の表現がとてもリアルで良かったです。花咲山の紙芝居は色がハッキリしていてすごく綺麗でした。天狗の演劇は天狗を演じた人がすごい声が出ていたので本当に迫力がありました。とても良かったです。

- ・今回の公演を鑑賞して色々と面白くて丁寧な公演に感動しました。紙芝居もいい感じで丁寧な読みで感動しました。今日公演を鑑賞して良かったと思いました。
- ・役者の演技がとても上手で自然にできるのがすごいと思いました。お酒に酔っ払った様子や川に落ちて追いかけている様子もとても上手で印象に残りました。



《自主事業》【「山口県交響楽団」演奏会】

山口県立周南総合支援学校

【生徒感想】

私はオーケストラを見たことがなくて、今回きいて迫力があってとても印象に残りました。交響曲第5番「運命」や「威風堂々」は知っていたけれど、知らない曲を聞いたら、知っている曲も多かったです。

楽器の種類もたくさんあることに驚きました。トランペットは見たことがあったけどチューバは大きくてびっくりしました。ピアノは打楽器だということが知れて良かったです。ラデツキー行進曲も強弱があって聞いていて楽しかったです。



【生徒感想】

山口県交響楽団の公演を初めて見させていただきました。ベートーベン「運命」と威風堂々第1番はよく知っている曲だったので、とても嬉しかったです。今まで交響楽団を生で聴いたことがなく、迫力のある演奏でした。とても楽しく有意義な時間となりました。

楽器の紹介では、コントラバス、フルートなど様々な楽器があることを知ることができました。60名くらいの方々の演奏は初めてだったので圧巻でした。

とても楽しい時間でした。本当にありがとうございました。来年もぜひ、お願いします。



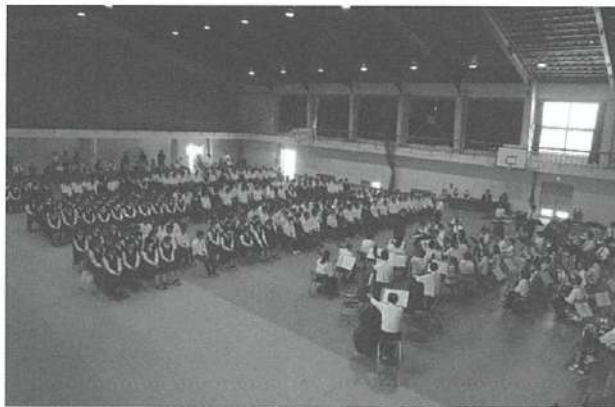
【1年 生徒感想】

忙しい中、遠い所から来られて、素晴らしい演奏をしていただき、誠にありがとうございました。50人という大人数で、目の前で実際に演奏するのを見るのは初めてです。インターネット、テレビで見ると違って、本当の音を味わうことができました。初めて見る楽器も多くあり、想像より大きく複雑でした。どんな曲の演奏でも目を閉じて聞いてみれば、その曲の絵画、雰囲気が自分の中に浮かびました。作曲者の思いと伝えたいことも感じることができました。楽器は、打楽器・管楽器・弦楽器の3種類のグループに分かれ、そのグループの中で楽器によっても分けることができることがわかりました。最も低音まで出せる弦楽器、柔らかい音まで出せる管楽器があることにすごくビックリしました。打楽器を叩くと振動が足元まで伝わって打楽器の魅力がすごく伝わりました。コントラバスを回すことで楽しい雰囲気になることも感じられました。公演していた皆さんの音楽に対する思いと楽器の魅力を最も感じられた演奏会でした。

【2年 生徒感想】

1年生の時に音楽の授業を受けて、その時に聞いた昔の世界中の名曲を生演奏で聞けてすごくうれしかったのと感動しました。

中学生のときに吹奏楽部だったのもあって、あそこまで綺麗で1人が演奏しているかのような一体感のある音でこんなにいい音って出せるんだなと思ってびっくりしました。それと指揮者が違うと同じ曲でも全然ちがう曲になることに気づけました。指揮者に合わせて曲を作りあげていける演奏者の方もすごいし、曲に合わせた理想の演奏を作りあげている指揮者も本当にすごいなと思いました。演奏者1人1人の実力と指揮者のわかりやすい指揮とお互いの信頼で、このすてきな演奏が生まれているんだと思うとすごく感動しました。音楽が好きな私にとってすごくいい機会になりました！



【2年 生徒感想】

私が落語というものに触れたのが、母が見ていた落語のアニメで、その時初めて見ました。その時にとてもおもしろいと感じていたのを思い出して、今日の公演を楽しみにしていました。だけど、「笑う場面がいつなのか」や「わかっていいのかわかるかな」と少し不安もありました。けれど、いざ始まってみると、ものすごくおもしろくて、すぐに話に引き込まれました。

落語は口で話すだけではなく、目線やちょっとした身振り手振りも話の魅力を引き出す一つの方法なんだと今日学びました。もちろん話がメインだけれど「目は口ほどにものを言う」とはこういうことなのかと思いました。食べ物を食べる音や、その時の仕草が熱々のおそばを食べているかのような錯覚におちいるほど再現されていて、びっくりしました。

人に話をするのが苦手なのですが、話の構成を考えることも大切だし、まず話を聞いてもらえるような話し方を身につけることも大切なんだと思いました。これ

からまた落語に触れる機会があれば、ぜひ聞きたいです。今回は本当にすてきな話を聞かせてくださり、ありがとうございました。また聞きたいです！

【3年 生徒感想】

私はテレビなどでも落語をあまり見たことがなく、あまり親しみがなかったけど、今日初めて直で落語を見ることができとてもうれしかったです。西高生の前だったため、人の数はそんなに多くはありませんが、普段はもっと大人数のお客さんの前だったり、全国に放送されるテレビだったりたくさんの人を自分が話すことで笑わせるということはとてもすばらしいことだと思いました。よねたろうさんは芸能の世界にいきたいという夢から、最後は人を笑顔にすることができる落語家になったという話を聞き、夢をもつことのすばらしさや、その夢に向かって行動をすることの大変さや達成感などのお話を聞くことでたくさん勉強することができ、とてもよかったです。

《自主事業》【青少年劇場小公演 ～みる・真似る・伝える～
はせがわ天晴「マイムの時間」】

山口県立徳山総合支援学校

【1年 生徒感想】

私はかべとエスカレーターのパントマイムに感動しました。体験コーナーでやってみましたが、難しかったです。私はバルーンアートが好きでした。割れそうなバルーンを様々な形にしていたので、びっくりしました。本校におこしいただき、ありがとうございました。すごく楽しかったので、来年も来ていただけると嬉しです。

【2年 生徒感想】

今回のパントマイムを見て、一番心に残った場面は「父」というパントマイムです。子どもから大人になり、おじいさんになり、一生を終えて天国に旅立つという1人の男性の人生の流れを見ました。感動しました。そし

て、人生は、あっという間なのかもしれないな、1日1日を大切にしていきたいな、と思いました。

【3年 生徒感想】

とても楽しいパントマイムの時間を作っていただき、ありがとうございました。パントマイムを生で見たことがなかったので、とてもワクワクしていました。お二人がそれぞれに違ったパントマイムを見せてくださったので、2倍楽しめました。「卵」はハラハラドキドキしました。たくさん笑いました。



《補助事業》【吉田豊ジャズコンサート】

山口県立熊毛北高等学校

【ライフデザイン科3年 生徒感想】

今日の演奏会とても楽しかったです。日頃動画でしか聞くことのできなかったジャズをとて近距離で聞くことができてもうすごうれしかったです。演奏を聞くだけでなく、生徒も参加して一緒に演奏を楽しむことができ良かったです。

校歌をジャズ風にアレンジされたものを聞き、校歌がさらにすてきなものになっていて、「やっぱりジャズっていいな」と思うことができました。みなソロパートはどれも迫力がありとても感動しました。私は最後実際に楽器を生徒が演奏できる際にベースを触らせてもらいました。実際に触ってみると、思っていた以上に弦が固くておどろきました。吉田さんの真似をするように演奏してみたのですが思うように音がでなくて、ものすごい努力をされてきたのだと実感しました。これからのみなさんのご活躍をお祈りしております。



【普通科1年 生徒感想】

自分はジャズとかには全然遠い存在の人間だったので今回の吉田さんのジャズが初めてだったけど、とてもすばらしい演奏でした。ジャズとはみんなで作り上げる、みんなで楽しむものだ初めて知りました。今回演奏中に手拍子が入ったり、吹部のみんなが挑戦したりなど熊北の生徒がみんな1つ、一体化して作りあげたジャズが聞けて本当に楽しかったです。もう一つ思ったのは、校歌をジャズにアレンジする所や校歌はピアノ1つで演奏しているのに、4つの楽器を使ってジャズ風にしていて聞いていた方も、本物のジャズみたいと感動しました。自分達が聞いたことのあるディズニーの楽曲から、ワルツや様々なものまで、ジャズにすることができるのだなと思いました。初めてのジャズを聞いて、知らない音楽でも、自分たちが参加できたり、楽しむこともできるのだと思いました。創立記念コンサートにジャズが聞け、学べて良かったと思いました。楽しかったです。



【1年 生徒感想】

私は初めてジャズを聞いて、ジャズとはどういうものか分かりました。

アルトサックスやドラムがすごく、音も大きくて、感動しました。

ジャズとは何かを知ることができて、普段味わえない貴重な体験をすることができたのでよかったです。ステージに上がった1年生5人も、とても勇気があり演奏もきれいでした。

また、このような機会があったら行ってみたいと思うようになりました。音楽の楽しさや豊かさなどを感じられてとても楽しかったです。今度は今回習ったことを含めて聞いてみたいです。



【2年 生徒感想】

本当に楽しかったです。気になっていたコントラバスの体験もできたり、何より吉田さん達の音楽を楽しまれている姿に感動しました。素敵なステージに参加できたことが本当にうれしかったです。

リハーサルのときから私達に親切に指導してくださり、本番も楽しく自由に音楽を楽しんでおられて、自分も吉田さん達のような演奏者になりたいと思いました。

今日をずっと「緊張する」という気持ちでいたけど、コンサートを聞いているうちに緊張がとけていきました。それぐらい感動して演奏に見入っていました。

もしまた機会があれば一緒に演奏したいです。大きく成長した姿でまたコラボ演奏をしたいと思いました。

素敵な時間を過ごせてとてもよい思い出です。



【2年 生徒感想】

いつも聴いているジャンルとは違う音楽が聴けて、とてもわくわくしました。それぞれの歌にはそれぞれのストーリーがあって、日本語ではなかったのに歌詞の意味までは分からなかったけれど、顔の表情や動き、ピアノの強弱でそれが伝わってきました。やっぱり「音楽は第二の言語」という言葉があるように、世界で通用する素晴らしい文化だと思いました。いつもは、動画やSNSで音楽を聴いているけれど、生で聴くとその場の臨場感や空気が伝わってきて、数百年前の実際の場面にいるかのような感じがしました。

藤田さんのお話の中で、挫折の後に自分がときめくものを見つけた、とありましたが、それは難しいことだと思います。しかし、それを乗り越えて音楽にたどりついたのはすごいことだと思います。

【3年 生徒感想】

テノールコンサートについてなんとなくイメージはあったものの、実際に聴いてみて圧倒されました。最初のピアノの激しいテンポの曲を聴いた瞬間から魅きこまれ、雨が降っていて普段よりさらに声が聴きづらい状況にも関わらず、しっかりと芯のある声が体育館に響き渡っていて素敵でした。何度か聴いたことがある歌や曲もあって心地よかったです。

藤田さんの歌の披露が終わったあと、2人の生徒が歌のレッスンを受けましたが、2人とも元々高音がすごくきれいだったのに加えて、声の出し方を変えるだけで響きが変わったのが印象的でした。いつも私が歌を歌うときは、特に何も気にせず歌っていたので、演劇部でセリフを話すときなど歌うとき以外にも声の出し方を意識しようと思います。

ピアノの伴奏と力強い歌声がとてもマッチしていて、とても素敵なコンサートでした。



《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

山口県立山口中央高等学校

【1年 生徒感想】

あんまりこういうコンサートに行く機会がないので、テノールの歌声を聴けて嬉しかったです。オペラなどをちょうど音楽の授業でやっていたので「オー・ソレ・ミオ」はとても聞きなじみがありました。授業でやっても完全には歌うことができないので、藤田さんの歌を聞いてすごく感動しました。オペラは生で聞くのが初めてで迫力が凄くて驚きました。席が一番後ろだったにも関わらず、歌詞がはっきり聞こえてとてもきれいな歌声だったので、本当にすごいなと感動しました。また、ピアノ伴奏もすごくきれいで、声とのハーモニーがとても美しかったです。ソロで弾かれた曲は毎朝聞くけど、生で聞いたのは初めてで、生で聞くのはやっぱりいいなと思いました。

私は合唱部でも演劇部でもないのですが、複式呼吸のやり方や発声練習はとても参考になりました。やり方が分からなかったのが、丁寧に教えて頂いたおかげでやり方がよく理解できました。

私は藤田さんの話を聞いて、続けているものに力をかけて努力しようと思いました。

【2年 生徒感想】

実際に活動されている方の歌声をなかなか聞くことができないので、とてもいい経験になりました。藤田さんが歌われた曲で音楽の授業で歌ったことがあるものもあり、自分達が歌った時とは全く異なる音色で感動しました。それぞれの曲の背景をお話しされていて、曲に合わせて歌い方を工夫されているのが伝わってきて、すごいなと思いました。ピアニストの方の独奏は、音の強弱などの工夫ですごく聞いていて安心できるような音でした。一つのピアノで曲によってこんなにもピアノのイメージが変わることを初めて知ると同時に驚きました。

また、合唱部のご指導をされた時は、初めの歌からどんどん変化が感じられてとても驚きました。演劇部はそれぞれのペアによって、間や言葉の意味が変わっていてそれによってピアノの印象が変わるのが見ていてすごくおもしろかったです。男女でイメージが変わるのも驚きでした。

このコンサートの時間があっという間ですごく楽しかったです。



山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No. 1

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成、Rは令和)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

☆はコロナ禍により中止したもの。

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
1	周防大島 安下庄校舎	63,7,25	4,10	10,21,28			26,27
	久賀校舎	63	3				
2	岩国	1					
	坂上分校	63,11	5,26	3			
	広瀬分校	63,14,21	17	20,26			
3	岩国総合	1,30	11				
4	高森		2				
5	岩国商業	3		62,15			
	定時制東分校						
6	岩国工業		2	6,8			
7	柳井		7	11,29			19, ※ R7
8	柳井商工		11,14	1,4,11,14, 27			
9	熊毛南	63,19(分),27,R1,R5	6,17	12,24			20,26,28,30,R2,R3
10	田布施農工	15(分),18(分)	3,18,20,27	5,24	16		22,R3
11	光	63,20(定)	8,23	17			21,29,R2,R4,R6
12	下松	63,7,12	15				
13	華陵	63	8, ※ R7	1			R1
14	下松工業		1				
15	熊毛北	R4	2,14	63,7	R1		R2,R3,R5,R6
16	徳山	4(定),8(定),10(定)	15		12		R3
	徳山北分校	63,21	4,11	8			20
	鹿野分校	3,10	9	1,16			
17	新南陽	63	22	25	5	14	19
18	徳山商工	63,1,5		3,4	7		
19	南陽工業	1,R1	62				
20	防府						23
	佐波分校	63,7,R2	27	R1,R6	R5		R4
21	防府西	1	10				
22	防府商工	63(定),1	12,30			6	
23	山口	62(定),15(定),16(定)	2				27
	徳佐分校	63(分),25,27	63,10,20	13			
24	山口中央	63,10,12,13	R2 ☆ ,R3				22,R1,R4,R6, ※ R7
25	山口松風館						
26	西京	62	4		7		R1
27	山口農業		5,21		3	24	29
	西市分校		63	22		27	23
28	宇部	63					
29	宇部中央	1(定),14(定)	10,19		63,26	30	23
30	宇部西	R6	14,28		10,23		26,27,30,R2,R5
31	宇部商業	63	62,6		3		
32	宇部工業	2,13	8				
33	小野田	63(定),19(定)			22,27(定)	25	R2 ☆ ,R3,R5
34	厚狭・厚狭明進	1	15,21			9,18	28
35	小野田工業	63(定)				4	
36	美祢青嶺	4,22	63	R2,R5	17,20,29	10	
37	田部		1,13		18	20	

山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No. 2

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成、Rは令和)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

☆はコロナ禍により中止したもの。

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峽座	
38	豊浦						
39	長府	1					26,30
40	下関西						19,28,29(定)
41	下関南	22					
42	下関北	62,R3	3,28,R5	※ R7		15,22,29	30
43	下関双葉		※ R7				
44	下関工科	62,28	12,25,29			2,6,R1,R6	19,20,22,R5
45	大津緑洋 大津校舎	63	12		5		
	日置校舎	63,5,9,15	19	※ R7	25	2,13,23	22
	水産校舎		12				
46	萩	63	3			6	24
	奈古分校	11,17	1,9,24			26	R6, ※ R7
47	萩商工	63	6,7,16,R6	23	9	2,4,12,17	
48	下関中等教育				5		
49	岩国総合支援	3,13,16,30	24	10,19,R4			
50	田布施総合支援	6,17	62,R2 ☆,R3 ☆	30			
51	周南総合支援	15,17,20	R6				
52	徳山総合支援	1,11,R6, ※ R7	R5				
53	防府総合支援	62,63,3,12,26,28	16				
54	山口南総合支援						
55	山口総合支援	19	14,R4				
56	宇部総合支援	63,5,14,R3,R4,R5, ※ R7	1,9	18			
57	下関南総合支援	63,3,8,10,16,R2	7,25,R4			1	R5
58	下関総合支援	2,6	16		※ R7		
59	豊浦総合支援	11,13,16,23,29	26			19,21	20,27
60	萩総合支援	6,24					
61	下関商業	14(定)					
62	高水			62			
63	柳井学園	6		63,R3 ☆			
64	聖光		2,30				
65	山口県桜ヶ丘		R1				
66	誠英				7	9	
67	高川学園						
68	山口中村学園	63, ※ R7	2,5,22		11	16	R1,R4
69	野田学園	63	18				
70	山口県鴻城		10,29		12,15		
71	宇部鴻城		7		9		
72	慶進	29	23		30		21
73	成進						
74	宇部フロンティア香川		1,5,15		11,19,28,R2 ☆,R3 ☆,R4		
75	サビエル						
76	下関国際		R1		R6	R5	
77	梅光学院						
78	早稲						
79	下関短期大学付属	62,63,4,7,24,26			8	28	
80	長門		6				
81	萩光塩学院						

令和6年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

月	日	事	業	会	場
4	10	会計監査			山口中央高校
	18	第1回企画運営委員会			山口中央高校
5	10	評議員会			山口市:セントコア山口
	15	第46回県総文祭総会開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 令和5年度集録「高文連」発行			防府市地域交流センター(アスピラート)
	21	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会			東京:星陵会館ホール
25 ~	26	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管:防府高校)			防府市文化福祉会館
	26	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管:慶進高校)			小野田高校 武道場
	29	自主事業「山口県交響楽団演奏会」			萩商工高校
6	2	第71回NHK杯全国高校放送コンテスト山口県大会(主管:山口中央高校)			山口県健康づくりセンター
	6	山口県文化連盟 総会			山口市:かめ福オンブレイス
	13	第46回県高校総合文化祭総会開会式(主管:防府西高校)			防府市地域交流センター(アスピラート)
14 ~	15	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管:防府高校・山防・長北支那)			三友サルビアホール
	15	県高校総合文化祭「日本音楽・郷土芸能部門」(主管:岩国高校)			シンフォニア岩国
	17	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」			防府高校佐波分校
	28	中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議			島根県浜田市:石中央文化ホール
7	19 ~	第46回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会			滋賀県 大津市 近江神宮
	31 ~	(公社) 全国高等学校文化連盟各専門部会			岐阜県
	31 ~	第48回全国高等学校総合文化祭(清流の国ぎふ総文34)			岐阜県
8	1	(公社) 全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議			岐阜市 ホテルパーク
	26	第46回県総文祭総会開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会			防府西高校
22 ~	23	山口県中学校文化連盟第20回総合文化祭 下関大会(兼 全国大会)			
24 ~	25	第35回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演			東京:新国立劇場中劇場
9	8	第27回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選(主管:桜ヶ丘高校)			小野田高校 武道場
10	8	自主事業「山口県交響楽団演奏会」			周南総合支援学校
	11	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管:下松高校)			下松高校
	11	自主事業 青少年劇場小公演 ~みる・真似る・伝える~はせがわ天晴「マイムの時間」			徳山総合支援学校
	18	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」			山口中央高校
	20	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管:徳山高校)			徳山高校
	22	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」			光高校
	25	自主事業 巡回演劇「海峡座」			下関工科高校
26 ~	27	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管:長府高校)			下関市民会館
	28	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」			下関国際高校
11	2	県高校総合文化祭「放送部門」(主管:山口農業高校)			山口県健康づくりセンター
	6	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」			熊毛北高校
	7	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」			萩高校奈古分校
8 ~	10	県高校総合文化祭「写真部門」(主管:南陽工業高校)			防府市地域交流センター(アスピラート)
9 ~	10	県高校総合文化祭「書道部門」(主管:長府高校)			おのだサンパーク
	9	第26回高校生文芸道場中国ブロック大会(主管:広島県立広島国泰寺高等学校)			広島県:広島市東区民文化センター
	12	自主事業 青少年劇場小公演 はなしの伝統芸能「落語」			宇部西高校
15 ~	17	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管:長府高校)			下関市立美術館
	19	第1回専門部理事長会			山口中央高校
12	5 ~	第36回全国高等学校文化連盟研究大会(三重大会)			三重県四日市市:四日市市文化会館
	6	全国高等学校文化連盟実務担当者会議			三重県四日市市:四日市市文化会館
14 ~	15	第23回中国地区高等学校将棋選手権大会(主管:山口県立防府高等学校)			山口県周南市:徳山高校
14 ~	15	第27回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会(主管:岡山県立玉野光南高等学校 他)			岡山県倉敷市:児島武道館
20 ~	22	第62回中国地区高等学校演劇発表会(主管:島根県立松江工業高等学校)			島根県松江市:島根県民会館
21 ~	22	第28回中国高等学校囲碁選手権大会(主管:湯梨浜学園高等学校)			鳥取県倉吉市:倉吉体育文化会館
1	23	第2回専門部理事長会			山口中央高校
30 ~	1	第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会			長崎県長崎市:長崎県立総合体育館
2	1 ~	第10回中国地区高等学校放送コンテスト(主管:鳥取県立八頭高等学校)			鳥取県鳥取市:県立生涯学習センター
	20	第2回企画運営委員会			山口中央高校
3	8 ~	第20回全国高校生かるたグランプリ			東京都文京区:文京シビックセンター
	21	令和6年度中国地区高文連実務担当者会議			島根県浜田市:石中央文化ホール
	27	第43回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管:山口中央高校)			山口市民会館
【その他】 各専門部会……部会長校を中心に開催 各専門部研修会……県下各地において開催 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山管)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業4公演					

令和6年度 山口県高等学校文化連盟 会計決算書

R7.3.31

収入総額 32,081,557円
 支出総額 20,610,224円
 次年度繰越金 11,471,333円 (預金11,401,333 現金70,000)

収入の部		(単位：円)			
区 分		予 算 額	決 算 額	増減額 (減△)	摘 要
繰 越 金		10,943,603	10,943,603	0	預金10,873,603 現金70,000
加 盟 費		17,165,000	17,422,400	257,400	
内 訳	全 日 制	17,100,000	17,348,400	248,400	600円×28,914人 (令和5年度より175人減)
	定時制・ 総合支援学校	65,000	74,000	9,000	50円×1,480人 (令和5年度より130人増)
補 助 金		3,715,000	3,715,000	0	山口県より
内 訳	県 総 文 祭	1,710,000	1,710,000	0	主催 山防・長北地区
	全国総文祭	2,005,000	2,005,000	0	主催 岐阜県
調整基金から繰入		0	0	0	
雑 収 入 他		100	554	454	利息
合 計		31,823,703	32,081,557	257,854	

支出の部		(単位：円)			
区 分		予 算 額	決 算 額	残額(超過△)	摘 要
運 営 費		2,530,000	1,961,111	568,889	
内 訳	事 務 費	700,000	604,483	95,517	記念品 事務機器維持費 消耗品費 HP管理費等 県総文パネル パソコン更新(嘱託用)
	通 信 費	300,000	181,999	118,001	振込手数料 電話 郵便 Zoomライセンス料 運送料等
	分 担 金	530,000	519,800	10,200	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金 等	1,000,000	654,829	345,171	嘱託賃金 労災保険料
会 議 費		2,700,000	933,182	1,766,818	
内 訳	会 議 費	400,000	341,689	58,311	県内会議(高文連主催)旅費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	2,300,000	591,493	1,708,507	全国会議(東京) 中国地区会議(島根) 研究大会(徳島) 県内視察 全総文祭事務局旅費
事 業 費		22,494,000	15,715,931	6,778,069	
内 訳	県 総 文 祭	10,500,000	6,768,733	3,731,267	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	6,000,000	3,954,906	2,045,094	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自主事業	1,844,000	1,844,000	0	自主事業7公演 補助事業4公演
	大会補助金	350,000	350,135	△ 135	特別支援学校文化祭 NHK放送コンクール 中国大会(1部門)
	専門部会費	3,400,000	2,594,877	805,123	研修費 分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	350,000	203,280	146,720	集録 県総文がスカー 文化功労賞賞状
	中高連携費	50,000	0	50,000	
	調整基金	2,000,000	2,000,000	0	調整基金へ
予 備 費		2,099,703	0	2,099,703	
合 計		31,823,703	20,610,224	11,213,479	

令和6年度 調整基金会計決算額

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
9,000,000	2,000,000	11,000,000

上記の通り相違ありません
 令和7年4月14日

監事

古川 孝 晴

監事

久保田 力哉

令和7年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事 業	会 場
4	14	会計監査	山口中央高校
	22	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	9	評議員会	山口市：セントコア山口
	14	第47回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 令和6年度集録「高文連」発行	下関市民会館
24 ~	25	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：防府高校)	周南市徳山保健センター
	25	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：長府高校)	小野田高校 武道場
	27	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：星陵会館
	31	第72回NHK杯全国高校放送コンテスト山口県大会(主管：下関西高校)	山口県健康づくりセンター
6	3	山口県文化連盟 総会	山口市：かめ橋オンラインプレイス
	12	第47回県高校総合文化祭総合開会式(主管：長府高校)	下関市民会館
13 ~	14	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：豊浦高校・下関支部)	下関市民会館
	14	県高校総合文化祭「日本音楽・郷土芸能部門」(主管：下関短期大学付属高校)	下関市菊川ふれあい会館(アブニール)
	14	県高校総合文化祭「吟詠剣詩舞部門」(主管：下関中等教育学校)	下関市菊川ふれあい会館(アブニール)
	17	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	華陵高校
	30	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	下関総合支援学校
	27	中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	岡山県倉敷市：倉敷物語館
7	15	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	大津緑洋高校日置校舎
19 ~	21	小倉百人一首競技かるた第47回全国高等学校選手権大会	滋賀県大津市：近江神宮 近江勸学館
25 ~	31	(公社) 全国高等学校文化連盟各専門部会	香川県
26 ~	31	第49回全国高等学校総合文化祭(かがわ総文祭2025)	香川県
	27	(公社) 全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	香川県高松市
8		第47回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会	長府高校
23 ~	24	第36回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：新国立劇場中劇場
9	14	第28回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選(主管：慶進高校)	下関武道館
10	6	自主事業 青少年劇場小公演～みる・真似る・伝える～はせがわ天晴「マイムの時間」	山口中村学園高校
	10	自主事業 青少年劇場小公演～みる・真似る・伝える～はせがわ天晴「マイムの時間」	徳山総合支援学校
	10	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：下松高校)	下松高校
	11	第50回全国高等学校総合文化祭(あきた総文2026)プレ大会総合開会式	秋田県秋田市：あきた芸術劇場ミルハス
	15	自主事業 青少年劇場小公演 はなしの伝統芸能「落語」	宇部総合支援学校
	16	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	下関双葉高校
	19	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：徳山高校)	徳山高校
25 ~	26	県高校総合文化祭「演劇部門」(主管：宇部フロンティア大学付属香川高校)	不二輸送機ホール
	29	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	柳井高校
11	1	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：山口農業高校)	山口県健康づくりセンター
8 ~	9	山口県中学校文化連盟第21回総合文化祭 周南大会	周南市文化会館、周南市美術館
7 ~	9	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：岩国高校)	シンフォニア岩国
7 ~	9	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：西京高校)	アスピラート(防府市地域交流センター)
8 ~	9	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：長府高校)	おのだサンパーク
8 ~	9	第28回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会(主管：ノートルダム清心中・高等学校)	広島県：ノートルダム清心高校
	12	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	萩高校奈古分校
	14	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	山口中央高校
	15	第27回高校生文芸道場中国ブロック大会	スタービークだまつ
	18	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	下関北高校
		第1回専門部理事長会	山口中央高校
12	4 ~	第37回全国高等学校文化連盟研究大会(群馬大会)	群馬県高崎市：Gメッセ群馬
	5	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	群馬県高崎市：Gメッセ群馬
	13	県高校総合文化祭「弁論部門」(主管：徳山高校)	徳山高校
13 ~	14	第24回中国地区高等学校将棋選手権大会(主管：島根県立出雲高等学校)	島根県出雲市：出雲高校
20 ~	21	第63回中国地区高等学校演劇発表会(主管：岡山学芸館高等学校)	岡山県岡山市：岡山芸術創造劇場 ハレノワ
20 ~	21	第29回中国高等学校囲碁選手権大会(主管：島根県立出雲高等学校)	島根県出雲市：出雲高校
1		第2回専門部理事長会	山口中央高校
29 ~	31	第34回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	山形県天童市：
31 ~	1	第11回中国地区高等学校放送コンテスト(主管：岡山県立岡山芳泉高等学校)	岡山県倉敷市：倉敷市文芸館
2		第2回企画運営委員会	山口中央高校
		中国地区高文連実務担当者会議	岡山県倉敷市：倉敷物語館
3	14 ~	第21回全国高校生かるたグランプリ	東京都文京区：文京スポーツセンター
	24	第44回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：柳井高校)	サンビームやない
【その他】 各専門部会……部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会……県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演3公演 ※補助事業3公演			

令和7年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書・調整基金会計予算書

収入総額	32,420,833円
支出総額	32,420,833円

収入の部					(単位：円)
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要	
繰 越 金	11,471,333	10,943,603	527,730		
加 盟 費	17,234,000	17,165,000	69,000		
内 訳	全 日 制	17,160,000	17,100,000	60,000	600円×28,600人(令和6年度決算より約300人減で計算)
	定時制・ 総合支援学校	74,000	65,000	9,000	50円×1,480人(令和6年度決算と同数で計算)
補 助 金	3,715,000	3,715,000	0	山口県より	
内 訳	県 総 文 祭	2,120,000	1,710,000	0	主催 下関地区
	全 国 総 文 祭	1,595,000	2,005,000	0	主催 香川県
調整基金から繰入	0	0	0		
雑 収 入	500	100	400	利息等	
合 計	32,420,833	31,823,703	597,130		

支出の部					(単位：円)
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要	
運 営 費	2,580,000	2,530,000	50,000		
内 訳	事 務 費	700,000	700,000	0	記念品 事務機器維持費 消耗品費 HP管理費等 県総文パネル パソコン(事務局用)
	通 信 費	350,000	300,000	50,000	振込手数料 電話 郵便 Zoomライセンス料 運送料等
	分 担 金	530,000	530,000	0	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金 等	1,000,000	1,000,000	0	嘱託賃金 労災保険料
会 議 費	2,700,000	2,700,000	0		
内 訳	会 議 費	400,000	400,000	0	県内会議(高文連主催)旅費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	2,300,000	2,300,000	0	全国会議(東京) 中国地区会議(岡山) 研究大会(群馬) 県内視察 全総文祭理事長・事務局旅費
事 業 費	23,134,000	22,494,000	640,000		
内 訳	県 総 文 祭	10,500,000	10,500,000	0	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	5,500,000	6,000,000	△ 500,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自 主 事 業	1,924,000	1,844,000	80,000	自主事業8公演 補助事業3公演
	大会補助金	550,000	350,000	200,000	特別支援学校文化祭 NHK放送コンクール 中国大会(文芸)
	専門部会費	4,300,000	3,400,000	900,000	研修費 各専門部分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	300,000	350,000	△ 50,000	集録 県総文ポスター
	中高連携費	60,000	50,000	10,000	中高文連交流事業(周南市)
調 整 基 金	0	2,000,000	△ 2,000,000		
予 備 費	4,006,833	2,099,703	1,907,130		
合 計	32,420,833	31,823,703	597,130		

令和7年度 調整基金会計予算書

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
11,000,000	0	11,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目 的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化活動行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業。
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。)並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学の各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|------------|---------|
| (1) 会 長 | 1 人 |
| (2) 副会長 | 若干人 |
| (3) 評議員 | 各加盟校に1人 |
| (4) 支部長 | 7 人 |
| (5) 専門部会長 | 19 人 |
| (6) 専門部理事長 | 19 人 |
| (7) 監 事 | 2 人 |
| (8) 参 与 | 若干人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員の兼任は妨げない。

(役員職務)

第9条 役員職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする、ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会 議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げる通りとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 企画運営委員会
- (3) 理事長会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経 費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第 17 条 この連盟の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(会計経理)

第 18 条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 5 章 事 務 局

(事務局)

第 19 条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運 営)

第 20 条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 6 章 雑 則

第 21 条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 62 年 4 月 1 日制定
平成 元年 4 月 1 日改正
平成 2 年 4 月 1 日改正
平成 3 年 4 月 1 日改正
平成 4 年 4 月 1 日改正
平成 6 年 4 月 1 日改正
平成 8 年 4 月 1 日改正
平成 9 年 4 月 1 日改正
平成 15 年 4 月 1 日改正
平成 16 年 4 月 1 日改正
平成 18 年 4 月 1 日改正
平成 20 年 4 月 1 日改正
平成 21 年 4 月 1 日改正
平成 22 年 4 月 1 日改正
平成 23 年 5 月 6 日改正
平成 25 年 5 月 10 日改正
令和 6 年 5 月 10 日改正

山口県高等学校文化連盟諸規程

〔 会 計 規 程 〕

- 第1条 この規定は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え全ての経理内容を記入するものとする。
- 第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、加盟費を納入するものとする。

各在籍生徒数に以下の金額を乗じたもの。但し、在籍生徒数は当該年度5月1日現在とする。

(全日制生徒)	600円
(定時制、特別支援学校高等部生徒)	50円

- 第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成23年5月6日改正
令和元年5月10日改正

〔 事 務 局 規 程 〕

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
(1) 事務局長
(2) 事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第5条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成23年5月6日改正

[表 彰 規 程]

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めた者)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、各専門部において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。表彰は退職する年度または退職後に行う。ただし、専門部理事長を3期6年勤めた者は退任時に表彰することができる。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、第10条功績賞対象者のうち、全国高等学校総合文化祭表彰規定により表彰された部の指導を行った者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決する。本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

昭和62年4月 1日制定
昭和62年7月14日改正
平成 元年4月 1日改正
平成 2年4月 1日改正
平成 6年4月 1日改正
平成 8年4月 1日改正
平成15年4月 1日改正
平成18年4月 1日改正
平成24年5月11日改正
平成25年5月10日改正
平成26年5月 9日改正

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

〔旅費支給基準〕

- 第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費の引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）＋宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

ただし、特殊な事情がある場合はその都度協議し会長が決定する。

〔調整基金細則規定〕

- 第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。
第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。
第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。
第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の議決によりこれを処分することができる。

附 則

- 1 この規定は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

昭和62年4月 1日制定
昭和63年4月 1日改正
平成 元年4月 1日改正
平成11年4月 1日改正
平成13年4月 1日改正
平成16年4月 1日改正
平成22年4月 1日改正
平成28年5月13日改正

令和6年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名		氏 名	所 属 校
会 長		山田 芳彦	山 口 中 央 高 校
副 会 長		浅原 正和	徳 山 高 校
		国清 賢一	宇 部 高 校
		廣川 晋	聖 光 高 校
参 与		梅田 憲和	山 口 高 校
支 部 長	岩 国 支 部	大田真一郎	岩 国 高 校
	柳 井 支 部	松本 剛	柳 井 高 校
	徳 山 支 部	浅原 正和	徳 山 高 校
	山 防 支 部	大下康一郎	防 府 高 校
	宇 部 支 部	国清 賢一	宇 部 高 校
	下 関 支 部	宮村 和幸	下 関 西 高 校
	長 北 支 部	岩崎 和弘	萩 高 校
監 事		村山 晋一	防 府 商 工 高 校
		古川 幸隆	西 京 高 校

専門部

専門部	会 長	理事長	所 属 校
演 劇	村上 浩昭	石田 千晶	光 高 校
合 唱	岩崎 和弘	富川 沙輝	萩 高 校
吹 奏 楽	国清 賢一	中村 亮	宇 部 高 校
器 楽 ・ 管 弦 楽	松本 剛	宮本 敬司	柳 井 高 校
日 本 音 楽	家入林太郎	森川 理恵	柳 井 学 園 高 校
吟 詠 剣 詩 舞	山本 泰之	山口 知子	下 関 中 等 教 育 学 校
郷 土 芸 能	家入林太郎	森川 理恵	柳 井 学 園 高 校
マーチングバンド・バトントワリング	金石 芳朗	内田 良一	山 口 県 鴻 城 高 校
美 術 ・ 工 芸	小濱富美代	友廣 洋	サ ビ エ ル 高 校
書 道	原田 成光	鏡 証子	美 祢 青 嶺 高 校
写 真	齊藤英一郎	尾崎 勝利	南 陽 工 業 高 校
放 送	廣田 正治	藤山 正和	山 口 農 業 高 校
囲 碁	浅原 正和	斉藤 禎	徳 山 高 校
将 棋	大下康一郎	山下 和希	防 府 高 校
弁 論	浅原 正和	福田 美紀	徳 山 高 校
小 倉 百 人 一 首 か る た	天尾 昇一	松崎 砂織	長 府 高 校
新 聞	国清 賢一	大野 綾香	宇 部 高 校
文 芸	柴崎 太志	萬 右文	下 松 高 校
自 然 科 学	梅田 憲和	入江 壽朗	山 口 高 校

事務局

職 名	氏 名	所 属 校
事 務 局 長	上田 憲明	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (総 務)	河本 展子	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (会 計)	山本 直美	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (庶 務)	丸山 智子	嘱 託

令和7年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名		氏 名	所 属 校
会 長		山田 芳彦	山 口 中 央 高 校
副 会 長		浅原 正和	徳 山 高 校
		縄田 功	宇 部 高 校
		廣川 晋	聖 光 高 校
参 与		梅田 憲和	山 口 高 校
支 部 長	岩 国 支 部	大田真一郎	岩 国 高 校
	柳 井 支 部	松本 剛	柳 井 高 校
	徳 山 支 部	浅原 正和	徳 山 高 校
	山 防 支 部	大下康一郎	防 府 高 校
	宇 部 支 部	縄田 功	宇 部 高 校
	下 関 支 部	内田 正弘	下 関 西 高 校
監 事	長 北 支 部	山本 泰之	萩 高 校
		久保田力哉	防 府 商 工 高 校
		古川 幸隆	西 京 高 校

専門部

専門部	会 長	理事長	所 属 校
演 劇	中村 直樹	石田 千晶	光 高 校
合 唱	山本 泰之	久野 沙輝	萩 高 校
吹 奏 楽	縄田 功	中村 亮	宇 部 高 校
器 楽・管 弦 楽	松本 剛	宮本 敬司	柳 井 高 校
日 本 音 楽	廣川 晋	山中 文	聖 光 高 校
吟 詠 剣 詩 舞	吉村 勇治	山口 知子	下 関 中 等 教 育 学 校
郷 土 芸 能	廣川 晋	山中 文	聖 光 高 校
マーチングバンド・バトントワリング	原田 孝浩	内田 良一	山 口 県 鴻 城 高 校
美 術 ・ 工 芸	小濱富美代	友廣 洋	サ ビ エ ル 高 校
書 道	宮村 和幸	鏡 証子	美 祢 青 嶺 高 校
写 真	古川 幸隆	尾崎 勝利	西 京 高 校
放 送	廣田 正治	藤山 正和	山 口 農 業 高 校
囲 碁	浅原 正和	斉藤 禎	徳 山 高 校
将 棋	大下康一郎	山下 和希	防 府 高 校
弁 論	浅原 正和	福田 美紀	徳 山 高 校
小倉百人一首かるた	山本 徳子	小田 健太	小 野 田 高 校
新 聞	縄田 功	大野 綾香	宇 部 高 校
文 芸	柴崎 太志	古谷 志都	下 松 高 校
自 然 科 学	梅田 憲和	入江 壽朗	山 口 高 校

事務局

職 名	氏 名	所 属 校
事 務 局 長	上田 憲明	山 口 中 央 高 校
事 務 局 次 長	田村 早紀	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (総 務)	河本 展子	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (会 計)	山本 直美	山 口 中 央 高 校
事 務 局 員 (庶 務)	丸山 智子	嘱 託

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向 川 栄 美 作 詞
乗 松 美 紀 作 曲

1. てをのばせば ほら きつと だれかが ささえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかが こたえて くれる

みーわ たせー ば ほら なかまが いつでも そばに いる きみ
こころ をひらけ ば ほら なかまは いつでも まって いる きみ

は ひとりじゃない さあ あは る き だ そ う
は ひとりじゃない さあ あは る き だ そ う

ぼくら のぶんか を つく る た め ー に
ぼくら のぶんか を つく る た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔こう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟

「高文連」編集委員

(各部門)

演	劇	石 田 千 晶	(光 高 等 学 校)
合	唱	富 川 沙 輝	(萩 高 等 学 校)
吹	奏	中 村 亮	(宇 部 高 等 学 校)
器 楽・管 弦 楽		宮 本 敬 司	(柳 井 高 等 学 校)
日本音楽・郷土芸能		森 川 理 恵	(柳井学園高等学校)
吟 詠 剣 詩 舞		山 口 知 子	(下関中等教育学校)
マーチングバンド・バントラング		内 田 良 一	(山口県鴻城高等学校)
美 術 ・ 工 芸		友 廣 洋	(サビエル高等学校)
書	道	鏡 証 子	(美祢青嶺高等学校)
写	真	尾 崎 勝 利	(南陽工業高等学校)
放	送	藤 山 正 和	(山口農業高等学校)
囲	碁	齊 藤 禎	(徳 山 高 等 学 校)
将	棋	山 下 和 希	(防 府 高 等 学 校)
小倉百人一首かるた		松 崎 砂 織	(長 府 高 等 学 校)
新	聞	大 野 綾 香	(宇 部 高 等 学 校)
文	芸	萬 右 文	(下 松 高 等 学 校)
自 然 科 学		入 江 壽 朗	(山 口 高 等 学 校)

事 務 局 長	上 田 憲 明	(山 口 中 央 高 校)
事 務 局 員 (総 務)	河 本 展 子	(山 口 中 央 高 校)
事 務 局 員 (会 計)	山 本 直 美	(山 口 中 央 高 校)
事 務 局 員 (庶 務)	丸 山 智 子	嘱 託

令和6年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／岩本 美奈
(光高等学校2年)
題名「虚妄の正義」

